

令和8年度

# 学 生 便 覧

大阪大学大学院理学研究科

# 令和8(2026)年度 理学研究科行事予定表

学期	月	日(曜)	学 務 事 項	
春 夏学期	4	1(水)	大学院新入生オリエンテーション(於:理学研究科)	
		2(木)	入学式 博士論文題目届提出期限(6月審査分)	
		3(金)	学生定期健康診断(新入学生)(~4/7※土日は除く)	
		6(月)	春~夏学期(通年科目を含む)履修登録開始(4/6 14:00~4/19 16:30)	
		8(水)	学生定期健康診断(豊中地区学生)(~4/13※土日は除く)	
		10(金)	春~夏学期(~9/30)、春学期(~6/12)授業開始(5/8は水曜日の振替授業)	
		20(月)	学生定期健康診断(吹田地区学生)(~4/27※土日は除く)	
		22(水)	履修取消期間(4/22 9:30~4/28 16:30)	
	5	30(木)	いちよう祭準備	
		1(木)	いちよう祭(~5/2)、大阪大学創立記念日	
		3(日)	いちよう祭片付け	
	6	6(水)	課程博士学位申請書類提出期限(6月審査分)	
		4(木)	夏学期履修登録開始(6/4 9:30~6/25 16:30)	
		8(月)	試験実施期間 春学期開講科目(6/8~6/12)	
		12(金)	春学期授業終了	
		15(月)	夏学期(~9/30)授業開始	
		18(木)	博士論文題目届提出期限(9月審査分)	
		26(金)	履修取消期間(6/26 9:30~7/3 16:30)	
		7	27(月)	課程博士学位申請書類提出期限(9月審査分)
			4(火)	試験実施期間 春~夏学期、夏学期開講科目(8/4~8/10)
		8	10(月)	春~夏学期、夏学期授業終了
	11(火)		夏季休業(~9/30)	
	下旬		秋季入学者研究概要報告書受付(博士前期・後期課程修了予定者を除く)	
	9	1(火)	成績閲覧開始 年度跨り、春~夏学期、春学期、夏学期	
		13(日)	秋~冬学期(秋入学通年科目を含む)履修登録開始(9/13 9:30~10/14 16:30)	
		24(木)	博士論文題目届提出期限(12月審査分)	
		25(金)(予定)	修士・博士学位記授与式(理学研究科)	
		30(水)	夏季休業終了	
秋 冬学期	10	1(木)	秋~冬学期(~3/31)、秋学期(~12/2)授業開始(10/16、11/5は月曜日の振替授業)	
		15(木)	履修取消期間(10/15 9:30~10/21 16:30)	
		31(土)	大学祭準備	
	11	1(日)	大学祭(~11/3)(授業休業)	
		4(水)	課程博士学位申請書類提出期限(12月審査分) 大学祭片付け(授業休業)	
		27(金)	試験実施期間 秋学期開講科目(11/26~12/2) 冬学期履修登録開始(11/27 9:30~12/16 16:30)	
	12	2(水)	秋学期授業終了	
		3(木)	冬学期(~3/31)授業開始	
		17(木)	履修取消期間(12/17 9:30~12/23 16:30)	
		28(月)	冬季休業(~1/3)	
	1	4(月)	授業再開 博士論文題目届提出期限(3月審査分)	
		15(金)	大学入学共通テスト準備日(授業休業)	
26(火)		博士前期・後期課程修了予定者の学位論文受付(1/26~1/27)		
28(月)		試験実施期間 秋~冬学期、冬学期開講科目(1/28、2/2~2/3、2/5~2/8)		
4(木)		授業休業		
2	8(月)	秋~冬学期、冬学期授業終了		
	下旬	春季入学者研究概要報告書受付(博士前期・後期課程修了予定者を除く)		
	1(月)	成績閲覧開始 通年、秋~冬学期、秋学期、冬学期		
3	中旬	修士・博士課程修了者発表		
	25(木)	修士・博士学位記授与式(大阪城ホール)		

注1 大学入学共通テストおよび大阪大学前期日程入学試験の際には、その準備および実施のため、理学部棟への入館が制限されます。

注2 上記日程等は変更されることがあります。変更が生じる場合はKOAN掲示などお知らせします。

# 令和8(2026)年度 理学研究科 学年暦

○数字：ターム科目授業日 試：ターム科目試験日 ○数字：セメスター科目授業日 試：セメスター科目試験日

月/曜	日	月	火	水	木	金	土	
令和8年 (2026)				新入生オリエンテーション 1	入学式 2	3	4	
	5	6	7	8	9	①① 10	11	
	4月	12	①① 13	①① 14	①① 15	①① 16	②② 17	18
		19	②② 20	②② 21	②② 22	②② 23	③③ 24	25
		26	③③ 27	③③ 28	昭和の日 29	いちよう祭準備 30		
						いちよう祭創立記念日 1	いちよう祭 2	
	5月	3	いちよう祭片付け 憲法記念日 3	みどりの日 4	こどもの日 5	振替休日 6	③③ 7	③③※1 8
10		④④ 11	④④ 12	④④ 13	④④ 14	④④ 15	16	
17		⑤⑤ 18	⑤⑤ 19	⑤⑤ 20	⑤⑤ 21	⑤⑤ 22	23	
24		⑥⑥ 25	⑥⑥ 26	⑥⑥ 27	⑥⑥ 28	⑥⑥ 29	30	
31		※1 5月8日は水曜日の振替授業						
6月		1	⑦⑦ 1	⑦⑦ 2	⑦⑦ 3	⑦⑦ 4	⑦⑦ 5	6
		7	⑧⑧ 8	⑧⑧ 9	⑧⑧ 10	⑧⑧ 11	⑧⑧ 12	13
	14	①⑨ 15	①⑨ 16	①⑨ 17	①⑨ 18	①⑨ 19	20	
	21	②⑩ 22	②⑩ 23	②⑩ 24	②⑩ 25	②⑩ 26	27	
	28	③⑪ 29	③⑪ 30					
	7月	5	④⑫ 6	④⑫ 7	④⑫ 8	④⑫ 9	④⑫ 10	11
		12	⑤⑬ 13	⑤⑬ 14	⑤⑬ 15	⑤⑬ 16	⑤⑬ 17	18
19		海の日 20	⑥⑭ 21	⑥⑭ 22	⑥⑭ 23	⑥⑭ 24	25	
26		⑥⑭ 27	⑦⑮ 28	⑦⑮ 29	⑦⑮ 30	⑦⑮ 31		
8月		1			③⑪ 1	③⑪ 2	③⑪ 3	4
		5	④⑫ 6	④⑫ 7	④⑫ 8	④⑫ 9	④⑫ 10	11
		12	⑤⑬ 13	⑤⑬ 14	⑤⑬ 15	⑤⑬ 16	⑤⑬ 17	18
	19	海の日 20	⑥⑭ 21	⑥⑭ 22	⑥⑭ 23	⑥⑭ 24	25	
	26	⑥⑭ 27	⑦⑮ 28	⑦⑮ 29	⑦⑮ 30	⑦⑮ 31		
	2	⑦⑮ 3	⑧⑯ 4	⑧⑯ 5	⑧⑯ 6	⑧⑯ 7	8	
	9	⑧⑯ 10	山の日 11	一斉休業 12	一斉休業 13	一斉休業 14	15	
16	17	18	19	20	21	22		
23/30	24/31	25	26	27	28	29		
9月	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	敬老の日 21	国民の休日 22	秋分の日 23		学位記授与式(予定) 25	26	
	27	28	29	30				

月/曜	日	月	火	水	木	金	土	
令和8年 (2026)					①① 1	①① 2	3	
	4	①① 5	①① 6	①① 7	②② 8	②② 9	10	
	10月	11	スポーツの日 12	②② 13	②② 14	③③ 15	②②※2 16	17
		18	③③ 19	③③ 20	③③ 21	④④ 22	③③ 23	24
		25	④④ 26	④④ 27	④④ 28	⑤⑤ 29	④④ 30	大学祭準備 31
	※2 10月16日は月曜日の振替授業							
	11月	1	大学祭 1	大学祭 2	文化の日 大学祭 3	大学祭 片付け 4	⑤⑤※3 5	⑤⑤ 6
8		⑥⑥ 9	⑤⑤ 10	⑤⑤ 11	⑤⑤ 12	⑥⑥ 13	14	
15		⑦⑦ 16	⑥⑥ 17	⑥⑥ 18	⑥⑥ 19	⑦⑦ 20	21	
22		勤労感謝の日 23	⑦⑦ 24	⑦⑦ 25	⑧⑧ 26	⑧⑧ 27	28	
29		⑧⑧ 30						
※3 11月5日は月曜日の振替授業								
12月		6	①⑨ 7	①⑨ 8	①⑨ 9	②⑩ 10	②⑩ 11	12
	13	②⑩ 14	②⑩ 15	②⑩ 16	③⑪ 17	③⑪ 18	19	
	20	③⑪ 21	③⑪ 22	③⑪ 23	④⑫ 24	④⑫ 25	26	
	27	28	29	30	31			
	令和9年 (2027)	3	④⑫ 4	④⑫ 5	④⑫ 6	⑤⑬ 7	⑤⑬ 8	9
		10	成人の日 11	⑤⑬ 12	⑤⑬ 13	⑥⑭ 14	試験準備 15	大学入学 共通テスト 16
		17	⑤⑬ 18	⑥⑭ 19	⑥⑭ 20	⑦⑮ 21	⑥⑭ 22	23
24/31		⑥⑭ 25	⑦⑮ 26	⑦⑮ 27	⑧⑯ 28	⑦⑮ 29	30	
1月		1	⑦⑮ 1	⑧⑯ 2	⑧⑯ 3	4	⑧⑯ 5	6
		7	⑧⑯ 8	9	10	建国記念の日 11	12	13
		14	15	16	17	18	19	20
	21	22	天皇誕生日 23	試験準備 24	個別学力検査 25	26	27	
	28							
	2月	1	⑦⑮ 1	⑧⑯ 2	⑧⑯ 3	4	⑧⑯ 5	6
		7	⑧⑯ 8	9	10	建国記念の日 11	12	13
14		15	16	17	18	19	20	
21		22	天皇誕生日 23	試験準備 24	個別学力検査 25	26	27	
28								
3月		1	2	3	4	5	6	
		7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	春分の日 21	振替休日 22	23	24	学位記授与式 25	26	
	27	28	29	30	31			

■■■■ ・・・土・日・祝日及び休業日を示す。

■■■■ ・・・大学行事による臨時休業及び入試のための臨時休業日(予定)を示す。

2/9~3/31 ・・・調整期間(論文発表会等を実施)

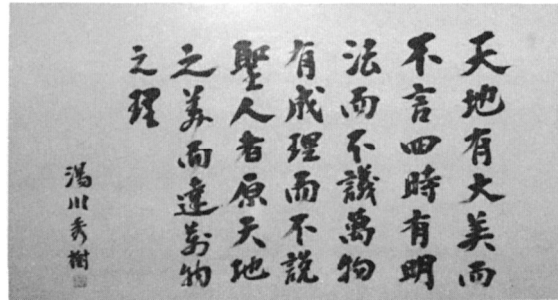




上の写真の書

勿嘗糟粕 甲戌夏日 樂 水

は理学研究科本館大講義室（D501）に掲げられている額です。楽水とは、有名な物理学者で、第1回文化勲章を受章された本学初代総長 長岡半太郎先生の雅号です。甲戌は昭和9年に当たり、この年の4月に大阪市内の中之島に理学部の旧建物が竣工しています。「勿嘗糟粕」は糟粕を嘗る勿れと読みます。辞書によると、糟粕とは酒のしぼりかすで、転じて、「滋味をとりさった不用物、精神のない遺物」とあり、また、糟粕をなめるとは、「作った人の精神を汲みとらず、形だけまねることをするな」と解説しています。従って、この書は科学を志す者にとって貴重な教訓といえましょう。



上の写真の書

天地有大美而不言      四時有明法而不議  
萬物有成理而不說      聖人者原天地之美  
而達萬物之理

は理学研究科長室に掲げられている額で、湯川秀樹先生の筆になるものです。この句の出典は「莊子」で、その最終編第4節の冒頭に出ているもので、「天地は大美有れども、而も言わず。四時は明法有れども、而も議せず。萬物は成理有れども、而も説かず。聖人は天地の美を原(たづ)ねて萬物の理に達す」と読みます。本学名誉教授森三樹三郎先生は次のように訳されました。「天地は萬物を生育するという、すぐれた働きをもちながらも、それを口に出して語る事ができない。春夏秋冬の四時は、明らかな法則をそなえながらも、みずからこれを論じたてることができない。萬物はそれぞれに完成した理をそなえながらも、みずからこれを説くことはない。聖人とは、この天地のすぐれた働きのありかたをたづね、萬物の理に達した人間のことをいうのである」。

また、James Legge 氏により次のように英訳されています。

(The operations of )Heaven and Earth proceed in the most admirable way, but they say nothing about them; the four seasons observe the clearest laws, but they do not discuss them; all things have their complete and distinctive constitutions, but they say nothing about them. The sages trace out the admirable operations of Heaven and Earth. and reach to and understand the distinctive constitutions of all things ..

(F. M. Muller; The Sacred Books of the East, vol. 40, 1891 より)

## 目 次

1. 大阪大学大学院理学研究科の沿革	1
2. 学生心得（学生としての生活について）	2
3. 教育職員免許状取得について	5
4. 理学研究科教育プログラム	6
1) 履修方法等	6
2) 履修手続きの流れ	13
3) シラバスについて	13
4) 集中講義について	13
5) グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度について	13
6) 学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム （Double-Wing Academic Architecture, DWAA）について	14
7) STEP10	19
8) 高度理系教員養成プログラム（aSTEP）	19
9) 他大学院での科目等履修について	19
10) 長期履修学生制度	20
11) 国際交流・留学	20
12) 学位論文に係る評価に当たっての基準について	21
13) 修士論文及び博士論文提出に関する申請手続概要について	23
5. 授業料の免除及び奨学金	24
1) 入学科免除・授業料免除等について	24
2) 日本学生支援機構奨学金（外国人留学生を除く）について〈貸与・給付〉	24
3) 地方公共団体及び民間奨学団体奨学金（外国人留学生を除く）について	25
6. 健康及び災害傷害保険関係	26
1) 健康診断	26
2) キャンパスライフ健康支援・相談センター 保健管理部門	26
3) 学生教育研究災害傷害保険について	26
7. 学生相談	27
1) 学生相談員（理学部・理学研究科）	27
2) なんでも相談室（理学部・理学研究科）	27
3) 理学ウェルビーイング支援室	28
4) 就職担当教員（理学部・理学研究科）	28
5) キャリア支援室（理学部・理学研究科）	28
6) 留学生相談室（理学部・理学研究科）	28
7) ハラスメント相談員（理学部・理学研究科）	29
8) キャンパスライフ健康支援・相談センター 相談支援部門（全学）	29
9) キャンパスライフ健康支援・相談センター ハラスメント相談室（全学）	30
10) キャリアセンター（全学）	30
8. 理学研究科建物への入館	31
9. 理学研究科ホームページ	31
10. 理学研究科情報資料室	32
11. 修学上の注意	33
1) 気象警報発表時等における授業の取扱いについて	33
2) 理学研究科開講の授業・試験欠席の取扱いについて	35
3) 不正行為を行った場合の取扱いについて	36
12. 海外渡航届システム	36
13. 国際交流サロン	36
付 録	
大阪大学大学院理学研究科規程	37
大学院理学研究科授業担当等教員名簿	69
理学研究科・理学部 建物配置図	81
講義室等案内図	82



# 1. 大阪大学大学院理学研究科の沿革

本研究科は、1933年から旧制大学院学生を受け入れ、その教育・研究を開始した。1943年からは大学院特別研究生の受け入れも行い、1961年までに総計361名の大学院学生を教育し、旧制大学院の使命を果たした。1953年に、新学制による理学研究科が、数学系1、物理学系3、化学系2および生物学系2の計8専攻の構成で発足した。その後1963年に高分子学専攻が増設され、1966年に物理学系3専攻が物理学専攻に統合され、また1995年には宇宙地球科学専攻が新設された。さらに1996年から大学院重点化により、理学研究科は数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物科学専攻、高分子科学専攻、宇宙地球科学専攻の6専攻に再編成された。

本研究科の講義及び研究指導は、理学研究科の教員のほか、放射線科学基盤機構、全学教育推進機構、社学共創本部、安全衛生管理部、情報科学研究科、生命機能研究科、微生物病研究所、産業科学研究所、蛋白質研究所、レーザー科学研究所、核物理研究センター、サイバーメディアセンターなどに所属する教員によって行われている。また、連携・招へい枠を使って、国立研究開発法人産業技術総合研究所、同情報通信研究機構、同医薬基盤・健康・栄養研究所、独立行政法人理化学研究所、公益財団法人サントリー生命科学財団、株式会社ペプチド研究所、株式会社JT生命誌研究館、武田薬品工業株式会社など、学外の研究機関からの、本研究科の研究と教育への参画も行われている。なお、大学院重点化に伴い、前期（修士）課程及び後期（博士）課程の入学定員は、それぞれ117名、59名から288名、140名へと大幅に増員されたが、2002年に生命機能研究科及び情報科学研究科が新設されたことにより、前期課程は258名、後期課程は126名と入学定員の改定が行われ、その後、2007年の大阪外国語大学との統合により、前期課程の入学定員は266名となった。

最近の科学の急速な発展に柔軟に対応しうる優秀な人材を育成するために、1989年に学校教育法施行規則が改正され、学部3年次から大学院に進学できる、いわゆる「飛び級」の受験が認められるようになった。本研究科は、これを直ちに実施し、1991年度に2名を合格させた。これは全国で初めてのことである。その後、2025年度までに36名の学生が3年次から大学院に進学している。

なお、2025年3月現在で新制度の理学修士の学位取得者は11,587名、理学博士の学位取得者は4,082名（うち、課程博士3,265名、論文博士817名）である。また、旧制度の理学博士の学位取得者は621名で、この中には湯川秀樹博士も含まれている。

付 表（2026年度）

		理 学 研 究 科						
専 攻		数 学	物 理 学	化 学	生物科学	高分子科学	宇宙地球科学	計
入 学 定 員	前 期	32	68	60	54	24	28	266
	後 期	16	33	30	23	11	13	126

## 2. 学生心得（学生としての生活について）

大学院生の諸手続きは、理学研究科大学院係窓口で行います。

また、学生の修学上必要な事項についての通知は、原則として掲示により行います。理学研究科 A棟 1階 通用口横の掲示板、および学務情報システム（KOAN）の掲示板を確認するよう心がけてください。

また、学生生活全般については、大阪大学ホームページの「学生生活・学生支援」を参照してください。

### 1-1. 願について

提出先 大学院係

提出書類	摘要
在学期間延長願	提出時期：修了時期の3ヶ月前 ----- 博士後期課程在学3年以上の者で、かつ6月または12月修了を予定している場合は提出してください。
在学年限延長願	提出時期：在学年限満了の2ヶ月前 ----- 博士後期課程在学年限（5年）を越える者で、特別の事情がある場合は在学年限の延長が認められる場合があります。
留 学 願	提出時期：留学開始2ヶ月前 ----- 留学しようとする場合は、研究科長の許可を得て留学することができます。 ※留学期間が3ヶ月未満の場合は提出不要
休 学 願	提出時期：1ヶ月前（但し年度末は2ヶ月前） ----- 病気その他の理由により3ヶ月以上修学を中断しようとする場合は、研究科長の許可を得て、その学年の終わりまで休学することができます。 (1) 休学期間は在学年数には算入されませんが、学年は進行します。 (2) 許可された休学期間が学期の途中からである場合は、原則その学期または学年に開講している授業科目を履修することは認められません。 (3) 前期課程においては通算2年、後期課程においては通算3年の期間を越えて休学することはできません。 (4) 休学する場合の授業料の取り扱いについて、3月までに前期（4～9月）の休学を許可された場合又は9月までに後期（10月～3月）の休学を許可された場合は、免除されます。学期の途中から願い出て休学する場合は、大学院係に詳細を確認してください。
復 学 願	提出時期：1ヶ月前（但し年度末は2ヶ月前） ----- 休学の理由が解消し履修を再開しようとする場合は、研究科長の許可を得て復学することができます。ただし、病気等で医師の診断書に基づく休学を許可された者は「医師の診断書」を添えて願い出てください。 学期の途中で復学した場合は、原則その学期または学年に開講している授業科目を履修することは認められません。



<p>学力に関する証明書、 教育職員免許状取得 見込証明書</p>	<p>教職課程に関する証明書交付は、理学研究科学務係において行います。所定の交付願により、必要とする日の1週間前（休日が入る場合はその日数を加算）までに願い出てください。なお、時期により1週間以上かかる場合がありますので、お早めに願い出てください。</p> <p>・理学研究科ホームページ「各種証明書の発行」 <a href="https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/certificate/studente_ce/">https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/certificate/studente_ce/</a></p>
---	--

\*教務・大学院関係等行事により証明書発行業務が停止する場合は、掲示等により通知します。

## 2-2. 証明書自動発行機について

発行できる証明書	設置場所等
<p>1. 学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証） （有効期限：発行日から3ヶ月）</p> <p>2. 在学証明書</p> <p>3. 成績証明書</p> <p>4. 修了見込証明書（※1）</p> <p>5. 健康診断証明書（※2）</p>	<p>豊中地区 豊中学生センター（2台） 全学教育管理・講義A棟</p> <p>吹田地区 吹田学生センター1階 医学部医学科共通棟1階 工学部管理棟1階（2台）</p> <p>箕面地区 外国学研究講義棟2階 就職情報コーナー横</p>

※1 修了見込証明書は、前期課程は2年次から、後期課程は博士論文題目届提出の2～4週間後から発行できます。

※2 健康診断証明書は、定期健康診断受検者のみ発行可能です。また、受検状況等によっては証明書自動発行機で発行できない場合があります。その場合はキャンパスライフ健康支援・相談センターに問い合わせてください。

## 2-3. 学生証の再交付について

交付事務 学生センター

種類	摘要
<p>学生証の再交付</p>	<p>学生証を紛失・破損等したときは、豊中・吹田学生センターで再交付手続きをしてください。なお、理学研究科建物への入館システムを利用するには、再交付後、理学研究科庶務係に申し出てください。</p>

### 3. 教育職員免許状取得について

- (1) 大学を除く全ての国公立学校の教育職員（常勤、非常勤を問いません）になるためには、それぞれの校種・教科に応じた教育職員免許状を有する必要があります。
- (2) 大学院理学研究科は、中学校教諭、高等学校教諭の専修免許状「数学」「理科」を取得できる課程として認定されています。また、理学部は、中学校教諭、高等学校教諭の一種免許状「数学」「理科」を取得できる課程として認定されています。
- (3) 令和8年4月3日（金）に教職課程ガイダンスが行われます。教職課程ガイダンスは、翌年以降も同じ時期に開催される予定です。詳細はKOANの掲示板を参照してください。
- (4) 教育職員免許状の取得についての詳細は、大阪大学教育課程委員会が作成する「**大阪大学【教職課程ブックレット】1 教職課程への招待 教育職員免許状取得ガイド**」（以下「ブックレット」とします）をご覧ください。このブックレットは、上記の教職課程ガイダンスで配布するほか、理学研究科学務係でも入手可能です。
- (5) 専修免許状を取得するために必要な「教職課程 大学が独自に設定する科目表」は、理学研究科学務係で配布します。なお、専修免許状を取得するためには、同表により必要な単位を修得するだけでなく、一種免許状の取得要件を満たしている必要があります。詳細は、上記の教職課程ガイダンス及びブックレットで確認してください。

[注] 教職課程に関する連絡事項はKOANの掲示板に掲載されます。見逃すことのないように注意してください。

## 4. 理学研究科教育プログラム

### 1) 履修方法等

#### (A) 科目区分について

- 履修方法については以下および自専攻の（B）専攻別修了要件」を熟読してください。

#### 2. 博士前期課程

- 「専門教育科目」、「高度教養教育科目」、「高度国際性涵養教育科目」の3つの科目群より単位の修得が必要です。各科目群の必要単位数は、下記表および「（B）専攻別修了要件」を確認してください。

博士前期課程修了要件単位数

	数学	物理学	化学	生物科学	高分子科学	宇宙地球科学
専門教育科目	28	30	30	28	32	19
高度教養教育科目	1	1	1	1	1	1
高度国際性涵養教育科目	1	1	1	1	1	2
自由選択	0	0	0	2	0	8
合計（単位）	30	32	32	32	34	30

各科目群の構成科目は以下のとおりです。

- 専門教育科目は次の科目により構成されます。
    - 自専攻の専門教育科目
    - 研究科共通科目のうち専門教育科目として開講される科目
  - 高度教養教育科目は次の科目により構成されます。
    - 研究科共通科目のうち高度教養教育科目として開講される科目
    - 他専攻の専門教育科目
    - 他研究科の専門教育科目・コミュニケーションデザイン科目・COデザイン科目・全学教育推進機構が開講する学際融合教育科目・博士課程教育リーディングプログラム科目のうち高度教養教育科目として開講される科目
  - 高度国際性涵養教育科目は次の科目により構成されます。
    - 自専攻の高度国際性涵養教育科目
    - 研究科共通科目のうち高度国際性涵養教育科目として開講される科目
    - 他専攻の高度国際性涵養教育科目
    - 他研究科の高度国際性涵養教育科目・マルチリンガル教育科目・国際交流科目・博士課程教育リーディングプログラム科目のうち高度国際性涵養教育科目として開講される科目
- \* 自専攻専門教育科目のうち、高度国際性涵養教育科目にも該当する科目の単位を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として認定されます。ただし、高度国際性涵養教育科目の修了要件単位数が満たされている場合は、専門教育科目の単位として認定されます。

\* 他専攻の専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目の性質も有する科目（科目区分「専門教育科目」「高度国際性涵養教育科目」の両方に○がある科目）を修得した場合は、高度教養教育科目の単位として認定されます。

\* 他部局が「高度国際性涵養教育科目」「高度教養教育科目」として提供する科目は理学研究科HPに掲載しています。

【理学研究科HP】

[https://www.sci.osakau.](https://www.sci.osakau.ac.jp/ja/graduateschool/studenthandbook_coursesdescription_etc_g/courseschedule/)

[ac.jp/ja/graduateschool/studenthandbook\\_coursesdescription\\_etc\\_g/courseschedule/](https://www.sci.osakau.ac.jp/ja/graduateschool/studenthandbook_coursesdescription_etc_g/courseschedule/)



b. 上記の科目のうち、(2)(ウ)または(3)(エ)に属する科目を履修する場合は、指導教員の許可を必要とします。履修登録前に指導教員と相談した後に、「履修登録確認表」にある該当科目に指導教員の押印が必要です。

c. 生物科学・高分子科学専攻の博士前期課程の学生が、自専攻の博士後期課程配当科目を履修し、修了要件単位として認定を受ける場合も、指導教員の許可を必要とします。上記 b. に準拠した手続きを行ってください。ただし、生物科学専攻の「生物科学特別講義Ⅰ～Ⅷ」並びに物理学、宇宙地球科学専攻については、手続きは不要です。

d. 生物科学専攻および宇宙地球科学専攻の自由選択は、専門教育科目、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目のすべての科目が対象となります。また、生物科学専攻では、科学技術論A・Bの修了要件単位としての認定は合計で2単位を限度とします。科学技術論A・Bの単位を3単位以上修得しても、高度教養教育科目および自由選択の修了要件単位として認められるのは2単位までです。

### 3. 博士後期課程

a. 修了要件については、「(B) 専攻別修了要件」を確認してください。

b. 研究科共通科目、他専攻、他研究科の科目、または本学の研究科を横断して開設されるプログラム（基礎理学計測学、ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育訓練プログラム、COデザインセンター、数理・データ科学教育研究センター等）の科目を履修し、修了要件単位として認定を受けるためには、指導教員の許可を必要とします。履修登録前に指導教員と相談した後に、「履修登録確認表」にある該当科目に指導教員の押印が必要です。

c. なお、理学研究科が実施部局となる大学院等高度副プログラムに関する科目には、開講科目表の備考欄に印を付しています（◆：基礎理学計測学）。また、理学研究科で開設するナノ教育訓練プログラムに関する科目には、開講科目表の備考欄にナノ教育プログラムと記入してあります。

## (B) 専攻別修了要件

### 1. 数学専攻

#### A. 前期課程

a. 前期課程においては、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上、専門教育科目からセミナー科目18単位と講義科目10単位以上、合計30単位以上の修得を要します。

b. 慶應義塾大学理工学部の教員による集中講義形式の授業があります。（詳細についてはシラバスを参照してください）

- c. セミナー（必修、4.5単位）は指導教員が行うもの18単位分を修得してください。同じセミナーを繰り返して修得することができます。
- d. その年度に履修する科目について、所定の期日までにWebにて履修登録をしなければなりません。
- e. 各年度の終わりに、「研究概要報告書」を所定の期日までに、指導教員の押印をもらって提出しなければなりません。
- f. 指導教員は4月に、学生の希望もできるだけ取り入れて決定されます。指導教員は修了まで変更されません。ただし、特別な事情がある場合はこの限りではありません。
- g. 修了に当たっては、修士論文を提出し、その審査を受けなければなりません。

修士論文は次のいずれかの要件を満たすものとします。

1. 論文筆者により得られた新しい数学的結果を含むもの
2. 数学的に意義のある計算結果（計算機実験も含む）や定理の新しい証明などで、論文筆者自身による部分を含むもの
3. ある分野において既に知られている重要な数学的事実について、論文筆者自身の観点からまとめたもの

- \* 修士論文には、標題、序文、本文、文献表が必要です。

標題としては、論文内容を最も適切に表すものを選んでください。

序文は、本文の内容を簡潔にまとめ、諸結果が、論文筆者によって得られたものであるか否かという点についても明確に書いてください。

本文は、適当に章や節に分け、できるだけ省略せず丁寧に書いてください。特に、独自に得られた結果については、細部まで省略せず書くことが望まれます。

文献表には、論文のもとになった研究において、あるいは論文執筆に当たって、参考にした文献の中から、特に関係の深いものや重要なものを選んで書いてください。

数学専攻において、これまでに提出された修士論文はすべて製本され、数学教室図書室に保管されていますので、必要に応じて閲覧することができます。

- h. 講義について

大学院では、講義を聞いて単位をとることが最終目標ではありません。学生諸君の自発的な学習を促し、研究を開始するきっかけを提供するのが、大学院における講義の主な目的です。このことをしっかりと理解しておかなければなりません。（多くの講義を漠然と聴講することは意味がありません。）

1. 講義には概論と特論があり、概論は主に1年次、特論は主に2年次の学生の履修を念頭においていますが、各人の興味、知識、能力に応じて、2年次で概論を、1年次で特論を履修することは差し支えありません。
2. 講義内容については科目名だけで判断せずに、シラバスを熟読して各自の興味にあったものを選んでください。
3. 集中講義は、多くの場合、現在活発に研究されている分野への入門的講義を短期間で行います。単位にこだわらず、積極的に聴講することを薦めます。個々の集中講義の実施については、理学研究科ホームページおよび学内掲示等で通知します。集中講義は数学特別講義として開講され、それぞれ1単位です。年次は無関係に履修が可能です。

- i. セミナーについて

セミナーの指導形態は、指導教員により様々ですが、次のような形態をとることが多いと思われる。

指導教員と相談のうえ選んだ文献について、学生が自力で学習してきた内容を週1回、指導教員の前で発表します。そこで指導教員から質問やコメントがなされ学生はこれに適切に応答することが要求されます。

このためには漠然とした内容の理解だけでは不十分で、内容をよく消化し、これを指導教員、あるいは他の教員に対して十分わかりやすく説明できる程度まで周到な準備をする事が期待されます。学生は原則として、ノートに発表の内容を準備し、できればこれを見ないで発表することが望ましいです。(教科書を見てその場で考えながら発表したりするのは論外です。)したがって、セミナーは自分の考えていることを、他人にわかりやすく説明することの訓練の場です。更に、セミナーの進展状況によっては文献を読むだけでなく、自ら考えたことを発表する場にもなり得ることが期待されます。

2年次の最後に提出する修士論文は、この発表における学習を土台とし、執筆することになります。

## B. 後期課程

- a. 修了までに、特別講義2科目以上、特別セミナー9単位以上を修得しなければなりません。特別セミナー(必修、4.5単位)は指導教員が行うもの9単位分を修得してください。同じセミナーを繰り返して修得することができます。
- b. 慶應義塾大学理工学部の教員による集中講義形式の授業があります。(詳細についてはシラバスを参照)
- c. 修了に当たっては、博士論文を提出し、その審査を受けなければなりません。
- d. 後期課程3年間の主な目的は、博士論文の完成です。この博士論文作成への過程として、(特別)セミナーがあります。その指導形態は前期課程よりもさらに自由度が増え、指導教員によっても一様ではありません。いずれにせよ、定期的に指導教員のもとで文献を読み、与えられた又は自ら設定した研究課題について、各自学習したこと、考えたことを指導教員に発表し、これに対するコメントや指示を受けて、これを再び自身の研究に生かすという繰り返しとなります。

以上の後期課程の目的から、講義の履修義務は3年間で2科目の特別講義の修得という最低限の条件にとどめられています。しかし、興味ある講義については、単位にとらわれず、集中講義はもちろんのこと、前期課程の講義、他専攻の講義などにも積極的に出席することが望まれます。

## 2. 物理学専攻

### A. 前期課程

- a. 前期課程においては、専門教育科目として、講義12単位以上と、セミナー18単位、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上、合計32単位以上を修得しなければなりません。
- b. セミナー(必修、4.5単位)は指導教員が行うものを通算2年間修得してください。同じセミナーを繰り返して修得しても構いません。
- c. 物理学専攻で開講する学部・大学院共通科目(基礎科目)は、修了要件単位に含めることはできません(開講授業科目及び担当教員表の備考欄に「\*修了要件外」と明記)。
- d. 後期課程の特別講義各科目を、前期課程学生が履修すれば、専門教育科目の修了要件単位と

して認められます。

- e. 特に優れた研究業績を上げたものについては、審査のうえ、特に認めた場合に限り、在学期間が1.5年で足りるものとします。その場合の修了要件は、講義16.5単位以上、セミナー13.5単位、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上、合計32単位以上となります。
- f. 理工情報系オナー大学院プログラムの履修生は、最大2単位まで、「理工情報研究室ローテーション（I～IV）」が専門教育科目の修了要件単位として認められます。
- g. 多彩な講師が英語で講義するTopical Seminarの履修を強く勧めます。
- h. 一部の科目は、年度によっては英語で開講されます。英語で開講される年度に単位修得した場合、日本語で開講する年度には履修を認めますが、修了要件単位として認められるのは、いずれかひとつの科目になります。

## B. 後期課程

- a. 後期課程において、特別講義2科目以上および特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければなりません。
- b. 多彩な講師が英語で講義するTopical Seminarの履修を強く勧めます。Topical Seminarは特別講義に該当します。

## 3. 化学専攻

### A. 前期課程

- a. 専門教育科目として講義11単位以上と、半期セミナーI（1年次担当、春～夏学期、秋～冬学期をそれぞれ4.5単位）と半期セミナーII（2年次担当、春～夏学期、秋～冬学期をそれぞれ4.5単位）から18単位、インタラクティブセミナーもしくは化学アドバンスト実験から1単位以上、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上、合計32単位以上を修得する必要があります。
- b. 半期セミナー（4.5単位）は指導教員が行うものを履修し、18単位を修得する必要があります。同じセミナーを繰り返して履修することを認めます。
- c. 特論（各1単位）は、集中講義として随時開講され、修了要件単位として認めます。
- d. 特に優れた研究業績を上げたものについては、審査のうえ、特に認めた場合に限り、在学期間が1.5年で足りるものとします。その場合の修了要件は、半期セミナーが13.5単位、講義が15.5単位以上、インタラクティブセミナーもしくは化学アドバンスト実験から1単位以上、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上、合計32単位以上となります。
- e. 一部の科目は、年度によっては英語で開講されます。英語で開講される年度に単位修得した場合、日本語で開講する年度には履修を認めますが、修了要件単位として認められるのは、いずれかひとつの科目になります。
- f. 理工情報系オナー大学院プログラムの履修生は、最大2単位まで、「理工情報研究室ローテーション（I～IV）」が専門教育科目の修了要件単位として認められます。

## B. 後期課程

- a. 特別講義 2 科目 (2 単位) 以上、特別セミナー 1 科目 (9 単位)、インタラクティブ特別セミナー 1 科目 (1 単位)、合計 12 単位以上を修得する必要があります。原則として毎年特別セミナーを履修してください。
- b. 特別講義は、集中講義として随時開講されます。
- c. 特別講義は、各年度において副題を付して開講し、副題を異にする場合は、それぞれについて所定の単位を付与します。
- d. 化学専攻において開講される「Current Topics I～X」は、「特別講義」と同様に扱います。
- e. 課程の途中で、研究進展度調査 (中間審査) を行います。

## 4. 生物科学専攻

### A. 前期課程

- a. 修了要件は、専門教育科目 28 単位、高度教養教育科目 1 単位、高度国際性涵養教育科目 1 単位、自由選択 2 単位の合計 32 単位です。
- b. 専門教育科目については、所属研究室において開講される「〇〇学半期セミナー」(半期 4.5 単位) を 2 年間履修して単位を修得し (必修 18 単位)、これに加えて講義科目を 10 単位以上修得してください。なお、遠隔地で研究に従事するなどの特別な理由が無い限り、学年・学期に応じた「サイエンスコア I～IV」(半期 1 単位) を履修するよう心がけてください。
- c. 理工情報系オナー大学院プログラムの履修生は、「理工情報研究室ローテーション I～IV」(各 1 単位) および「理工情報学外研修 I～IV」(各 1 単位) が専門教育科目の修了要件単位として認められます。
- d. 後期課程対象の「生物科学特別講義 I～VIII」は集中講義形式で、前期課程の学生も履修できます。修得した「生物科学特別講義 I～VI・VIII」は専門教育科目「生物科学特別講義 VII」は専門教育科目のうち国際性涵養教育の性質を有する科目の修了要件単位となります。
- e. 「生物科学インタラクティブセミナー I・II」(通年 1 単位) は本人の視野を広げるために役立つ科目です。

### B. 後期課程

- a. 所属研究室において開講される「〇〇学特別セミナー」(通年 9 単位) と「生物科学特別講義 I～VIII」(1 単位) 2 科目以上とを履修し、単位を修得してください。また、遠隔地で研究に従事するなどの特別な理由が無い限り、学年に応じた「サイエンスコア V～VII」(通年 1 単位) を履修するよう心がけてください。
- b. 「生物科学特別講義 I～VIII」は、各年度において授業内容を表す副題を付して開講します。副題が異なっていれば、別の講義として単位を認定します。「生物科学特別講義 IV～VIII」の履修方法についてはシラバスを参照してください。
- c. 生物科学専攻において開講される「Current Topics XVI～XX」は、「生物科学特別講義 I～VIII」と同様に扱います。
- d. 修了要件外ですが、「生物科学インタラクティブ特別セミナー」(通年 1 単位) は本人の視野を広げるために役立つ科目です。

## 5. 高分子科学専攻

### A. 前期課程

- a. 専門教育科目（32単位）・高度教養教育科目（1単位）・高度国際性涵養教育科目（1単位）を修得しなければなりません。専門教育科目のうち「高分子有機化学」、「高分子物理化学A・B」、「高分子凝集科学」及び「情報高分子科学」は必修とします。2年間にこれら5科目8単位を含む講義12単位以上を修得し、さらに各学年で「半期セミナー」（9単位）および「インタラクティブセミナー」（1単位）を修得しなければなりません。
- b. 特に優れた研究業績を上げたものについては、審査のうえ、特に認めた場合に限り、在学期間が1.5年で足りるものとします。その場合の修了要件は、「半期セミナー」が13.5単位、「インタラクティブセミナー」が1単位、講義（必修5科目8単位を含む）が15.5単位以上、高度教養教育科目から1単位以上、高度国際性涵養教育科目から1単位以上、合計32単位以上となります。

### B. 後期課程

- a. 「特別講義」2科目以上を修得し、かつ各学年の「特別セミナー」（9単位）および「インタラクティブ特別セミナー」（1単位）を原則として修得しなければなりません。
- b. 他大学院研究科・他専攻から本専攻後期課程に入学した者については、博士前期課程の「高分子有機化学」、「高分子物理化学A・B」、「高分子凝集科学」及び「情報高分子科学」を履修し、それらの合計5科目8単位を上記科目に加えて修得しなければなりません。ただし、既卒大学院で「高分子有機化学」、「高分子物理化学A・B」、「高分子凝集科学」、「情報高分子科学」に相当する科目を修得している場合、審査のうえで単位として認定することがあります。
- c. 「特別講義」は、各年度において副題を付して開講し、副題を異にする場合は、それぞれについて所定の単位を付与します。
- d. 「Current Topics XI～XV」は、「特別講義」と同様に扱います。

## 6. 宇宙地球科学専攻

### A. 前期課程

- a. 前期課程においては、総修了要件単位数30単位以上を修得しなければなりません。その内訳として、専門教育科目の19単位、高度教養教育科目の1単位、高度国際性涵養教育科目の2単位、自由選択の8単位が修了要件単位として認められます。宇宙地球科学専攻では、「宇宙生命論」を高度国際性涵養教育科目として提供しています。
- b. 専門教育科目のセミナー（必修4.5単位）は、指導教員が行うものを通算2年間履修してください。同じセミナーを繰り返して修得しても構いません。
- c. 宇宙地球科学専攻で開講する学部・大学院共通科目（基礎科目）は、修了要件単位に含めることはできません。「一般相対性理論」がこれに該当します。
- d. 後期課程の特別講義各科目を、前期課程学生が履修すれば、専門教育科目の修了要件単位として認められます。

### B. 後期課程

後期課程において、特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければなりません。

## 2) 履修手続きの流れ

履修登録は、学務情報システム「KOAN」にて行ってください。

URL <https://koan.osaka-u.ac.jp/>

履修登録や履修取消は、学期ごとに定められた期間に行わなければなりません。

登録期間や登録方法の詳細は、各年度の「時間割表・開講科目表」及び KOAN を参照してください。

期間外の登録、修正等は原則認められませんので、注意してください。

## 3) シラバスについて

理学研究科のシラバス（授業概要）は KOAN に掲載しています。

詳細は下記 URL から参照してください。

KOAN

[https://koan.osaka-u.ac.jp/syllabus\\_ex/campus](https://koan.osaka-u.ac.jp/syllabus_ex/campus)



## 4) 集中講義について

集中講義の時間割については、理学研究科ホームページに掲載します。

[https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/graduateschool/studentbook\\_coursesdescription\\_etc\\_g/lecture/](https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/graduateschool/studentbook_coursesdescription_etc_g/lecture/)



## 5) グレード・ポイント・アベレージ (GPA) 制度について

本学では、2026年度大学院入学者から GPA 制度を導入しています。

GPA (Grade Point Average) とは、修得した各科目の成績評価に応じて得点 (Grade Point) を割り当て、それを単位数で重みづけして算出する平均値 (単位数当たりの平均成績) を指します。

【成績評価に対応する Grade Point】

成績の評価	A+	A	A-	B+	B	C+	C	C-	F
	(90点以上)	(85点以上 90点未満)	(80点以上 85点未満)	(75点以上 80点未満)	(70点以上 75点未満)	(65点以上 70点未満)	(61点以上 65点未満)	(60点以上 61点未満)	(60点未満)
GP	4.0	3.7	3.3	3.0	2.7	2.3	2.0	1.0	0.0

【GPA の計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\text{(各授業科目の GP} \times \text{当該授業科目の単位数) の合計}}{\text{各授業科目の単位数の総和}}$$

※認定科目 (入学前の既修得単位認定科目、在学中に他大学院にて修得した科目等)、履修取消期間中に履修登録を取り消した授業科目は GPA 計算から除外されます。

※本制度の詳細については、「マイハンドай」及び「KOAN」を確認してください。

## 6) 学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム (Double-Wing Academic Architecture, DWAA) について

### 大学院教育システム構築の背景と目的

現代社会には、SDGsに代表される様々な課題が数多く存在します。こうした複雑な社会課題を解決するには、それぞれのコアとなる専門的知見に加えて、広い視野から課題を多角的に捉え、多様なステークホルダーと柔軟に協働する力が求められます。

このような社会背景を踏まえて、大阪大学では、大学院での学びを皆さん自身がデザインすることができる新しい大学院教育システム「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム”Double-Wing Academic Architecture”（以下「DWAA」という。）」を推進しています。

### DWAAの考え方

DWAAは、研究科・専攻等における専門分野の教育（「知の探究」型教育）に加え、専門分野のコアの修得を前提として、新たに「知と知の融合」「社会と知の統合」の二つの方向に教育を広げていく点が特徴です。

#### 知の探究

これまでの学術編成を尊重し専門分野を深め、専門家を育成する教育

従来の学術編成に基づいた研究科の専門分野における深い知識や高い技術を保持する人材を育成する教育です。

#### 知と知の融合

いくつかの異なる学問・研究分野からなる複合領域を学修する教育

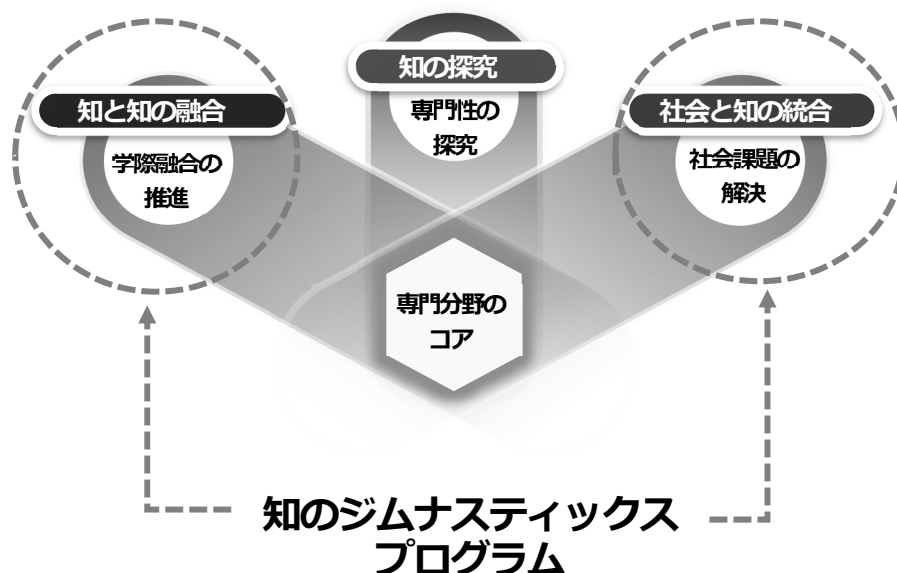
異なる分野にも視野を向け知的地平を広げられる教育を指します。新たな知識や技術の組み合わせを試みる創造的な活動を促進します。

#### 社会と知の統合

社会課題に対する解決に向けての実践的な取り組みを通じて学修する教育

社会の様々なステークホルダーとともに解決すべき課題を発見して解決方法を創造し、さらに社会に実装することができる能力を育成します。授業の中で、社会課題の解決に実践的に取り組む機会を提供し、異なる背景を持った人々と意思疎通を図る能力や社会を変えようとする過程で直面する困難を乗り越える力量を身につけます。授業によっては、学外（社会、企業等）との接点を持った取り組み等も含まれます。

## 学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム (Double-Wing Academic Architecture)



### 知のジムナスティックスプログラムとは

この DWAA の考え方にに基づき、「知と知の融合」「社会と知の統合」の二つの学際領域に分類される高度教養教育の教育プログラムを総称して「知のジムナスティックスプログラム」と呼び、専門分野の深化を目指す従来の大学院教育と併せて履修を推進しています。

DWAA の詳細こちら：

<https://itgp.osaka-u.ac.jp/systems/dwaa/>



知のジムナスティックスプログラムの詳細はこちら：

<https://itgp.osaka-u.ac.jp/programs/list/>



### ■大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムについて

大阪大学では、大学院教育における高度教養教育の更なる展開に向けて導入された「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム (Double-Wing Academic Architecture, DWAA)」を推進しており、その一環として、大学院に入学した学生を中心に、学生が所属する主専攻の教育課程以外の教育プログラムを履修できる「**大学院副専攻プログラム**」、「**大学院等高度副プログラム**」を提供しています。

「主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。

どちらのプログラムも、教育目標に沿った一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、当該プログラムの修了認定証が交付されます。

なお、2026年度は「大学院副専攻プログラム」24プログラム、「大学院等高度副プログラム」51プログラムが実施されます。

また、「大学院等高度副プログラム」のうち、一部のプログラムは「**大学院科目等履修生高度プログラム**」として、社会人に対しても提供されています。

各プログラムの詳細については、以下の URL もしくは QR コードからご参照ください。

※大学院の新生にはプログラムのパンフレットを別途配布します。

詳細については QR コードからご参照ください。

<https://itgp.osaka-u.ac.jp/program/program-category/fukupro/>



### ■高度教養モジュールについて

高度教養モジュールとは、特定のテーマについて学修する機会を提供するため、従来の大学院副専攻プログラムや大学院等高度副プログラムより要件単位数を減らしつつも、科目間に関連付けを持たせた科目群制度です。副専攻プログラム・高度副プログラム履修の第一歩として大学院生の皆さんの履修をお待ちしております。

詳細については QR コードからご参照ください。

<https://itgp.osaka-u.ac.jp/program/program-category/module/>



### ■学際融合教育科目について

本学における横断型教育（学部・研究科の枠を超えた学び）の、より一層の充実を目指して、複眼的視野を涵養するための授業科目として「学際融合教育科目」を設置しています。

学際融合教育科目は、全学の大学院学生に開講していますので、興味のある方は是非履修してみてください。

※学際融合教育科目は、大学院横断教育科目の科目区分の一つとして開講しています。

詳細については、それぞれのシラバスを参照してください。

※履修登録は、全学で統一された「他部局科目の履修登録期間」内に KOAN（学務情報システム）から行ってください（<https://koan.osaka-u.ac.jp>）。

※大学院横断教育科目の単位認定についての取り扱いは、研究科によって対応が異なります。修了要件への算入可否については、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口を確認してください。

詳細については、QR コードからご参照ください。

[https://itgp.osaka-u.ac.jp/program/advanced\\_5939/](https://itgp.osaka-u.ac.jp/program/advanced_5939/)



### ■博士課程教育リーディングプログラムについて

博士課程教育リーディングプログラムは、文部科学省により平成23年度から公募が開始されたプログラムで、優秀な学生を広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、専門分野の枠を超えて世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業です。

このうち、理学研究科学生が履修できるプログラムは「超域イノベーション博士課程プログラム」と「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」です。

博士課程教育リーディングプログラムについて

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/education/leading>



### ■理工情報系オーナー大学院プログラムについて

履修生が自らの専門分野の研究を深く追究するだけでなく、視野を広げ、異分野や新分野にも分け入っている力を獲得することを目的とします。そのために履修生は、所属研究科・専攻等での専門課程科目に加え、プログラムが提供する特別科目を履修し、産・官・学の各セクターにおいて、科学技術で社会をけん引できるような人物となることを目指します。

◇対象学生

理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、情報科学研究科に所属する大学院生

◇プログラム期間

M2 から D3 までの4年間。D1 からの履修も可能。

◇給付型奨学金制度あり

詳細は「理工情報系オーナー大学院プログラム」ホームページでご確認ください。

<https://www.sth.osaka-u.ac.jp/>



## ■多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムについて

本プログラムで育成される人材は、高度な専門性と広い俯瞰力、さらに高い国際通用力を身につけることにより、「知のプロフェッショナル」として産学官の各セクターで国際的なリーダーとなって活躍することが期待されます。そのために以下の資質を備えた人材を育成します。

- ① 人類の持続可能性に対するリスクを考える能力
- ② 主たる専門分野での卓越した学識や技術力
- ③ 多分野にまたがる異なるスケールの現象を俯瞰する能力
- ④ 異なる分野の先端実験や計算を複数こなした経験と知識
- ⑤ 先端技術を社会実装する際のリスクとベネフィットを評価する能力
- ⑥ 国際的な活動の中で、リーダーシップを発揮し、人的ネットワークを構築し活用する能力

### ◇対象学生

出願時点（2026年6月）で本学の理学研究科物理学専攻・化学専攻、高分子科学専攻、情報科学研究科情報システム工学専攻、医学系研究科保健学専攻の大学院博士前期課程、後期課程1年、または医学系研究科医学専攻博士課程1年、2年に在学中の者。

### ◇プログラム期間

M1 から D3 までの5年間。M2、D1 からの履修も可能。

### ◇経済的支援あり

その他詳細は「多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム」ホームページでご確認ください。

<https://www.rcnp.osaka-u.ac.jp/pqba/>



## ■量子情報科学学位プログラムについて

特定分野大学院プログラム「量子情報科学学位プログラム」では、国際水準の優れた研究環境において高いレベルでの教育及び研究を行うことにより、高度な専門性と深い学識経験をもつ研究者の育成を行い、若手研究者が新しい研究領域を切り拓き、世界を変える研究を行う研究者として、量子情報科学研究を先導する次世代のリーダーとなる人材を育成します。

詳細は以下の URL でご確認ください。

[https://itgp.osaka-u.ac.jp/program/specific-research-fields\\_6145/](https://itgp.osaka-u.ac.jp/program/specific-research-fields_6145/)



## ■分野連携大学院プログラム「インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラム」について

大阪大学および理学研究科の教育目標のもと、学位プログラム「インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラム」では、物質科学を出発点とし、複雑な社会課題や急速に変化する国際環境にตอบสนองする博士人材の育成を目指します。所属専攻が目指す人材育成に加えて、博士前期課程および博士後期課程において並行して履修する学位プログラムとして、5年間を通じて最先端かつ高度な専門性と深い学識等を備えた人材を育成します。

#### ◇対象学生

本学の以下の専攻の大学院博士前期課程に2026年4月入学予定の者、もしくは2025年10月に入学した者。※1、※2

【基礎工学研究科】全専攻

【理学研究科】物理学専攻、化学専攻、高分子科学専攻

【工学研究科】生物工学専攻、応用化学専攻、物理学系専攻、マテリアル生産科学専攻、電気電子情報通信工学専攻

※1 2026年4月入学に向けて本学大学院入試に出願している者で、合格発表等の日程等により、出願期限内にその合否が未定者に限り、合否が未定のままでの出願を認めます。

※2 ただし、物質科学の研究分野に限る。

＜他の分野連携大学院プログラム、博士課程教育リーディングプログラム、卓越大学院プログラム、特定分野大学院プログラム、理工情報系オーナー大学院プログラムを重複して履修することはできません。（選抜試験への重複出願は可。人文社会オーナー大学院プログラムの重複履修は可能です。）＞

#### ◇プログラム期間

M1 から D3 までの5年間。

#### ◇経済的支援あり

その他詳細は、「分野連携大学院プログラム インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラム」ホームページで確認ください。

<https://www.msc.osaka-u.ac.jp/?lang=ja>



### ■コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目について

#### ◇教育プログラムの目的

大阪大学は、高等教育における新しい教育の目標として〈高度汎用力〉の育成を掲げています。COデザインセンターは人をつなぎ、知識をつなぎながら、ともに創出する力を身につけるための学部・研究科横断型の新しい高度教養・高度汎用力育成プログラムの研究開発と教育にあたっています。

「コミュニケーションデザイン科目」は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして学部生、大学院生を対象に開講されています。

また、「COデザイン科目」は、さまざまな現実の社会課題の解決を目指したアドバンスト・プログラムとして、より系統的に社会実践力を修養するための科目群として大学院学生を対象に開かれています。

#### ◇コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目の修得単位について

コミュニケーションデザイン科目及びCOデザイン科目が修了要件単位に算入できるか否かについては、各研究科によって取り扱いが異なりますので、履修に際しては、事前に指導教員や所属研究科の教務担当窓口にも必ず相談してください。

#### ◇履修手続方法について

コミュニケーションデザイン科目とCOデザイン科目の履修登録は、全学で統一された「他部局科目の履修登録期間」内にKOAN（学務情報システム）から行ってください（<https://koan.osaka-u.ac.jp>）。

## 7) STEP10

STEP10とは、国立大学法人10大学理学部長会議が、よりグローバルでより多様な人材育成のために設置した、大学間連携学生交流プログラムです。10大学が協力して、他大学学生も聴講できる授業科目を相互に設けることにより、大学の枠を超えた教育・研究を促進することを目指しています。

学生諸君には、「武者修行」や「道場破り」のような意気込みで積極的に本プログラムに参加し、自己研鑽を積むとともに知的交流を体験し、既存の大学の枠から踏み出して自主的に学ぶことを強く望みます。チャレンジをいとわない創造力にあふれた学生諸君の存在こそが、我が国の力強い成長の源であると信じます。STEP10は、次代を担う科学人材育成を使命とする国立10大学理学部の新たなステップです。

詳細は、以下のURLからご参照ください。

<https://step10.adm.s.u-tokyo.ac.jp>



## 8) 高度理系教員養成プログラム (aSTEP)

aSTEPは、次代を担う理系人材の育成を目的として、「教育大学」「教育委員会」「研究重点大学」の三者が連携し、学校教育の充実と人材育成に熱意のある理系の博士学位取得者（又は博士後期課程に在籍する学位取得予定者）が、正規の学校（主に高等学校）教員として、理数教育に指導的役割を果たし得る人材を養成するための、原則2年間のプログラムです。

詳細は、以下を参照してください。

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/liaison/cooperation/astep/>



## 9) 他大学院での科目等履修について

本研究科は、以下の他大学研究科との間において授業交流(単位の相互認定)を実施しています。

### 1) 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科

#### ①履修について

- 履修希望者は、所定の履修願を提出してください。
- 履修科目及び総単位数は、各課程においてそれぞれ5科目、10単位以内とします。
- 履修は、講義及び演習により行う授業のみとし、実験、実習及び研究指導等は含みません。
- 「履修願」を申請しても、収容人数その他事情により受講できない場合があります。

#### ②単位の認定

- 奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科で認定された単位は、審査のうえ、本研究科授業科目の所定の単位数に認定します。

#### ③履修申請

- 履修希望者は、理学研究科大学院係まで問い合わせてください。

## 2) 兵庫県立大学大学院生命理学研究科

### ①履修について

- 履修希望者は、所定の履修願を提出してください。
- 履修は、講義及び演習により行う授業のみとし、実験、実習及び研究指導等は含みません。
- 「履修願」を申請しても、収容人数その他事情により受講できない場合があります。

### ②単位の認定

- 兵庫県立大学大学院生命理学研究科で認定された単位は、審査のうえ、本研究科授業科目の所定の単位の認定します。

### ③履修申請

- 履修希望者は、理学研究科大学院係まで問い合わせてください。

※上記以外の大学院で科目履修・単位認定を希望する場合は、理学研究科大学院係までご相談ください。

## 10) 長期履修学生制度

この制度は、学生が、職業を有している等の事情により標準修業年限内での修学が困難な者に対して、標準修業年限を超えて一定の延長期間を加えた期間に、計画的な教育課程の履修を認めるものです。

長期履修が許可されれば、通常の修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）において支払う授業料の総額を、長期履修期間として認められた期間に春～夏学期、秋～冬学期に均分して支払うことになります。

ただし、授業料が改定された場合、または長期履修期間に変更があった場合には、改定または変更時に授業料は見直されます。

長期履修学生制度の詳細な内容については、理学研究科大学院係まで問い合わせてください。

## 11) 国際交流・留学

大阪大学では、海外の多くの大学等との間で、大学間交流や部局間交流の学術交流及び学生交流協定を結んでいます。協定校とは、共同研究や研究者、学生の交流を行っています。協定校の中には、学部学生と大学院生が大阪大学に在籍したまま海外留学し、留学先の協定校では授業料を納めずに、1年以内の履修や研究指導を受けることが可能となる場合があります。

留学先の大学で履修した単位を、本研究科の単位の充当できるかどうか、予め指導教員及び専攻長と相談しておいてください。

なお、留学に関する情報は以下の URL からご参照ください。

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)



大学間交換協定に基づく交換留学・短期プログラムについては、国際学生交流課主催の海外留学オリエンテーションが開催されています。KOAN 通知等に留意してください。

その他、国際交流・留学に関することは以下の URL からご参照ください。

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/top>



## 12) 学位論文に係る評価に当たっての基準について

理学研究科及び各専攻が定める手続きにより提出された学位申請論文は、以下の体制及び基準に従って審査を行います。

### 1.1 修士論文

#### 1.1.1 審査体制

修士論文の審査は、3名以上の審査委員により行うものとする。

修士の学位に係る論文審査委員会の主査は、次のとおりとする。

1. 理学研究科に置かれる基幹講座、協力講座及び理学研究科附属施設の専任の教授・准教授
2. 理学研究科の教育を担当する本学の教授・准教授（招へい教授・准教授を含む）で理学研究科委員会が認めた者
3. 前記各号以外の者で理学研究科委員会が特に認めた者

修士の学位に係る論文審査委員会の副査は、次のとおりとする。

1. 理学研究科に置かれる基幹講座、協力講座及び理学研究科附属施設の専任の教授・准教授・講師
2. 理学研究科の教育を担当する本学の教授・准教授・講師（招へい教授・准教授を含む）で理学研究科委員会が認めた者
3. 前記各号以外の者で理学研究科委員会が特に認めた者

#### 1.1.2 審査の方法

修士論文に記述された内容については、各専攻の論文発表会において学術研究に相応しい発表及び討論がなされることとする。なお、原則として論文発表会は公開とする。また、この方法に定めるもののほか、専攻分野において必要なものは当該専攻が定める。

#### 1.1.3 評価項目及び基準

修士論文の審査について、次の評価項目及び基準を設ける。また、この評価項目及び基準に定めるもののほか、専攻分野において必要なものは当該専攻が定める。

1. 修士の学位を受ける者は、当該専攻分野に関する学識を備え、かつ専門的研究能力を有すること。
2. 修士論文は、当該専攻分野に関する学術的価値を有し、論理的かつ明瞭に記述されていること。論文に含まれる研究結果が複数の研究者の共同による場合は、学位を受ける者の貢献

が有意に認められること。

3. 論文の内容、図及び表等について他文献の引用等に対する対応が適正になされていること。

#### 1.1.4 論文が満たすべき水準

上記の評価項目及び基準を満たす場合、修士論文として合格とする。

## 2. 博士論文

### 2.1 審査体制

博士論文の審査は、3名以上の審査委員により行うものとする。

博士の学位に係る論文審査委員会の主査は、次のとおりとする。

1. 理学研究科に置かれる基幹講座、協力講座及び理学研究科附属施設の専任の教授
2. 理学研究科の教育を担当する本学の教授（招へい教授を含む）で理学研究科委員会が認めた者
3. 前記各号以外の者で理学研究科委員会が特に認めた者

博士の学位に係る論文審査委員会の副査は、次のとおりとする。

1. 理学研究科に置かれる基幹講座、協力講座及び理学研究科附属施設の専任の教授・准教授・講師
2. 理学研究科の教育を担当する本学の教授・准教授・講師（招へい教授・准教授を含む）で理学研究科委員会が認めた者
3. 前記各号以外の者で理学研究科委員会が特に認めた者

### 2.2 審査の方法

博士論文に記述された内容については、各専攻の論文発表会において学術研究に相応しい発表及び討論がなされること。なお、原則として論文発表会は公開とする。また、この方法に定めるもののほか、専攻分野において必要なものは当該専攻が定める。

### 2.3 評価項目及び基準

博士論文の審査について、次の評価項目及び基準を設ける。また、この評価項目及び基準に定めるもののほか、専攻分野において必要なものは当該専攻が定める。

1. 博士の学位を受ける者は、当該専攻分野に関する高い学識を備え、かつ高度な専門的研究能力を有すること。
2. 博士論文は、当該専攻分野において高度な学術的価値を有する研究結果を含み、論理的かつ明瞭に記述されていること。論文に含まれる研究結果が複数の研究者の共同による場合は、学位を受ける者の貢献が顕著であると認められること。
3. 博士論文の主要部分は、既に学術論文として公表されているか、若しくは学位を授与された日から1年以内に公表される予定であること。
4. 論文の内容、図及び表等について他文献の引用等に対する対応が適正になされていること。

### 2.4 論文が満たすべき水準

上記の評価項目及び基準を満たす場合、博士論文として合格とする。

### 13) 修士論文及び博士論文提出に関する申請手続概要について

修士論文または博士論文を提出する際は、論文のほかに所定の様式により「論文審査、最終試験受験申請書」等を提出しなければなりません。

各年度の「申請手続概要」（提出方法、提出期日、様式等）は、KOAN掲示板にてお知らせします。

単位修得退学後の課程博士申請（退学後3年以内に論文を提出する者に限る）のためKOAN掲示板から「申請手続概要」を取得できない場合は、大学院係（ri-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp）に請求してください。

申請種別	学位取得時期※	提出書類等
修士学位	9月または3月	①修士論文審査、最終試験受験申請書 ②修士論文（各専攻事務等へ提出） ③公正な研究活動に関する誓約書 ④離学後の進路について（留学生のみ）
博士学位	6月、9月、 12月または3月	①博士論文題目届 ②博士論文審査、最終試験受験申請書 ③博士論文 ④論文目録 ⑤論文内容の要旨 ⑥履歴書 ⑦公正な研究活動に関する誓約書 ⑧博士論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載） 確認書 ⑨博士論文のインターネット公表（大学機関リポジトリ掲載） 保留事由に係る報告書（該当者のみ） ⑩単位修得退学証明書（該当者のみ） ⑪離学後の進路について（留学生のみ）

注1) 申請書類等については、上記のほかに各専攻において別途指示する場合があります。

注2) 上記の内容は本冊子発行時点のものです。学位申請の際は、必ず最新の「申請手続概要」を確認してください。

※留年している者が指定月以外での修了を希望する場合、条件によっては認められる場合があります。詳細は各専攻事務または大学院係にご相談ください。

## 5. 授業料の免除及び奨学金

### 1) 入学料免除・授業料免除等について

担当事務：学生センター

奨学支援の一環として、本人の申請に基づき選考等のうえ、授業料（入学料）の免除が認められる制度や、納入期限が猶予される制度等があります。各制度で定める申請対象や申請条件等に該当する場合は、これらの制度を申請することにより、授業料等の全部または一部の納入額が免除される（納入期限が猶予される）可能性があります。経済的理由や家庭の事情等により納入が困難な状況にあるときは、本学のホームページに掲載するこれらの制度の案内や情報をよく確認してください。なお、授業料（入学料）の免除等制度への申請を希望される場合には、下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスし、申請要項（※）を確認の上、所定の手続を申請期間内に行ってください。（※前期：1 月末 後期：8 月末掲載予定）

※新入生と在学生の申請期間が異なります。詳しくは大学ホームページをご確認ください。

（注1）授業料免除等の申請については、前期（4月から9月まで）分、後期（10月から翌年3月まで）分のそれぞれの期の授業料ごとに免除を決定します。

（注2）入学料免除等の申請については、入学時に限り申請可能です。

大阪大学ホームページ

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/remission/system>

問い合わせ先

吹田学生センター授業料免除担当（開館時間 平日 8:30～17:00）

06-6879-7088・7161

[gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp](mailto:gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp)



### 2) 日本学生支援機構奨学金（外国人留学生を除く）について〈貸与・給付〉

担当事務：学生センター

日本学生支援機構奨学金は、勉学に励む意欲があり、またそれにふさわしい能力を持った学生が経済的理由により修学をあきらめることのないように支援する制度です。貸与奨学金は返還（返済）の義務があり、必ず返還しなければなりません。給付奨学金は原則として返還の義務はありません（※給付奨学金は、「学部生」のみが対象）。

入学前に「予約採用」で採用候補者となった場合や、入学後に新規で申請したい場合の必要手続きや期限の詳細は、3月末頃に本学ウェブサイトに掲載します。下記 URL から該当する募集情報を確認して、所定の方法により期限までに手続きを行ってください。

大阪大学ホームページ（貸与奨学金）

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/jasso/recruit>

問い合わせ先

豊中学生センター奨学金担当（豊中キャンパス学生交流棟2階）

※お問い合わせは大阪大学ウェブサイトの間合せフォームをご利用ください。

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/jasso/form\\_recruit](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/jasso/form_recruit)



### 3) 地方公共団体及び民間奨学団体奨学金（外国人留学生を除く）について

担当事務：学生センター

地方公共団体及び民間奨学団体奨学会による奨学金（以下、「各種奨学金」という。）は、学業、人物ともに優れ、かつ、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に給与もしくは貸与される制度です。

学生センターで取り扱っている各種奨学金は、「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」と「希望者が直接出願する奨学金」があります。

「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」については、推薦人数に限りがあり、またそれぞれの団体での推薦基準があるため、必ずしも申請者全員が推薦候補者になるとは限りません。

また、奨学生に採用されると、在学中のみならず卒業後も団体との関係は続きます。大阪大学から推薦されたという自覚を持ち、向学心をさらに高め、交流会、面談、研修会への出席や、生活状況調査書、成績表、奨学金受領書の提出など、奨学生としての義務を果たさなければなりません。これらの義務を怠った場合、辞退や採用取り消しとなる場合もありますので、十分に考慮の上、申請してください。

対象者・申請方法の詳細はホームページにてご確認ください。

#### ◆候補者を選考し大学から推薦する奨学金

大学からの推薦候補者は、登録者から選考します。登録要項をダウンロードのうえ、要項で指定している受付期間内に申請してください。「登録要項」は、12月下旬から、大阪大学ホームページよりダウンロードできます。下記 URL または QR コードから Web ページにアクセスしてください。

大阪大学ホームページ（地方公共団体及び民間奨学団体の奨学金）

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/gov\\_n\\_private](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/tuition/scholar/gov_n_private)



#### ◆希望者が直接出願する奨学金

大学に募集案内があった場合、その都度 KOAN 掲示板にてお知らせします。地方公共団体奨学金については、本学に募集案内が来ない場合があるので、直接、出身地等の教育委員会等へ照会してください。

問い合わせ先

吹田学生センター民間団体等奨学金担当（開館時間 平日 8:30～17:00）

[gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp](mailto:gakusei-sien-en1@office.osaka-u.ac.jp)

## 6. 健康及び災害傷害保険関係

### 1) 健康診断

学生定期健康診断は、学校保健安全法、大阪大学学生健康診断規定により義務付けられています。定期健康診断は毎年必ず受検してください。詳細・注意事項については、健診前に通知される実施通知を各自確認してください。健康診断の結果に対しては保健管理部門の医師が検討し、必要な方には再検査や精査・加療の為の医療機関の紹介などの事後処置を行います。なお、大学が実施する健康診断を受検しなかった場合は、他で受検した健康診断証明書（身長・体重・血圧・尿・胸部レントゲンを含む。様式任意。）を後日、理学研究科学務係へ提出してください。

キャンパスライフ健康支援・相談センターホームページ：

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/home/sosiki/hokenkanri/results/>



### 2) キャンパスライフ健康支援・相談センター 保健管理部門

キャンパスライフ健康支援・相談センター保健管理部門では、本学に在籍している学生（留学生を含む）に、診察や健康相談等の業務を行っています。けがや体調が悪くなった場合の初期治療や、精神科医による相談、そのほか禁煙外来や女性外来など、学生のこころとからだのサポートをしています。受付診療時間や予約方法については、キャンパスライフ健康支援・相談センターのホームページにてご確認ください。

キャンパスライフ健康支援・相談センターホームページ（こころとからだのサポート）：

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/home/sosiki/hokenkanri/clinic/>



また、こころの悩みを相談したいときは、心理カウンセラーやピアアドバイザー、「なんでも相談室」等の窓口があります。

キャンパスライフ健康支援・相談センターホームページ（こころのケア）：

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/mentalhealthcare/>



### 3) 学生教育研究災害傷害保険について

「学生教育研究災害傷害保険（学研災（がっけんさい））」は、国内外における教育研究活動中に学生が被った「けが」に対して補償を提供するために設立された保険制度です。大阪大学では、全ての対象者がこの保険に加入することとしています。加入手続きがまだの方、留年された方は、専用サイト（[https://osaka-univ.coop/welcome/grad-school/grad-school\\_808.html](https://osaka-univ.coop/welcome/grad-school/grad-school_808.html)）より手続きを行い、コンビニ払いまたはカードで支払いを行い、加入してください。保険金の内容や保険期間、保険料についてはホームページにてご確認ください。

大阪大学ホームページ：

<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/insurance.html>



## 7. 学生相談

理学部・理学研究科では、学生の皆さんが大学生活を送る中で抱える様々な悩みや疑問などに対して、気軽に相談できるよう複数の相談窓口を設置しています。例えば、その悩みは、学業のことや大学の手続きのことであったり、あるいは、将来の進路のこと、健康のこと、友人関係のことであったり、もしかしたら、1人で解決できない困難な悩みを抱えてしまうこともあるかもしれません。そんなとき、家族、友人、身近な教員等に相談する方法以外に、理学部・理学研究科には、悩みの解決に向けたサポートを行う相談窓口として、下記1)～7)があることを知っておいてください。どうしてもよいのかわからない、そう思ったときは気軽に相談してみましょう。なお、どの窓口にもどんな相談をしても適切な対応が行われますので、相談する内容に関わらず、相談しやすい窓口、相談しやすい方法で相談してみてください。

各窓口の担当者・担当教員は、ホームページにてご確認ください。

1)～6) 理学部・理学研究科ホームページ：

<https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/campuslife/studentsupport/>



また、理学部・理学研究科の相談窓口のほか、全学の相談窓口として、下記8)～10)もあります。下記のすべての相談窓口は、秘密厳守で相談に応じています。

### 1) 学生相談員（理学部・理学研究科）

理学部・理学研究科の学生の皆さんが抱える修学面、生活面、健康面等の日常における様々な悩みに対して、担当教員が学生相談員として、解決のためのアドバイスやサポートを行っています。学生相談員は、所属学科・専攻関連の相談内容に限らず対応することになっていますので気軽に何でも相談してみてください。相談は電話でもよいですがEメールでも受け付けています。悩みごとがあれば、どんな小さなことでも構いませんので、とにかく一度メールしてみてください。

メールアドレス：[sodan@sci.osaka-u.ac.jp](mailto:sodan@sci.osaka-u.ac.jp)（全学科・専攻共通）

### 2) なんでも相談室（理学部・理学研究科）

理学部・理学研究科の学生の皆さんが、気軽になんでも相談できるように、学生相談員の他に「なんでも相談室」を理学研究科内に設置しています。勉学や学問の内容に加えて、対人関係のほか、学生生活全般に関するものや「漠然とした相談」「誰に聞いたらいいかわからない質問」など、担当者が文字通りなんでも相談にのってくれます。相談は基本的に、火曜日・水曜日・木曜日に相談時間枠を設けてあり、場所は、理学研究科E棟2階（E217）の「なんでも相談室」です。悩みがあれば気軽に相談しに来てください（場合によっては、他の場所で相談を受け付けることもあります。）。なお、Eメールによる相談や予約も受け付けています。

メールアドレス：[nandemo@sci.osaka-u.ac.jp](mailto:nandemo@sci.osaka-u.ac.jp)

### 3) 理学ウェルビーイング支援室

理学部・理学研究科の専属カウンセラー（資格名：公認心理師，臨床心理士，国家資格キャリアコンサルタント，認定ハラスメント相談員）と担当教員が協力し，学生の皆さんの相談に対応します。必要に応じて他の相談窓口をご紹介しますし連携いたします。個人情報を守られます。最新の情報は理学部ホームページで確認してください。

### 4) 就職担当教員（理学部・理学研究科）

就職に関する相談は、各学科、専攻の就職担当教員にお問い合わせください。学科・専攻ごとに就職担当教員の任期が異なるため、最新の情報は理学部・理学研究科ホームページでご確認ください。

理学部・理学研究科ホームページ：

<https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/campuslife/studentsupport/>



### 5) キャリア支援室（理学部・理学研究科）

原則として、毎週月曜日の16：00－20：00に開設しています（8月・9月は閉室）。就職活動のエントリーシートのチェック、模擬面接、将来の進路相談等を実施しています。相談の予約は相談室（B棟2階B224）のドアに貼った予約表で受け付けています。

### 6) 留学生相談室（理学部・理学研究科）

理学部・理学研究科の留学生の皆さんが、日本で大学生活を送る中で抱える修学面、生活面、健康面等の様々な悩みを英語で相談できるように、「留学生相談室」を理学研究科内に設置しています。相談したいことがあれば、どのようなことでもよいので一人で悩まずに遠慮なく相談してください。担当の留学生専門相談員が、解決のためのアドバイスやサポートをします。Eメールや電話での相談はもちろんのこと、相談室で直接相談にのることもできますので、Eメールで予約をとってください。

また、各学科、専攻の留学生担当教員にも相談ができるほか、留学生相談室担当職員（理学研究科D棟2階D201国際交流サロン内）が、生活相談に対応しています。

メールアドレス：[foreign@sci.osaka-u.ac.jp](mailto:foreign@sci.osaka-u.ac.jp) 電話番号：06-6850-8169

## 7) ハラスメント相談員（理学部・理学研究科）

ハラスメントの防止等に関する取り組みの一環として、ハラスメントに関する苦情や相談に対応するため、理学部・理学研究科にハラスメント相談員を置いています。学生の皆さんが、不幸にしてハラスメントの被害に遭ったときには、一人で悩まず、まずは家族や友人など信頼できる人に相談し、必要に応じて理学部・理学研究科のハラスメント相談員に相談してください。相談があった場合、ハラスメント相談員は真摯に話を聞いて問題解決にあたります。次項9)の専門相談員のいる全学の相談室での対応がより適切であると判断される場合には、相談者本人の了解を得た上でそちらへ連絡することもあります。相談は、学科・専攻に関わらず、誰にしてもらっても構いません。

事務部にも相談員がいます。相談員名等は、理学部・理学研究科のホームページ（内部専用ページ）に掲載されています。

<https://www.sci.osaka-u.ac.jp/inside/opinion/harrasment/>（内部専用ページ）



## 8) キャンパスライフ健康支援・相談センター 相談支援部門（全学）

さまざまな困り事や悩み事についての相談へ応じたり、支援を提供したりする部門です。学生の皆さんを対象にしたものとしては、①学生相談（カウンセリング）、②アクセシビリティ支援（障がいや慢性疾患を有する学生の支援）、③ピア活動支援（学生どうしの助け合いの支援）、④アセスメント（障がいや性格特性等についてのアセスメント）などがあります。

キャンパスライフ健康支援・相談センターホームページ：

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/>



### ○学生相談室

学生相談室は、どんな相談も受け付けています。こころの悩みだけでなく、大学生活への不安、日常の困り事、ちょっと愚痴りたい...等気軽にご利用ください。経験豊かな相談相手（カウンセラー）に相談することができます。英語でのカウンセリングも受け付けています。相談は1回だけでも結構ですし、継続して何回でも相談することができます。

学生相談室ホームページ：

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/home/sosiki/gakusou/>



### ○アクセシビリティ支援室

障がいを持っている学生だけではなく、大学生活で困難を感じているすべての学生に対してアドバイスや情報の提供などを行っています。

アクセシビリティ支援室ホームページ：

<https://acs.hacc.osaka-u.ac.jp>



## ○ピア相談

学業、進路、人間関係の悩みのほか、サークル活動や経済上の問題など、学生生活上のことがらについて、本学大学院人間科学研究科で臨床心理学を専攻している大学院生（ピア・アドバイザー）が、同じ世代の立場からお話を聞きます。※来室（対面）・オンライン（ZOOM）・電話で相談可能。

その他グループ活動等も行っています。

ピア相談ホームページ：

<https://hacc.osaka-u.ac.jp/ja/home/sosiki/piatomo/>



## 9) キャンパスライフ健康支援・相談センター ハラスメント相談室（全学）

大阪大学では、ハラスメントのない大学を目指し、その発生の防止や解決に取り組んでいます。その一環として、各キャンパスに全学の相談室を設置しており、前項7)のハラスメント相談員とは別に、専門相談員が問題の解決にあたっています。ハラスメントの被害に遭ったときや周囲の人が被害に遭って困っているときは、勇気を出して相談しましょう。

相談をご希望の場合は、事前に電話予約を行ってください。

大阪大学ホームページ：

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/prevention\\_sh](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/prevention_sh)



## 10) キャリアセンター（全学）

キャリアアドバイザーに就職相談（進路相談）ができます。予約システム（進路・就職相談予約管理システム）で希望日時・キャンパスの予約をして、相談開始時刻に来室してください。

キャリアセンターホームページ：<http://career.osaka-u.ac.jp/>



## 8. 理学研究科建物への入館

理学研究科、理学部の建物の外部に通じる玄関、通用口等は平日夜間時間及び休業日終日、入館が規制されます。入館する場合は、磁気カードが必要です。

大学院正規生については、学生証により入館が可能です。ただし、紛失・破損等により学生証の再発行手続きを行った場合、再発行された学生証では入館できなくなりますので、庶務係（A棟1階A123）で入館情報の更新手続きを行ってください。

大学院非正規生（研究生）については、研究のため夜間入館が必要な場合は、庶務係（A棟1階A123）で磁気カードの申請手続きを行ってください。

科目等履修生については、磁気カードは発行されません。

曜日等	開閉時間
平日（月～金）	正面玄関：6：00～23：00 （23：00～6：00はカード入館） 通用口：7：00～19：00 （19：00～7：00はカード入館）
土・日・祝祭日	全館終日閉鎖（カード入館のみ可）
年末・年始	全館終日閉鎖（カード入館のみ可）

## 9. 理学研究科ホームページ

シラバスや担当教員などの教育に関する情報、その他の必要な情報、また教員の研究活動について理学研究科ホームページで閲覧することができます。

なんでも相談室のスケジュール、意見・相談コーナー、ハラスメント相談員名簿等、より詳しい情報は、内部専用ページにあります。内部専用ページは、学内のコンピューターからのみアクセス可能です。

<https://www.sci.osaka-u.ac.jp>



## 10. 理学研究科情報資料室

理学研究科・理学部には、研究に必要な資料（学術雑誌等）を所蔵し閲覧することのできる理学研究科情報資料室があります。

○場所 理学研究科D棟2階（D205）

○電話 06-6850-5555（内線 2390）

○利用時間

曜日等	利用時間	学生証または入館カード
平日（月～金）	9：30～17：00	不要
	17：00～9：00	必要
土・日・祝日	終日	必要

※入室する場合、学生証または入館カードが必要な時間帯があります。

※平日の9：00～9：30は完全閉室します。

○閲覧

情報資料室の資料を閲覧できます。閲覧したい資料が情報資料室にあるかどうかは、大阪大学蔵書検索システム（OPAC）において検索できます。

<大阪大学蔵書検索システム（OPAC）>

<https://opac.library.osaka-u.ac.jp/>



（情報資料室の資料は、「配架場所：理資」と表示されます。）

※当年度に刊行された雑誌は、閲覧室にあります。

※前年度以前に刊行された雑誌は製本され、隣接する書庫に配架しています。（ただし、製本作業中の前年度刊行雑誌は除きます。）

※すべての資料や雑誌等は貸出できません。

○文献複写

情報資料室の資料は、調査研究のために複写することができます。

※研究室配属されている学生は、各研究室のコピーカードで複写できます。

※研究室未配属の学生は、私費にて複写（白黒25円、カラー65円/1枚）できますので、スタッフまでお申し出ください。（スタッフが不在の日や時間帯はできません。）

○学内図書館等の図書取寄せ・文献複写取寄せ

ご希望の場合は、スタッフまでお申し出ください。

○学習スペースの提供

閲覧室には閲覧机（36席）があり、調べもの等の学習ができるスペースを提供しています。また、ご自分のパソコンを持ち込み、大阪大学個人IDによる無線LANを利用することができます。

## 11. 修学上の注意

### 1) 気象警報発表時等における授業の取扱いについて

- ・メディア授業（定期試験を含む。以下同じ。）については、この取扱いを適用せず、気象警報の発表時等においても原則として授業を実施します。
- ・ただし、メディア授業の実施が困難な事象が発生した場合は、授業開講部局の判断により休講とすることがあります。その場合は、KOAN等でお知らせします。
- ・学生の皆さんの居住地域又は通学経路にある地域に暴風警報又は特別警報が発表された場合、震度5強以上の地震が発生した場合において、避難又はその準備をしなければならない等やむを得ない事情により、メディア授業を受講できない場合には、履修上不利益とならないよう配慮しますので、授業開講部局又は所属部局の教務担当係に申し出てください。

#### 1. 気象警報発表時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか又はこれらの市を含む地域」に「暴風警報」、又は「特別警報\*」が発表された場合、授業を休講とします。

なお、当該発表が授業開始後の場合は、次の時限の授業から休講とします。

\*「特別警報」については大雨、暴風、暴風雪、大雪など内容を限定せず、すべての「特別警報」を対象とします。

#### 2. 公共交通機関の運休時の取扱い

災害により、通学路線のうち以下の公共交通機関のいずれかが運行の休止又は運転の見合せ(以下、「運休」という。)となった場合(一部区間の運休を含む)、当該キャンパスで開講する授業を休講とします。

- ①豊中キャンパス 阪急電車(宝塚線:大阪梅田ー宝塚間)又は  
大阪モノレール(全線)
- ②吹田キャンパス 阪急電車(千里線:大阪梅田/天神橋筋六丁目ー北千里間)又は  
大阪モノレール(全線)
- ③箕面キャンパス 大阪メトロ(御堂筋線(北大阪急行路線含む):梅田ー箕面萱野間)  
又は大阪モノレール(全線)

ただし、事故等による一時的な運転見合せについては、休講とはしません。

### 3. 気象警報又は公共交通機関運休の解除時の取扱い

気象警報又は公共交通機関の運休が解除された場合の取扱いは次のとおりとします。

警報・運休解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を経過しても解除されない場合	全日授業休業

注1 連合小児発達学研究科については、別途当該研究科からメールにより取扱いを連絡します。

注2 解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によるものとします。

### 4. 地震発生時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかで震度5強以上の地震が発生した場合、その日の授業を休講とします。ただし、地震の発生が午後5時15分以降の場合は、翌日の授業も休講とします。

また、地震が当該地域以外で発生した場合又は震度5強未満の場合は、公共交通機関の運行状況に応じて対応することとし、上記2の取扱いに従うこととします。

### 5. 災害に伴う避難勧告又は避難指示発令時の取扱い

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市」のいずれかの市から、災害に伴う避難指示又は緊急安全確保（以下「避難指示等」という。）が発令された地域（以下「避難地域」という。）に所在する部局においては、授業を休講とする場合がありますので、部局からの連絡に従ってください。

### 6. その他

- (1) この取扱いに該当しないため授業を実施する場合であっても、学生の皆さんの居住地又は通学経路にある地域で、上記1と同様の気象警報が発表された場合、上記4と同様の地震が発生した場合、上記2以外の公共交通機関が運休した場合等やむを得ない事情により授業を欠席した場合は、履修上不利益とならないよう配慮しますので、授業開講部局又は所属部局の教務担当係に申し出てください。
- (2) 気象警報の発表、公共交通機関の運休又は避難勧告等の発令が事前に予想される場合、又は緊急に休講措置の必要が生じた場合は、大学ホームページ又はKOANにおいて通知します。

## 2) 理学研究科開講の授業・試験欠席の取扱いについて

下表の欠席事由により理学研究科開講の授業を欠席した場合、授業担当教員は学生が履修上不利とにならないよう配慮を行うものとして定められています。ただし、配慮内容は授業担当教員にて個別に検討されます。授業担当教員に、診断書等の証明書類を提示の上で直接事情を説明し、判断を仰いでください。

欠席事由	配慮を要する期間	必要書類
学校感染症（学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症）を罹患したことにより出席停止の措置を受けた場合	学校保健安全法施行規則第19条に規定する <u>出席停止</u> の期間	診断書 等 「病名」、「出席停止期間」が特定できるもの
親族（3親等以内）が死亡した場合	通夜、葬儀などのために要した日数 ・配偶者、1親等 連続7日以内 ・2、3親等 連続3日以内	死亡診断書、 会葬礼状 等
「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」に基づく裁判員の選任手続きのため及び裁判員の職務に従事するため裁判所に出頭した場合	裁判所に出頭した日	裁判所からの呼出状 等
居住地及び通学経路に係る特別警報が発令された場合	特別警報が発令された日	不要
教職課程に係る「教育・養護実習」及び「介護等の体験」を行う場合	・「教育・養護実習」を実施する期間 ・「介護等の体験」を実施する期間	欠席届

（備考）

- ・学校感染症以外の疾病・負傷等のその他やむを得ない事由  
授業担当教員に、診断書等の証明書類を提示の上で直接事情を説明し、判断を仰いでください。
- ・教職課程に係る「教育・養護実習」及び「介護等の体験」  
実習・体験申込者に配付される欠席届（専用様式）を使用してください。配付時期等は、教職課程ブックレットにてご確認ください。なお、他の理由でも欠席を繰り返したり、欠席した授業科目を自習しなかったりして、学習成果が各授業で求められる水準に達していない場合、単位修得はできません。
- ・教職課程に係る「総合演習」及び「教職実践演習」  
履修上不利とにならないよう配慮すべき事由には該当しないものとします。
- ・課外活動による欠席  
原則として履修上不利とにならないよう配慮すべき事由には該当しないものとします。

### 3) 不正行為を行った場合の取扱いについて

試験等において学生の不正行為が確認された場合は、当該学生が当該学期・セメスターに履修したすべてまたは一部の科目の成績評価を無効とする処分を科し、その旨を学内に公表します。レポート・論文等の作成における盗用・剽窃・捏造等の行為も不正行為として処分の対象となります。

## 12. 海外渡航届システム

在学中に海外へ渡航する場合は、海外渡航届システムへアクセスし渡航情報を登録してください。

テロ事件をはじめ災害や感染症の発生など、海外で緊急事態が発生した場合、大阪大学ではシステムの登録内容を元に海外渡航中の学生の皆さんの安否確認を行っています。

留学・学会参加・海外旅行・留学生の一時帰国など公私に関わらずいかなるケースにおいても必ず出発前に登録するようお願いします。

◆大阪大学ホームページ

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/Studyabroad\\_crisis\\_management/assovr](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/Studyabroad_crisis_management/assovr)

◆海外渡航届システムへの登録はこちらから

<http://osku.jp/m0783>



## 13. 国際交流サロン

外国人留学生と日本人学生等とが自由に交流できる場として、国際交流サロンがあります。場所は理学研究科D棟2階（D201）（情報資料室横）で、使用可能時間は10:15～16:30です。

### \*Science Buddy

国際交流を主眼とし、理学研究科・理学部の日本人学生と外国人留学生で構成されたグループです。国際交流イベントの企画・運営を通して相互理解を深め、楽しく交流しています。詳しくは国際交流サロンまでお問い合わせください。

メールアドレス：[ri-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp](mailto:ri-daigakuin@office.osaka-u.ac.jp)



Facebook Science Buddy QR code

Instagram Science Buddy QR code



### 3) 大阪大学大学院理学研究科規程

#### (趣旨及び目的)

**第1条** この規程は、大阪大学大学院学則及び大阪大学学位規程に基づき、大阪大学大学院理学研究科（以下「本研究科」という。）における必要な事項を定めるものとする。

2 本研究科は、柔軟な発想と論理的思考に基づいた問題設定及び課題探求の能力を養うことにより、自然科学への知的好奇心や真理探究に喜びを感じる感性を備えた創造性豊かな研究者及び社会のさまざまな分野でリーダーとして活躍できる人材を養成することを目的とする。

#### (課程及び専攻)

**第2条** 本研究科の課程は、博士課程とする。

2 博士課程は、これを前期2年の課程（以下「前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「後期課程」という。）に区分する。

3 本研究科に次の専攻を置く。

数学

物理学

化学

生物科学

高分子科学

宇宙地球科学

4 博士課程に、特定分野大学院プログラム「量子情報科学学位プログラム」（以下「量子情報科学学位プログラム」という。）を設ける。

5 博士課程に、分野連携大学院プログラム「インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラム」（以下「インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラム」という。）を設ける。

6 博士課程に、卓越大学院プログラム「多様な知の協奏による先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム」（以下「先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム」という。）を設ける。

7 博士課程に、大阪大学理工情報系オナー大学院プログラム（以下「オナー大学院プログラム」という。）を設ける。

#### (教育方法等)

**第2条の2** 本研究科の教育は、研究指導及び授業科目の授業によって行い、各専攻別の授業科目及

びその単位数は、別表1及び別表2のとおりとする。

2 前項に規定する授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

(1) 講義は、15時間をもって1単位とする。

(2) 演習は、30時間をもって1単位とする。

(3) 実習は、45時間をもって1単位とする。

#### (指導教員)

**第3条** 学生には、指導教員を定める。

2 指導教員は、専攻担当の教授とする。ただし、必要があるときは、研究科委員会の議を経て研究科長が認めた准教授又は専任講師をもって代えることができる。

#### (履修計画)

**第4条** 学生は、指導教員の指示を受けて、履修する授業科目等について、履修計画を毎年指定する期日までに届け出なければならない。

#### (前期課程の履修方法)

**第5条** 前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、各専攻（国際物理特別コースに入学を許可された学生にあつては、当該コース）が定める履修方法に基づき、別表1に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、統合理学特別コースに入学を許可された学生は、必要な研究指導を受けるほか、指導教員の指示に従い、別表2に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めたときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。

3 前2項の規定にかかわらず、量子情報科学学位プログラムを履修する前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表3に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。

4 前項の規定にかかわらず、量子情報科学学位プログラムを履修する前期課程の学生で、統合理学

特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表3に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。

- 5 前2項に定めるもののほか、量子情報科学学位プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
- 6 前各項の規定にかかわらず、インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラムを履修する前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表4に掲げる当該専攻の授業科目及び別に定める授業科目の中から必修科目を含め30単位以上を修得しなければならない。
- 7 前項の規定にかかわらず、インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラムを履修する前期課程の学生で、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表4に掲げる当該専攻の授業科目及び別に定める授業科目の中から必修科目を含め30単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
- 8 前2項に定めるもののほか、インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
- 9 前各項の規定にかかわらず、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムを履修する前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表4に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。
- 10 前各項の規定にかかわらず、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムを履修する前期課程の学生であつて、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表4

に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。

- 11 前各項に定めるもののほか、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
- 12 前各項の規定にかかわらず、オナー大学院プログラムを履修する前期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表5に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。
- 13 前項の規定にかかわらず、オナー大学院プログラムを履修する前期課程の学生であつて、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表5に定める授業科目の中から講義により行われる授業科目の単位12単位以上及びセミナーの単位を合わせて30単位以上を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
- 14 前2項に定めるもののほか、オナー大学院プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
- 15 学生は、大学院横断教育科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。
- 16 学生は、指導教員及び専攻の承認を得て、リーディング科目又は国際交流科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。
- 17 学生は、他の専攻又は他の研究科の授業科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。
- 18 研究指導については、研究概要を毎年指定する期日までに研究科長に報告しなければならない。  
**(後期課程の履修方法)**

**第6条** 後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、各専攻（国際物理特別コースに入学を許可された学生にあつては、当該コース）が定める履修方法に基づき、別表1に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目

- 以上を履修し、その単位を修得しなければならない。
- 2 前項の規定にかかわらず、統合理学特別コースに入学を許可された学生は、必要な研究指導を受けるほか、指導教員の指示に従い、別表2に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
  - 3 前2項の規定にかかわらず、量子情報科学学位プログラムを履修する後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表3に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。
  - 4 前項の規定にかかわらず、量子情報科学学位プログラムを履修する後期課程の学生で、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表3に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
  - 5 前2項に定めるもののほか、量子情報科学学位プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
  - 6 前各項の規定にかかわらず、インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラムを履修する後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得するとともに、別表4に定める授業科目の中から別に定めるプログラム修了に要する単位を修得しなければならない。
  - 7 前各項の規定にかかわらず、インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラムを履修する後期課程の学生で、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得するとともに、別表4に定める授業科目の中から別に定めるプログラム修了に要する単位を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
  - 8 前2項に定めるもののほか、インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
  - 9 前各項の規定にかかわらず、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムを履修する後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表4に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。
  - 10 前各項の規定にかかわらず、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムを履修する前期課程の学生であつて、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表4に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。
  - 11 前各項に定めるもののほか、先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
  - 12 前各項の規定にかかわらず、オナー大学院プログラムを履修する後期課程の学生は、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表1及び別表5に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得しなければならない。
  - 13 前項の規定にかかわらず、オナー大学院プログラムを履修する前期課程の学生であつて、統合理学特別コースに入学を許可された者にあつては、必要な研究指導を受けるほか、別に定める履修方法により別表2及び別表5に定める授業科目の中から特別講義2科目以上及び特別セミナー1科目

以上を履修し、その単位を修得しなければならない。ただし、指導教員が必要と認めるときは、別表1に定める授業科目を履修し、当該コースの単位とすることができる。

- 14 前2項に定めるもののほか、オナー大学院プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。
- 15 前項までの規定にかかわらず、特別講義は、随時実施されるもの及び本研究科の前期課程又は他の研究科の授業科目のうち、指導教員が履修を指示したものを含むことができる。
- 16 学生は、大学院横断教育科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。
- 17 学生は、指導教員及び専攻の承認を得て、リーディングプログラム科目又は国際交流科目を履修し、当該専攻の単位とすることができる。
- 18 研究指導については、研究概要を毎年指定する期日までに研究科長に報告しなければならない。

#### (長期にわたる課程の履修)

**第6条の2** 研究科長は、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 前項の規定により計画的な履修を許可された学生に関し必要な事項は、別に定める。

#### (履修認定)

**第7条** 履修認定は、試験により授業科目担当教員が行い、これに合格した学生に対しては、当該授業科目所定の単位を与える。

- 2 試験の期日は、授業が終了した際、授業科目担当教員が適宜定める。

#### (修士論文及び最終試験)

**第8条** 修士論文は、所定の用紙により2通作成し、指定する期日までに提出するとともに、所定の様式によりその審査と最終試験の受験とを併せて申請しなければならない。

- 2 提出された論文の審査及び最終試験は、3名以上の審査委員により行うものとする。
- 3 前2項の規定にかかわらず、国際物理特別コース、統合理学特別コース及び先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラムを履修する前期課程の学生については、研究科委員会が当該博士課程の目的を達成するために必要と認める場合には、論文

の審査及び最終試験に代えて、大学院学則第15条第2項で定める試験及び審査を行うことができる。

- 4 前項に規定する大学院学則第15条第2項で定める試験及び審査の方法に関し必要な事項は、別に定める。

#### (博士論文及び最終試験)

**第9条** 後期課程の学生は、指導教員及び専攻の承認を得て、指定する期日又はその時期以後は随時に博士論文を提出するとともに、所定の様式によりその審査と最終試験の受験とを併せて申請することができる。

- 2 後期課程に3年以上在学し、所定の教育課程の履修を終えて退学した者が、別に定める期間内に博士論文を提出する場合についても前項同様とする。
- 3 前2項の申請に当たっては、提出する論文に、その目録、内容の要旨（論文が邦文によるときは欧文の梗概を付する。）及び履歴書を添付しなければならない。
- 4 提出された論文の審査及び最終試験は、3名以上の審査委員により行うものとする。

#### (最終試験の方法)

**第10条** 最終試験は、提出された論文の審査後において、審査委員会が適宜日時を定めて行う。その方法は、提出論文を中心として、それに関連ある科目について口頭試問又は筆答試問により行うものとする。ただし、公開研究業績発表会における当該申請者の発表をもってこれに代えることができる。

#### (他の大学院又は外国の大学院の教育課程の履修)

**第11条** 研究科委員会の議を経て研究科長が教育上有益と認める場合には、他の大学院又は外国の大学院の授業科目を第2条の2に規定する各専攻の授業科目として履修することができる。

- 2 前項のほか、研究科委員会の議を経て研究科長が教育上有益と認める場合には、他の大学院等又は外国の大学院等で研究指導を受けることができる。ただし、研究指導を受ける期間は、前期課程の学生にあつては、1年を超えることはできない。
- 3 前2項の規定による履修を志願する学生は、あらかじめ所定の手続によって申請し、許可を得なければならない。

**第12条** 前条の規定により、他の大学院等又は外国

の大学院等において修得した単位等については、研究科長は、審査の上、第5条及び第6条に規定する授業科目の単位又は研究指導として認定することができる。

- 2 前項の規定により認定できる単位数は、15単位を超えないものとする。

#### (入学前の既修得単位の認定)

**第13条** 研究科委員会の議を経て研究科長が教育上有益と認める場合には、本研究科入学前に大学院において修得した授業科目の単位（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）について、審査の上、第5条及び第6条に規定する授業科目の単位として認定することがある。

- 2 前項の規定により認定できる単位数のうち、本学大学院において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとし、前条第1項の規定により認定する単位数と合わせて20単位を超えないものとする。

#### (特別研究学生及び特別聴講学生)

**第14条** 本研究科において研究指導を受けようとする他の大学院若しくは外国の大学院に在学中の者又は本研究科において授業科目を履修しようとする他の大学院若しくは外国の大学院に在学中の者は、所定の手続に従い研究科長に願い出るものとする。

- 2 前項による志願者については、研究科長は、選考の上、研究指導を受ける者を特別研究学生として、また、授業科目を履修する者を特別聴講学生として、入学を許可することがある。

**第15条** 特別研究学生の在学期間は、1年を超えることができない。ただし、必要により更に在学を希望する者は、研究科長に、1年ごとに期間の延長を願い出て、許可を得なければならない。

- 2 特別聴講学生の在学期間は、履修する授業科目所定の授業期間とする。

**第16条** 特別聴講学生の履修認定、成績及び試験については、第7条の規定を準用する。

#### (科目等履修生)

**第17条** 科目等履修生は、正規学生の学修に差し支えない限り、次の各号のいずれかに該当する者について研究科長が選考の上、入学を許可する。

- (1) 大学若しくは専門職大学を卒業した者又は

これと同等以上の学力があると認められる者

- (2) その他本研究科において研究科長が適当と認める者

- 2 科目等履修生の入学手続、入学時期及び在学期間は、本学理学部規程第25条及び第26条の規定を準用する。

- 3 科目等履修生の履修認定、成績及び試験については、第7条の規定を準用する。

- 4 科目等履修生で単位を修得した者には、証明書を交付することができる。

#### (研究生)

**第18条** 研究生は、設備に差し支えない限り、次の各号のいずれかに該当する者について研究科長が選考の上、入学を許可する。

- (1) 修士の学位を有する者
- (2) 本研究科において研究科長が前号と同等以上の学力があると認める者

- 2 研究生の入学手続、入学時期、指導教員、在学期間、攻研究報告及び攻研究証明については、本学理学部規程第15条から第20条までの規定を準用する。

#### (規格外事項の処理)

**第19条** この規程に定めるもののほか、本研究科に関する必要な事項は、研究科委員会の議を経て研究科長が定める。

#### 附 則

(略)

#### 附 則

- 1 この改正は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。この場合において、改正前の別表の規定により、次表の左欄に掲げる授業科目の単位を修得した者は、改正後の別表の規定にかかわらず、対応右欄の授業科目を履修することができない。

左 欄	右 欄
磁性物理学序説 (2単位)	物性物理学3序説 (2単位)

#### 附 則

- 1 この改正は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第

5条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。この場合において、改正前の別表の規定により、次表の左欄に掲げる授業科目の単位を修得した者は、改正後の別表の規定にかかわらず、対応右欄の授業科目を履修することができない。

左 欄	右 欄
物性物理学3序説 (2単位)	物性物理学序説 (2単位)
原子核理論Ⅰ (2単位)	原子核理論 (2単位)
原子核理論特論Ⅰ (2単位)	原子核理論特論 (2単位)
生体機能物質学セミナーⅡ (9単位)	生体機能物質学 (9単位)
蛋白質反応機構学セミナーⅡ (9単位)	蛋白質反応機構学 (9単位)
蛋白質生理機能学セミナーⅡ (9単位)	蛋白質生理機能学 (9単位)
蛋白質細胞生物学セミナーⅡ (9単位)	蛋白質細胞生物学 (9単位)
代謝調節機構学セミナーⅡ (9単位)	代謝調節機構学 (9単位)
遺伝子機能学セミナーⅡ (9単位)	遺伝子機能学 (9単位)
情報伝達機構学セミナーⅡ (9単位)	情報伝達機構学 (9単位)
遺伝子情報学セミナーⅡ (9単位)	遺伝子情報学 (9単位)
糖鎖生化学セミナーⅡ (9単位)	糖鎖生化学 (9単位)
極限生物学セミナーⅡ (9単位)	極限生物学 (9単位)
分子神経生物学セミナーⅡ (9単位)	分子神経生物学 (9単位)
蛋白質化学セミナーⅡ (9単位)	蛋白質化学 (9単位)
蛋白質物理化学セミナーⅡ (9単位)	蛋白質物理化学 (9単位)
構造分子生物学セミナーⅡ (9単位)	構造分子生物学 (9単位)
生体膜分子生化学セミナーⅡ (9単位)	生体膜分子生化学 (9単位)
細胞機能構造学セミナーⅡ (9単位)	細胞機能構造学 (9単位)
代謝機能生物学セミナーⅡ (9単位)	代謝機能生物学 (9単位)
生命誌学セミナーⅡ (9単位)	生命誌学 (9単位)

#### 附 則

- 1 この改正は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得

単位数に算入するものとする。

#### 附 則

この改正は、平成17年12月16日から施行する。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

この改正は、平成22年10月1日から施行する。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。
- 3 平成23年3月31日現在統合理学特別コースに在学する者については、改正後の別表2の規定にか

かわらず、なお従前の例による。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成23年10月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表2の規定にかかわらず、第5条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項及び第2項並びに第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成26年10月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項及び第2項並びに第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項及び第2項並びに第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成27年10月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位

については、改正後の別表1の規定にかかわらず、第5条第1項及び第6条第1項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項、同条第2項、第6条第1項及び同条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項、同条第2項、第6条第1項及び同条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項、同条第2項、第6条第1項及び同条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月31日現在在学中の者については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 3 この改正施行の際既に修得した授業科目の単位については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、第5条第1項、同条第2項、第6条第1項及び同条第2項に定める必要修得単位数に算入するものとする。

#### 附 則

- 1 この改正は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和2年3月31日現在前期課程に在学中の者については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 前項の場合における改正前の別表1の適用については、化学専攻（前期課程）の表中「

○	○	界面分析化学(1)	1	
---	---	-----------	---	--

」とあるのは「

<input type="checkbox"/>		界面分析化学(I)	1	
--------------------------	--	-----------	---	--

」と、

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	量子化学(I)	1	
--------------------------	--------------------------	---------	---	--

」とあるのは「

<input type="checkbox"/>		量子化学(I)	1	
--------------------------	--	---------	---	--

」と、

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ゲノム化学(I)	1	
--------------------------	--------------------------	----------	---	--

」とあるのは「

<input type="checkbox"/>		ゲノム化学(I)	1	
--------------------------	--	----------	---	--

」と、

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	蛋白質分子化学(I)	1	
--------------------------	--------------------------	------------	---	--

」とあるのは「

<input type="checkbox"/>		蛋白質分子化学(I)	1	
--------------------------	--	------------	---	--

」と、

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	生体分子化学(II)	1	
--------------------------	--------------------------	------------	---	--

」とあるのは「

<input type="checkbox"/>		生体分子化学(II)	1	
--------------------------	--	------------	---	--

」と、

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	物性有機化学(I)	1	
--------------------------	--------------------------	-----------	---	--

」とあるのは「

<input type="checkbox"/>		物性有機化学(I)	1	
--------------------------	--	-----------	---	--

」と、それぞれ読み替えるものとし、数学専攻(前期課程)の表中に「

	<input type="checkbox"/>	実践科学英語A	1	
	<input type="checkbox"/>	実践科学英語B	1	

」を、物理学専攻(前期課程)の表中に「

<input type="checkbox"/>		Electrodynamics and Quantum Mechanic	1	
	<input type="checkbox"/>	実践科学英語A	1	
	<input type="checkbox"/>	実践科学英語B	1	
<input type="checkbox"/>		物性理論半期セミナーIV	4.5	
<input type="checkbox"/>		原子核実験半期セミナー	4.5	
	<input type="checkbox"/>	海外文献研究(物性理論IV)	1	

」を、化学専攻(前期課程)の表中に「

<input type="checkbox"/>		大学院有機化学 I	2	
<input type="checkbox"/>		大学院有機化学 II	2	
	<input type="checkbox"/>	Biomolecular Chemistry	1	
	<input type="checkbox"/>	Analytical Chemistry for Interface	1	
	<input type="checkbox"/>	Chemistry on Catalysis	1	
	<input type="checkbox"/>	Genome Chemistry	1	
	<input type="checkbox"/>	Natural Product Chemistry	1	
	<input type="checkbox"/>	Organic Biochemistry	1	
	<input type="checkbox"/>	Physical Organic Chemistry	1	
	<input type="checkbox"/>	Protein Chemistry	1	
	<input type="checkbox"/>	Quantum Chemistry	1	

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Structural Organic Chemistry	1	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Thermal and Entropic Science	1	
<input type="checkbox"/>		熱・エントロピー科学(I)	1	
<input type="checkbox"/>		複合分子化学(I)	1	
	<input type="checkbox"/>	実践科学英語A	1	
	<input type="checkbox"/>	実践科学英語B	1	
<input type="checkbox"/>		複合分子化学特論	1	
<input type="checkbox"/>		熱・エントロピー科学特論	1	
<input type="checkbox"/>		熱・エントロピー科学半期セミナー I	4.5	
<input type="checkbox"/>		熱・エントロピー科学半期セミナー II	4.5	
<input type="checkbox"/>		複合分子化学半期セミナー I	4.5	
<input type="checkbox"/>		複合分子化学半期セミナー II	4.5	

」を、生物科学専攻(前期課程)の表中に「

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	実践科学英語A	1	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	実践科学英語B	1	
<input type="checkbox"/>		生物無機化学半期セミナー	4.5	
<input type="checkbox"/>		生体統御学半期セミナー	4.5	
<input type="checkbox"/>		RNA生物学半期セミナー	4.5	

」を、高分子科学専攻(前期課程)の表中に「

<input type="checkbox"/>		高分子キャラクタリゼーション特論	1	
<input type="checkbox"/>		高分子材料設計学特論	1	
<input type="checkbox"/>		蛋白質構造基礎論3	1	
	<input type="checkbox"/>	実践科学英語A	1	
	<input type="checkbox"/>	実践科学英語B	1	
<input type="checkbox"/>		生体高分子電子線構造解析学半期セミナー	4.5	

」を、宇宙地球科学専攻(前期課程)の表中に「

<input type="checkbox"/>		非平衡物理学	2	
<input type="checkbox"/>		理論物質学セミナー	4.5	
<input type="checkbox"/>		ソフトマター地球惑星科学セミナー	4.5	
	<input type="checkbox"/>	実践科学英語A	1	
	<input type="checkbox"/>	実践科学英語B	1	

」をそれぞれ加えるものとする。

4 第2項の場合における改正前の別表2の適用については、化学専攻(統合理学特別コース)(前期課程)、生物科学専攻(統合理学特別コース)(前期課程)及び高分子科学専攻(統合理学特別コース)(前期課程)の表中に「

Thermal and Entropic Science	1	
------------------------------	---	--

」を加えるものとする。

5 令和2年3月31日現在後期課程に在学中の者については、改正後の第2条第5項、第6条第6項、第7項及び第8項並びに別表1、別表2及び別表4の規定にかかわらず、なお従前の

例による。この場合における改正前の別表1の適用については、数学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	

」を、物理学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	
○		物性理論特別セミナーIV	9	

」を、化学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	
○		熱・エントロピー科学特別セミナーI	9	
○		熱・エントロピー科学特別セミナーII	9	
○		熱・エントロピー科学特別セミナーIII	9	
○		複合分子化学特別セミナーI	9	
○		複合分子化学特別セミナーII	9	
○		複合分子化学特別セミナーIII	9	

」を、生物科学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	
○		生物無機化学特別セミナー	9	
○		生体統御学特別セミナー	9	
○		RNA生物学特別セミナー	9	

」を、高分子科学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	
○		生体高分子電子線構造解析学特別セミナー	9	

」を、宇宙地球科学専攻（後期課程）の表中に「

	○	実践科学英語A	1	
	○	実践科学英語B	1	
○		理論物質学特別セミナー	9	
○		ソフトマター地球惑星科学特別セミナー	9	

」をそれぞれ加えるものとする。

#### 附 則

- この改正は、令和3年4月1日から施行する。
- 令和3年3月31日現在前期課程に在学中の者については、改正後の別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 前項の場合における改正前の別表1の適用については、数学専攻（前期課程）の表中に「

	○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
--	---	--------------------------------------	---	-------

」を、物理学専攻（前期課程）の表中に「

○		物質科学概論	2	
	○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
○		レーザープラズマ加速ビーム半期セミナー	4.5	
	○	海外文献研究（レーザープラズマ加速ビーム）	1	

」を、化学専攻（前期課程）の表中に「

○	○	Bio/Chemoinformatics	1	
○	○	Complex Molecular Chemistry	1	
	○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
○		計算生物学半期セミナーI	4.5	
○		計算生物学半期セミナーII	4.5	

をそれぞれ加え、同表中「

	○	Biomolecular Chemistry	1	
	○	Analytical Chemistry for Interface	1	
	○	Chemistry on Catalysis	1	
	○	Genome Chemistry	1	
	○	Natural Product Chemistry	1	
	○	Organic Biochemistry	1	

」とあるのは「

○	○	Biomolecular Chemistry	1	
○	○	Analytical Chemistry for Interface	1	
○	○	Chemistry on Catalysis	1	
○	○	Genome Chemistry	1	
○	○	Natural Product Chemistry	1	
○	○	Organic Biochemistry	1	

」と、

	○	Protein Chemistry	1	
	○	Quantum Chemistry	1	
	○	Structural Organic Chemistry	1	
	○	Thermal and Entropic Science	1	

」とあるのは「

○	○	Protein Chemistry	1	
○	○	Quantum Chemistry	1	
○	○	Structural Organic Chemistry	1	
○	○	Thermal and Entropic Science	1	

」とそれぞれ読み替え、生物科学専攻（前期課程）の表中に「

	○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
○		計算生物学半期セミナー	4.5	
○		電子線構造生物学半期セミナー	4.5	

」を、高分子科学専攻（前期課程）の表中に「

	○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
--	---	--------------------------------------	---	-------

」を、宇宙地球科学専攻（前期課程）の表中に「

○		高エネルギー天文学	2	
○		天体物理の基礎	1	
	○	Radiation science in the environment	1	講義・実習

」をそれぞれ加えるものとする。

- 4 第2項の場合における改正前の別表2の適用については、化学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）、生物科学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）及び高分子科学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）の表中に「

Bio/Chemoinformatics	1	
Complex Molecular Chemistry	1	
Radiation science in the environment	1	

」を加えるものとする。

- 5 令和3年3月31日現在後期課程に在学中の者については、改正後の別表1の規定にかかわらず、なお従前の例による。この場合における改正前の別表1の適用については、数学専攻（後期課程）の表中に「

		○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
--	--	---	--------------------------------------	---	-------

」を、物理学専攻（後期課程）の表中に「

		○	Radiation science in the environment レーザープラズマ加速ビーム特別セミナー	1 9	講義・実習
--	--	---	---	--------	-------

」を、化学専攻（後期課程）の表中に「

		○	Radiation science in the environment 計算生物学特別セミナーⅠ 計算生物学特別セミナーⅡ 計算生物学特別セミナーⅢ	1 9 9 9	講義・実習
--	--	---	--	------------------	-------

」を、生物科学専攻（後期課程）の表中に「

		○	Radiation science in the environment 計算生物学特別セミナー 電子線構造生物学特別セミナー	1 9 9	講義・実習
--	--	---	---	-------------	-------

」を、高分子科学専攻（後期課程）の表中に「

		○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
--	--	---	--------------------------------------	---	-------

」を、宇宙地球科学専攻（後期課程）の表中に「

		○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
--	--	---	--------------------------------------	---	-------

」をそれぞれ加えるものとする。

#### 附 則

- この改正は、令和4年4月1日から施行する。
- 令和4年3月31日現在前期課程に在学中の者については、改正後の第5条並びに別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 前項の場合における改正前の第5条の適用については、同条第10項中「又はグローバルイニシアティブ科目」とあるのは、「グローバルイニシアティブ科目又は国際交流科目」と読み替えるものとし、改正前の別表1の適用については、物理学専攻（前期課程）の表中に「

○			放射線計測学1	2	
---	--	--	---------	---	--

○			高エネルギー密度プラズマ科学	2	
○			放射線計測学2	2	
○			Theoretical Particle Physics	2	
○			Cosmology	2	
○			High Energy Astrophysics	2	
○			基礎原子核物理学半期セミナー	4.5	
○			ナノスケール物性半期セミナー	4.5	
○		○	海外文献研究（基礎原子核物理学）	1	
○		○	海外文献研究（ナノスケール物性）	1	

」を、生物科学専攻（前期課程）の表中に「

○			生物分子機械設計学半期セミナー	4.5	
○			生体非平衡物理学半期セミナー	4.5	

」を、宇宙地球科学専攻（前期課程）の表中に「

○			非平衡物理学	1	
○			非平衡現象論	1	
○			Cosmology	2	
○			High Energy Astrophysics	2	

」を、それぞれ加えるものとする。

- 4 令和4年3月31日現在後期課程に在学中の者については、改正後の第6条及び別表1の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 5 前項の場合における改正前の第6条の適用については、同条第11項中「又はグローバルイニシアティブ科目」とあるのは、「グローバルイニシアティブ科目又は国際交流科目」と読み替えるものとし、改正前の別表1の適用については、物理学専攻（後期課程）の表中に「

○			基礎原子核物理学特別セミナー	9	
○			ナノスケール物性特別セミナー	9	

」を、生物科学専攻（後期課程）の表中に「

○			生物分子機械設計学特別セミナー	9	
○			生体非平衡物理学特別セミナー	9	

」を、高分子科学専攻（後期課程）の表中に「

○			高分子精密化学特論(S)	1	
---	--	--	--------------	---	--

」を、それぞれ加えるものとする。

#### 附 則

- この改正は、令和5年4月1日から施行する。
- 令和5年3月31日現在前期課程に在学中の者については、改正後の第5条並びに別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 前項の場合における改正前の別表1の適用については、数学専攻（前期課程）の表中に「

○			量子情報・統計数学概論	2	
○			代数幾何学特論Ⅰ	2	
○			代数幾何学特論Ⅱ	2	
○			整数論特論Ⅰ	2	
○			整数論特論Ⅱ	2	

」を、物理学専攻（前期課程）の表中に「

○			素粒子原子核物理学序論	2	
○			素粒子物理学序論	2	

○		素粒子原子核宇宙論序論	2	
○		ナノスケール物理学	2	

」を、化学専攻（前期課程）の表中に「

○		核化学Ⅰ(Ⅰ)	1	
○		吸着化学(Ⅰ)	1	
○		吸着化学半期セミナーⅠ	4.5	
○		吸着化学半期セミナーⅡ	4.5	

」を、宇宙地球科学専攻（前期課程）の表中に「

○		天体輻射論	2	
---	--	-------	---	--

」を、それぞれ加えるものとする。

4 令和5年3月31日現在後期課程に在学中の者については、改正後の第6条及び別表1の規定にかかわらず、なお従前の例による。

5 令和5年3月31日現在後期課程に在学中の者については、改正後の別表1に関わらず、なお従前の例による。この場合における改正前の別表1の適用については、化学専攻（後期課程）の表中に「

○		吸着化学特別セミナーⅠ	9	
○		吸着化学特別セミナーⅡ	9	
○		吸着化学特別セミナーⅢ	9	

」を、加えるものとする。

#### 附 則

- この改正は、令和6年4月1日から施行する。
- 令和6年3月31日現在前期課程に在学中の者については、改正後の別表1の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 前項の場合における改正前の別表1の適用については、化学専攻（前期課程）の表中に「

○		機能分子材料(Ⅰ)	1	
○		機能分子材料特論	1	
○		構造生命化学特論Ⅰ	1	
○		構造生命化学特論Ⅱ	1	
○		機能分子材料半期セミナーⅠ	4.5	
○		機能分子材料半期セミナーⅡ	4.5	

」を、生物科学専攻（前期課程）の表中に「

○		高分子溶液論半期セミナー	4.5	
○		蛋白質デザイン半期セミナー	4.5	
○		生体分子モデリング&ダイナミクス半期セミナー	4.5	
○		分子原虫学半期セミナー	4.5	
○		器官形態制御学半期セミナー	4.5	
○		蛋白質物理生物学半期セミナー	4.5	
○		植物細胞運命制御半期セミナー	4.5	
○		生物科学インタラクティブセミナーⅠ	1	

」を、高分子科学専攻（前期課程）の表中に「

○		高分子構造特論1	1	
○		高分子構造特論2	1	

」を、宇宙地球科学専攻（前期課程）の表中に「

○		実験室宇宙物理学	1	
---	--	----------	---	--

」を、それぞれ加えるものとする。

- 第2項の場合における改正前の別表2の適用については、化学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）、生物科学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）及び高分子科学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）の表中に「

Science CoreⅠ	1	
Science CoreⅡ	1	
Science CoreⅢ	1	
Science CoreⅣ	1	

」を加えるものとする。

- 令和6年3月31日現在後期課程に在学中の者については、改正後の別表1の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 前項の場合における改正前の別表1の適用については、化学専攻（後期課程）の表中に「

○		機能分子材料特別セミナーⅠ	9	
○		機能分子材料特別セミナーⅡ	9	
○		機能分子材料特別セミナーⅢ	9	

」を、生物科学専攻（後期課程）の表中に「

○		高分子溶液論特別セミナー	9	
○		蛋白質デザイン特別セミナー	9	
○		生体分子モデリング&ダイナミクス特別セミナー	9	
○		分子原虫学特別セミナー	9	
○		器官形態制御学特別セミナー	9	
○		蛋白質物理生物学特別セミナー	9	
○		植物細胞運命制御特別セミナー	9	

」を、それぞれ加えるものとする。

#### 附 則

- この改正は、令和7年4月1日から施行する。
- 令和7年3月31日現在前期課程に在学中の者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 前項の場合における改正前の別表1の適用については、物理学専攻（前期課程）の表中に「

○		核子多体理論	2	
○		Theoretical Particle PhysicsⅠ	2	
○		Theoretical Particle PhysicsⅡ	2	
○		高エネルギープラズマ物性理論半期セミナーⅠ	4.5	
○		高エネルギープラズマ物性理論半期セミナーⅡ	4.5	
○		海外文献研究（高エネルギープラズマ物性理論Ⅰ）	1	
○		海外文献研究（高エネルギープラズマ物性理論Ⅱ）	1	

」を、化学専攻（前期課程）の表中に「

○	○	Biomolecular Chemistry	1	
○	○	Functional Molecules and Materials	1	
○	○	Biological Regulation Chemistry	1	

○	○	Membrane Systems Biology	1
○	○	Radiation Chemical Biology	1
○		半導体ナノテクノロジーの化学(I)	1
○		生体分子化学(I)	1
○		生命制御化学 (I)	1
○		膜システム生物学 (I)	1
○		放射線化学生物学 (I)	1
○		生体分子化学特論	1
○		生命制御化学特論	1
○		膜システム生物学特論	1
○		放射線化学生物学特論	1
○		金属有機融合材料半期セミナー I	4.5
○		金属有機融合材料半期セミナー II	4.5
○		生体分子化学半期セミナー I	4.5
○		生体分子化学半期セミナー II	4.5
○		生命制御化学半期セミナー I	4.5
○		生命制御化学半期セミナー II	4.5
○		膜システム生物学半期セミナー I	4.5
○		膜システム生物学半期セミナー II	4.5
○		放射線化学生物学半期セミナー I	4.5
○		放射線化学生物学半期セミナー II	4.5

」を、生物科学専攻（前期課程）の表中に「

○		放射線化学生物学半期セミナー	4.5
○		細胞機能デザイン半期セミナー	4.5
○		生物分子認識学半期セミナー	4.5

」を、高分子科学専攻（前期課程）の表中に「

○		高分子合成化学特論 1	1
○		高分子合成化学特論 2	1
○		高分子凝集論半期セミナー	4.5

」を、宇宙地球科学専攻（前期課程）の表中に「

○		生命惑星進化学セミナー	4.5
○		地球生命進化論	1

」を、それぞれ加えるものとする。

- 4 第2項の場合における改正前の別表2の適用については、化学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）、生物科学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）及び高分子科学専攻（統合理学特別コース）（前期課程）の表中に「

Biomolecular Chemistry	1
Functional Molecules and Materials	1
Biological Regulation Chemistry	1
Membrane Systems Biology	1
Radiation Chemical Biology	1

」を加えるものとする。

- 5 令和7年3月31日現在後期課程に在学中の者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 6 前項の場合における改正前の別表1の適用については、物理学専攻（後期課程）の表中に「

○		高エネルギープラズマ物性理論特別セミナー I	9
○		高エネルギープラズマ物性理論特別セミナー II	9

」を、化学専攻（後期課程）の表中に「

○		金属有機融合材料特別セミナー I	9
○		金属有機融合材料特別セミナー II	9
○		金属有機融合材料特別セミナー III	9
○		生体分子化学特別セミナー I	9
○		生体分子化学特別セミナー II	9
○		生体分子化学特別セミナー III	9
○		生命制御化学特別セミナー I	9
○		生命制御化学特別セミナー II	9
○		生命制御化学特別セミナー III	9
○		膜システム生物学特別セミナー I	9
○		膜システム生物学特別セミナー II	9
○		膜システム生物学特別セミナー III	9
○		放射線化学生物学特別セミナー I	9
○		放射線化学生物学特別セミナー II	9
○		放射線化学生物学特別セミナー III	9

」を、生物科学専攻（後期課程）の表中に「

○		放射線化学生物学特別セミナー	9
○		細胞機能デザイン特別セミナー	9
○		生物分子認識学特別セミナー	9

」を、宇宙地球科学専攻（後期課程）の表中に「

○		生命惑星進化学特別セミナー	9
---	--	---------------	---

」を、それぞれ加えるものとする。

### 附 則

- この改正は、令和8年4月1日から施行する。
- 令和8年3月31日現在前期課程在学中の者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 前項の場合における改正前の別表1の適用については、数学専攻（前期課程）の表中に「

○		数理生物学概論	2
○		代数学セミナー	4.5
○		幾何学セミナー	4.5
○		解析学セミナー	4.5
○		大域数理学セミナー	4.5
○		実験数学セミナー	4.5
○		応用数理学セミナー	4.5
○		現代数理学セミナー	4.5
○	○	海外文献研究(代数学)	1
○	○	海外文献研究(幾何学)	1
○	○	海外文献研究(解析学)	1
○	○	海外文献研究(大域数理学)	1
○	○	海外文献研究(実験数学)	1
○	○	海外文献研究(応用数理学)	1
○	○	海外文献研究(現代数理学)	1

」を、物理学専攻（前期課程）の表中に「

○		素粒子論的宇宙論	2
○		Theory of Particles and Cosmology	2
○		X-ray Astronomy	1
○		Astrophysical Radiative Processes	1
○		Introduction to Astrophysics	1
○		ハドロン実験学半期セミナー	4.5
○		素粒子・核反応半期セミナー	4.5

	○		海外文献研究 (ハドロン実験学)	1	
	○		海外文献研究 (素粒子・核反応)	1	

」を、化学専攻（前期課程）の表中に「

○	○		Structural Coordination Chemistry	1	
---	---	--	-----------------------------------	---	--

」を、生物科学専攻（前期課程）の表中に「

○			寄生虫学半期セミナー	4.5	
---	--	--	------------	-----	--

」を、宇宙地球科学専攻（前期課程）の表中に「

○			生命の起源・進化学概論	1	
○			パターン形成物理学	1	
○			X-ray Astronomy	1	
○			Astrophysical Radiative Processes	1	
○			Introduction to Astrophysics	1	

」を、それぞれ加えるものとする。

4 令和8年3月31日現在後期課程在学中の者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

5 前項の場合における改正前の別表1の適用については、数学専攻（後期課程）の表中に「

○			代数学特別セミナー	4.5	
○			幾何学特別セミナー	4.5	
○			解析学特別セミナー	4.5	
○			大域数理学特別セミナー	4.5	
○			実験数学特別セミナー	4.5	
○			応用数理学特別セミナー	4.5	
○			現代数理学特別セミナー	4.5	

」を、物理学専攻（後期課程）の表中に「

○			ハドロン実験学特別セミナー	9	
○			素粒子・核反応特別セミナー	9	

」を、生物科学専攻（後期課程）の表中に「

○			寄生虫学特別セミナー	9	
---	--	--	------------	---	--

」を、それぞれ加えるものとする。

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

数学専攻

(前期課程)

専門教育科目	高度国際性 高度教育科目	高度教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度国際性 高度教育科目	高度教育科目	授業科目	単位	備考
○			代数学概論 I	2		○			関数解析学特論	2	
○			代数学概論 II	2		○			微分方程式特論	2	
○			代数幾何学概論 I	2		○			確率論特論	2	
○			代数幾何学概論 II	2		○			応用数理学特論 I	2	
○			整数論概論 I	2		○			応用数理学特論 II	2	
○			整数論概論 II	2		○			数理物理学特論	2	
○			表現論概論	2		○			○ 科学技術論A1	1	
○			幾何学概論 I	2		○			○ 科学技術論A2	1	
○			幾何学概論 II	2		○			○ 科学技術論B1	1	
○			微分幾何学概論 I	2		○			○ 科学技術論B2	1	
○			微分幾何学概論 II	2		○			○ 研究者倫理特論	0.5	
○			位相幾何学概論 I	2		○			○ 科学論文作成概論	0.5	
○			位相幾何学概論 II	2		○			○ 研究実践特論	0.5	
○			複素幾何学概論 I	2		○			○ 企業研究者特別講義	0.5	
○			複素幾何学概論 II	2		○			○ Radiation science in the environment	1	講義・実習
○			解析学概論 I	2		○			○ 実践科学英語 A	1	
○			解析学概論 II	2		○			○ 実践科学英語 B	1	
○			関数解析学概論	2		○			○ 科学英語基礎	1	
○			微分方程式概論 I	2		○			○ 先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○			微分方程式概論 II	2		○			○ 先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			確率論概論 I	2		○			○ 先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○			確率論概論 II	2		○			○ 先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○			代数解析学概論	2		○			○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○			力学系概論	2		○			○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○			統計・情報数学概論	2		○			○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○			数理生物学概論	2		○			○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○			実験数学概論 I	2		○			○ ナノフォトニクス学	1	実習
○			実験数学概論 II	2		○			○ 数学特別講義 I A	1	
○			組合せ論概論	2		○			○ 数学特別講義 I B	1	
○			応用数理学概論 I	2		○			○ 数学特別講義 II A	1	
○			応用数理学概論 II	2		○			○ 数学特別講義 II B	1	
○			数理物理学概論 I	2		○			○ 数学特別講義 III A	1	
○			数理物理学概論 II	2		○			○ 数学特別講義 III B	1	
○			量子情報・統計数学概論	2		○			○ 数学特別講義 IV A	1	
○			複雑系概論	2		○			○ 数学特別講義 IV B	1	
○			数理工学概論	2		○			○ 数学特別講義 V A	1	
○			代数学特論	2		○			○ 数学特別講義 V B	1	
○			代数幾何学特論 I	2		○			○ 数学特別講義 VI A	1	
○			代数幾何学特論 II	2		○			○ 数学特別講義 VI B	1	
○			整数論特論 I	2		○			○ 数学特別講義 VII A	1	
○			整数論特論 II	2		○			○ 数学特別講義 VII B	1	
○			表現論特論	2		○			○ 数学特別講義 VIII A	1	
○			幾何学特論	2		○			○ 数学特別講義 VIII B	1	
○			解析学特論	2		○			○ 数学特別講義 IX A	1	

専門教育科目	高度国際性 領域教育科目	高度教育教育科目	授業科目	単位	備考
○			数学特別講義IXB	1	
○			数学特別講義XA	1	
○			数学特別講義XB	1	
○			代数学セミナー	4.5	
○			幾何学セミナー	4.5	
○			解析学セミナー	4.5	
○			大域数理学セミナー	4.5	
○			実験数学セミナー	4.5	
○			応用数理学セミナー	4.5	

専門教育科目	高度国際性 領域教育科目	高度教育教育科目	授業科目	単位	備考
○			現代数理学セミナー	4.5	
○			海外文献研究(代数学)	1	
○			海外文献研究(幾何学)	1	
○			海外文献研究(解析学)	1	
○			海外文献研究(大域数理学)	1	
○			海外文献研究(実験数学)	1	
○			海外文献研究(応用数理学)	1	
○			海外文献研究(現代数理学)	1	

## (後期課程)

専門教育科目 高度教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○	特別講義 I A	1	
○	特別講義 I B	1	
○	特別講義 II A	1	
○	特別講義 II B	1	
○	特別講義 III A	1	
○	特別講義 III B	1	
○	特別講義 IV A	1	
○	特別講義 IV B	1	
○	特別講義 V A	1	
○	特別講義 V B	1	
○	特別講義 VI A	1	
○	特別講義 VI B	1	
○	特別講義 VII A	1	
○	特別講義 VII B	1	
○	特別講義 VIII A	1	
○	特別講義 VIII B	1	
○	特別講義 IX A	1	
○	特別講義 IX B	1	
○	特別講義 X A	1	
○	特別講義 X B	1	
○	科学技術論A1	1	
○	科学技術論A2	1	
○	科学技術論B1	1	
○	科学技術論B2	1	
○	研究者倫理特論	0.5	
○	科学論文作成概論	0.5	

専門教育科目 高度教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○	研究実践特論	0.5	
○	企業研究者特別講義	0.5	
○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
○	企業インターンシップ	1	
○	実践科学英語 A	1	
○	実践科学英語 B	1	
○	科学英語基礎	1	
○	先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○	先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○	先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○	先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○	ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○	超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○	ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○	ナノフォトニクス学	1	実習
○	産学リエゾン PAL 教育研究訓練	5	
○	高度学際萌芽研究訓練	5	
○	代数学特別セミナー	4.5	
○	幾何学特別セミナー	4.5	
○	解析学特別セミナー	4.5	
○	大域数理学特別セミナー	4.5	
○	実験数学特別セミナー	4.5	
○	応用数理学特別セミナー	4.5	
○	現代数理学特別セミナー	4.5	

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

物理学専攻

(前期課程)

専門教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単 位	備 考
○	場の理論序説	2	
○	原子核理論序説	2	
○	散乱理論	2	
○	一般相対性理論	2	
○	素粒子原子核物理学序論	2	
○	素粒子物理学序論	2	
○	原子核物理学序論	2	
○	素粒子原子核宇宙論序論	2	
○	固体物理学概論 1	2	
○	固体物理学概論 2	2	
○	固体物理学概論 3	2	
○	光物性物理学	2	
○	極限光物理学	2	
○	加速器科学	2	
○	複雑系物理学	2	
○	ニュートリノ物理学	2	
○	非線形物理学	2	
○	原子核反応論	2	
○	素粒子物理学 I	2	
○	素粒子物理学 II	2	
○	場の理論 I	2	
○	場の理論 II	2	
○	素粒子論的宇宙論	2	
○	原子核理論	2	
○	物性理論 I	2	
○	物性理論 II	2	
○	固体電子論 I	2	
○	固体電子論 II	2	
○	量子多体系の物理	2	
○	計算物理学	2	
○	高エネルギー密度プラズマ科学	2	
○	核子多体理論	2	
○	素粒子物理学特論 I	2	
○	素粒子物理学特論 II	2	
○	原子核理論特論 I	2	
○	原子核理論特論 II	2	
○	物性理論特論 I	2	
○	物性理論特論 II	2	
○	高エネルギー物理学 I	2	
○	高エネルギー物理学 II	2	
○	原子核構造学	2	
○	加速器物理学	2	
○	放射線計測学 1	2	
○	放射線計測学 2	2	

専門教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単 位	備 考
○	高エネルギー物理学特論 I	2	
○	高エネルギー物理学特論 II	2	
○	素粒子・核分光学特論	2	
○	原子核物理学特論 I	2	
○	原子核物理学特論 II	2	
○	ハドロン多体系物理学特論	2	
○	半導体物理学	2	
○	超伝導物理学	2	
○	シンクロトロン分光学	2	
○	物質科学概論	2	
○	荷電粒子光学概論	2	
○	孤立系イオン物理学	2	
○	ナノスケール物理学	2	
○	強磁場物理学	2	
○	レーザー物理学	2	
○	界面物性物理学	2	
○	強相関系物理学	2	
○	Electrodynamics and Quantum Mechanics	1	
○	Quantum Field Theory I	2	
○	Quantum Field Theory II	2	
○	Theory of Particles and Cosmology	2	
○	Theoretical Particle Physics I	2	
○	Theoretical Particle Physics II	2	
○	Introduction to Theoretical Nuclear Physics	2	
○	Quantum Many-body Systems	2	
○	Condensed Matter Theory	2	
○	Solid State Theory	2	
○	High Energy Physics	2	
○	Nuclear Physics in the Universe	2	
○	Optical Properties of Matter	2	
○	Synchrotron Radiation Spectroscopy	2	
○	Computational Physics	2	
○	Cosmology	1	
○	High Energy Astrophysics	2	
○	X-ray Astronomy	1	
○	Astrophysical Radiative Processes	1	
○	Introduction to Astrophysics	1	
○	科学技術論A1	1	
○	科学技術論A2	1	
○	科学技術論B1	1	
○	科学技術論B2	1	
○	研究者倫理特論	0.5	
○	科学論文作成概論	0.5	
○	研究実践特論	0.5	

専門教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
	○ 企業研究者特別講義	0.5	
	○ Radiation science in the environment	1	講義・実習
○	○ 実践科学英語 A	1	
○	○ 実践科学英語 B	1	
○	○ 科学英語基礎	1	
○	○ 先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○	○ 先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○	○ 先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○	○ 先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
	○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
	○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
	○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
	○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
	○ ナノフォトニクス学	1	実習
○	○ 素粒子論半期セミナー I	4.5	
○	○ 素粒子論半期セミナー II	4.5	
○	○ 場の理論半期セミナー I	4.5	
○	○ 場の理論半期セミナー II	4.5	
○	○ 原子核理論半期セミナー I	4.5	
○	○ 原子核理論半期セミナー II	4.5	
○	○ 多体問題半期セミナー II	4.5	
○	○ 物性理論半期セミナー I	4.5	
○	○ 物性理論半期セミナー II	4.5	
○	○ 物性理論半期セミナー III	4.5	
○	○ 物性理論半期セミナー IV	4.5	
○	○ 数理物理学半期セミナー	4.5	
○	○ 高エネルギープラズマ物性理論半期セミナー I	4.5	
○	○ 高エネルギープラズマ物性理論半期セミナー II	4.5	
○	○ 高エネルギー物理学半期セミナー I	4.5	
○	○ 高エネルギー物理学半期セミナー II	4.5	
○	○ 原子核実験学半期セミナー	4.5	
○	○ ハドロン実験学半期セミナー	4.5	
○	○ 素粒子・核反応半期セミナー	4.5	
○	○ 基礎原子核物理学半期セミナー	4.5	
○	○ 加速器科学半期セミナー	4.5	
○	○ 高エネルギー密度物理半期セミナー	4.5	
○	○ レーザプラズマ加速ビーム半期セミナー	4.5	
○	○ ナノスケール物性半期セミナー	4.5	
○	○ 質量分析物理半期セミナー	4.5	
○	○ 超伝導半期セミナー	4.5	

専門教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○	○ 界面物性半期セミナー	4.5	
○	○ 半導体半期セミナー	4.5	
○	○ 量子物性半期セミナー	4.5	
○	○ 光物性半期セミナー	4.5	
○	○ 強磁場物理半期セミナー	4.5	
○	○ Semestral Seminar I	4.5	
○	○ Semestral Seminar II	4.5	
○	○ Semestral Seminar III	4.5	
○	○ Semestral Seminar IV	4.5	
○	○ 海外文献研究(素粒子論 I)	1	
○	○ 海外文献研究(素粒子論 II)	1	
○	○ 海外文献研究(場の理論 I)	1	
○	○ 海外文献研究(場の理論 II)	1	
○	○ 海外文献研究(原子核理論 I)	1	
○	○ 海外文献研究(原子核理論 II)	1	
○	○ 海外文献研究(多体問題 II)	1	
○	○ 海外文献研究(物性理論 I)	1	
○	○ 海外文献研究(物性理論 II)	1	
○	○ 海外文献研究(物性理論 III)	1	
○	○ 海外文献研究(物性理論 IV)	1	
○	○ 海外文献研究(数理物理学)	1	
○	○ 海外文献研究(高エネルギープラズマ物性理論 I)	1	
○	○ 海外文献研究(高エネルギープラズマ物性理論 II)	1	
○	○ 海外文献研究(高エネルギー物理学 I)	1	
○	○ 海外文献研究(高エネルギー物理学 II)	1	
○	○ 海外文献研究(原子核実験学)	1	
○	○ 海外文献研究(ハドロン実験学)	1	
○	○ 海外文献研究(素粒子・核反応)	1	
○	○ 海外文献研究(基礎原子核物理学)	1	
○	○ 海外文献研究(加速器科学)	1	
○	○ 海外文献研究(高エネルギー密度物理)	1	
○	○ 海外文献研究(レーザプラズマ加速ビーム)	1	
○	○ 海外文献研究(ナノスケール物性)	1	
○	○ 海外文献研究(質量分析物理)	1	
○	○ 海外文献研究(超伝導)	1	
○	○ 海外文献研究(界面物性)	1	
○	○ 海外文献研究(半導体)	1	
○	○ 海外文献研究(量子物性)	1	
○	○ 海外文献研究(光物性)	1	
○	○ 海外文献研究(強磁場物理)	1	

(後期課程)

専門教育科目	高度教育科目	高度教育科目	授業科目	単位	備考
○			特別講義 A I	1	
○			特別講義 A II	1	
○			特別講義 A III	1	
○			特別講義 A IV	1	
○			特別講義 A V	1	
○			特別講義 B I	1	
○			特別講義 B II	1	
○			特別講義 B III	1	
○			特別講義 B IV	1	
○			特別講義 B V	1	
○			特別講義 C I	1	
○			特別講義 C II	1	
○			特別講義 C III	1	
○			特別講義 C IV	1	
○			特別講義 C V	1	
○			Topical Seminar I	1	
○			Topical Seminar II	1	
○			Topical Seminar III	1	
○			Topical Seminar IV	1	
○			○ 科学技術論 A 1	1	
○			○ 科学技術論 A 2	1	
○			○ 科学技術論 B 1	1	
○			○ 科学技術論 B 2	1	
○			○ 研究者倫理特論	0.5	
○			○ 科学論文作成概論	0.5	
○			○ 研究実践特論	0.5	
○			○ 企業研究者特別講義	0.5	
○			○ Radiation science in the environment	1	講義・実習
○			○ 企業インターンシップ	1	
○			○ 実践科学英語 A	1	
○			○ 実践科学英語 B	1	
○			○ 科学英語基礎	1	
○			○ 先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○			○ 先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			○ 先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○			○ 先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○			○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習

専門教育科目	高度教育科目	高度教育科目	授業科目	単位	備考
○			○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○			○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○			○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○			○ ナノフォトニクス学	1	実習
○			○ 産学リエゾン PAL 教育研究訓練	5	
○			○ 高度学際萌芽研究訓練	5	
○			○ 場の理論特別セミナー	9	
○			○ 場の数理論特別セミナー	9	
○			○ 素粒子論特別セミナー	9	
○			○ 原子核理論特別セミナー	9	
○			○ 多体問題特別セミナー	9	
○			○ 物性理論特別セミナー I	9	
○			○ 物性理論特別セミナー II	9	
○			○ 物性理論特別セミナー III	9	
○			○ 物性理論特別セミナー IV	9	
○			○ 統計物理学特別セミナー	9	
○			○ 数理物理学特別セミナー	9	
○			○ 高エネルギープラズマ物性理論特別セミナー I	9	
○			○ 高エネルギープラズマ物性理論特別セミナー II	9	
○			○ 高エネルギー物理学特別セミナー I	9	
○			○ 高エネルギー物理学特別セミナー II	9	
○			○ 原子核実験学特別セミナー	9	
○			○ ハドロン実験学特別セミナー	9	
○			○ 素粒子・核反応特別セミナー	9	
○			○ 基礎原子核物理学特別セミナー	9	
○			○ 加速器科学特別セミナー	9	
○			○ 高エネルギー密度物理特別セミナー	9	
○			○ レーザプラズマ加速ビーム特別セミナー	9	
○			○ ナノスケール物性特別セミナー	9	
○			○ 強磁場物理特別セミナー	9	
○			○ 界面物性特別セミナー	9	
○			○ 半導体特別セミナー	9	
○			○ 超伝導特別セミナー	9	
○			○ 質量分析物理特別セミナー	9	
○			○ 量子物性特別セミナー	9	
○			○ 光物性特別セミナー	9	
○			○ Seminar for Advanced Researches	9	

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

## 化学専攻

(前期課程)

専門教育科目	高度教育科目 高度国際性 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度教育科目 高度国際性 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○		大学院無機化学	2		○		構造有機化学(I)	1	
○		大学院物理化学	2		○		複合分子化学(I)	1	
○		大学院有機化学 I	2		○		機能分子材料(I)	1	
○		大学院有機化学 II	2		○		粒子ビーム化学(I)	1	
○	○	Current Topics I	1		○		吸着化学(I)	1	
○	○	Current Topics II	1		○		放射線生物化学(I)	1	
○	○	Current Topics III	1		○		先端質量分析学(I)	1	
○	○	Current Topics IV	1		○		生命制御化学(I)	1	
○	○	Current Topics V	1		○		膜システム生物学(I)	1	
○	○	Current Topics VI	1		○		放射線化学生物学(I)	1	
○	○	Current Topics VII	1		○		放射線科学(I)	1	
○	○	Current Topics VIII	1		○		有機金属化学概論	2	
○	○	Current Topics IX	1		○		○ 科学技術論A1	1	
○	○	Current Topics X	1		○		○ 科学技術論A2	1	
○	○	Bio/Chemoinformatics	1		○		○ 科学技術論B1	1	
○	○	Biomolecular Chemistry	1		○		○ 科学技術論B2	1	
○	○	Analytical Chemistry for Interface	1		○		○ 研究者倫理特論	0.5	
○	○	Structural Coordination Chemistry	1		○		○ 科学論文作成概論	0.5	
○	○	Complex Molecular Chemistry	1		○		○ 研究実践特論	0.5	
○	○	Natural Product Chemistry	1		○		○ 企業研究者特別講義	0.5	
○	○	Organic Biochemistry	1		○		○ Radiation science in the environment	1	講義・実習
○	○	Protein Chemistry	1		○		○ 実践科学英語A	1	
○	○	Quantum Chemistry	1		○		○ 実践科学英語B	1	
○	○	Structural Organic Chemistry	1		○		○ 科学英語基礎	1	
○	○	Functional Molecules and Materials	1		○		○ 先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○	○	Biological Regulation Chemistry	1		○		○ 先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○	○	Membrane Systems Biology	1		○		○ 先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○	○	Radiation Chemical Biology	1		○		○ 先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○	○	Thermal and Entropic Science	1		○		○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○		生物無機化学(I)	1		○		○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○		物性錯体化学 1(I)	1		○		○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○		物性錯体化学 2(I)	1		○		○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○		固体電子物性	2		○		○ ナノフォトニクス学	1	実習
○		無機分光化学概論	2		○		○ 化学アドバンスト実験	1	実習
○		反応物理化学	2		○		○ 分析化学特論	1	
○		構造錯体化学(I)	1		○		○ 錯体化学特論	1	
○		核化学 1(I)	1		○		○ 生物無機化学特論	1	
○		核化学 2(I)	1		○		○ 構造錯体化学特論	1	
○		量子化学(I)	1		○		○ 電気化学特論	1	
○		核磁気共鳴分光学(I)	1		○		○ 触媒化学特論	1	
○		化学反応論(I)	1		○		○ 放射化学特論	1	
○		生物物理化学(I)	1		○		○ 化学反応特論	1	
○		凝縮系物理化学(I)	1		○		○ 生物物理化学特論	1	
○		熱・エントロピー科学(I)	1		○		○ 量子化学特論	1	
○		構造物性化学(I)	1		○		○ 物性物理化学特論	1	
○		半導体ナノテクノロジーの化学(I)	1		○		○ 分子構造特論	1	
○		天然物有機化学(I)	1		○		○ 分光化学特論	1	
○		有機生物化学(I)	1		○		○ 分子熱力学特論	1	
○		蛋白質分子化学(I)	1		○		○ 表面化学特論	1	
○		生体分子化学(I)	1		○		○ 化学情報特論	1	

専門教育科目 基礎教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○	分子動力学概論	1	
○	天然物有機化学特論	1	
○	超分子化学特論	1	
○	複素環有機化学特論	1	
○	構造有機化学特論	1	
○	反応有機化学特論	1	
○	機能分子材料特論	1	
○	有機合成化学特論	1	
○	複合分子化学特論Ⅰ	1	
○	複合分子化学特論Ⅱ	1	
○	有機生物化学特論	1	
○	機能生物化学特論	1	
○	天然物化学特論	1	
○	有機立体化学特論	1	
○	有機金属化学特論	1	
○	生体分子化学特論	1	
○	機能性分子化学特論	1	
○	蛋白質分子化学特論	1	
○	蛋白質機能学特論	1	
○	分子材料化学特論	1	
○	生体システム化学特論	1	
○	生命制御化学特論	1	
○	膜システム生物学特論	1	
○	放射線化学生物学特論	1	
○	合成有機化学特論	1	
○	熱・エントロピー科学特論	1	
○	蛋白質有機化学特論	1	
○	無機化学特論	1	
○	放射線生物化学特論	1	
○	先端質量分析学特論	1	
○	放射線科学特論	1	
○	構造生命化学特論Ⅰ	1	
○	構造生命化学特論Ⅱ	1	
○	サイエンスコア1	1	
○	サイエンスコア2	1	
○	インタラクティブセミナーⅠ	1	
○	インタラクティブセミナーⅡ	1	
○	生物無機化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	生物無機化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	分析化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	分析化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	物性錯体化学半期セミナーAⅠ	4.5	
○	物性錯体化学半期セミナーAⅡ	4.5	
○	物性錯体化学半期セミナーBⅠ	4.5	
○	物性錯体化学半期セミナーBⅡ	4.5	
○	構造錯体化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	構造錯体化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	核化学半期セミナーAⅠ	4.5	
○	核化学半期セミナーAⅡ	4.5	
○	核化学半期セミナーBⅠ	4.5	
○	核化学半期セミナーBⅡ	4.5	
○	量子化学半期セミナーⅠ	4.5	

専門教育科目 基礎教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○	量子化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	反応化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	反応化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	粒子ビーム化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	粒子ビーム化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	吸着化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	吸着化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	生物物理化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	生物物理化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	凝縮系物理化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	凝縮系物理化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	表面化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	表面化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	熱・エントロピー科学半期セミナーⅠ	4.5	
○	熱・エントロピー科学半期セミナーⅡ	4.5	
○	構造物性化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	構造物性化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	生体分子機能構造計測学半期セミナーⅠ	4.5	
○	生体分子機能構造計測学半期セミナーⅡ	4.5	
○	計算生物学半期セミナーⅠ	4.5	
○	計算生物学半期セミナーⅡ	4.5	
○	金属有機融合材料半期セミナーⅠ	4.5	
○	金属有機融合材料半期セミナーⅡ	4.5	
○	天然物有機化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	天然物有機化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	構造有機化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	構造有機化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	機能分子材料半期セミナーⅠ	4.5	
○	機能分子材料半期セミナーⅡ	4.5	
○	有機生物化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	有機生物化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	生体分子化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	生体分子化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	蛋白質分子化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	蛋白質分子化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	構造生命化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	構造生命化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	複合分子化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	複合分子化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	放射線生物化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	放射線生物化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	先端質量分析学半期セミナーⅠ	4.5	
○	先端質量分析学半期セミナーⅡ	4.5	
○	放射線科学半期セミナーⅠ	4.5	
○	放射線科学半期セミナーⅡ	4.5	
○	生命制御化学半期セミナーⅠ	4.5	
○	生命制御化学半期セミナーⅡ	4.5	
○	膜システム生物学半期セミナーⅠ	4.5	
○	膜システム生物学半期セミナーⅡ	4.5	
○	放射線化学生物学半期セミナーⅠ	4.5	
○	放射線化学生物学半期セミナーⅡ	4.5	

## (後期課程)

専門教育科目	高度教育科目 高度国際性	高度教育科目 高度国際性	授業科目	単位	備考
○	○		Current Topics I	1	
○	○		Current Topics II	1	
○	○		Current Topics III	1	
○	○		Current Topics IV	1	
○	○		Current Topics V	1	
○	○		Current Topics VI	1	
○	○		Current Topics VII	1	
○	○		Current Topics VIII	1	
○	○		Current Topics IX	1	
○	○		Current Topics X	1	
○			特別講義 A I	1	
○			特別講義 A II	1	
○			特別講義 A III	1	
○			特別講義 A IV	1	
○			特別講義 A V	1	
○			特別講義 A VI	1	
○			特別講義 B I	1	
○			特別講義 B II	1	
○			特別講義 B III	1	
○			特別講義 B IV	1	
○			特別講義 B V	1	
○			特別講義 B VI	1	
	○		科学技術論A1	1	
	○		科学技術論A2	1	
	○		科学技術論B1	1	
	○		科学技術論B2	1	
	○		研究者倫理特論	0.5	
	○		科学論文作成概論	0.5	
	○		研究実践特論	0.5	
	○		企業研究者特別講義	0.5	
	○		Radiation science in the environment	1	講義・実習
	○		企業インターンシップ	1	
	○		実践科学英語A	1	
	○		実践科学英語B	1	
	○		科学英語基礎	1	
○			先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○			先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○			先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
	○		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
	○		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
	○		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
	○		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
	○		ナノフォニクス学	1	実習
	○		産学リエゾン PAL 教育研究訓練	5	
	○		高度学際萌芽研究訓練	5	
○			インタラクティブ特別セミナー1	1	
○			インタラクティブ特別セミナー2	1	
○			生物無機化学特別セミナー I	9	
○			生物無機化学特別セミナー II	9	
○			生物無機化学特別セミナー III	9	
○			分析化学特別セミナー I	9	

専門教育科目	高度教育科目 高度国際性	高度教育科目 高度国際性	授業科目	単位	備考
○			分析化学特別セミナー II	9	
○			分析化学特別セミナー III	9	
○			物性錯体化学特別セミナー A I	9	
○			物性錯体化学特別セミナー A II	9	
○			物性錯体化学特別セミナー A III	9	
○			物性錯体化学特別セミナー B I	9	
○			物性錯体化学特別セミナー B II	9	
○			物性錯体化学特別セミナー B III	9	
○			構造錯体化学特別セミナー I	9	
○			構造錯体化学特別セミナー II	9	
○			構造錯体化学特別セミナー III	9	
○			核化学特別セミナー A I	9	
○			核化学特別セミナー A II	9	
○			核化学特別セミナー A III	9	
○			核化学特別セミナー B I	9	
○			核化学特別セミナー B II	9	
○			核化学特別セミナー B III	9	
○			量子化学特別セミナー I	9	
○			量子化学特別セミナー II	9	
○			量子化学特別セミナー III	9	
○			反応化学特別セミナー I	9	
○			反応化学特別セミナー II	9	
○			反応化学特別セミナー III	9	
○			粒子ビーム化学特別セミナー I	9	
○			粒子ビーム化学特別セミナー II	9	
○			粒子ビーム化学特別セミナー III	9	
○			吸着化学特別セミナー I	9	
○			吸着化学特別セミナー II	9	
○			吸着化学特別セミナー III	9	
○			生物物理化学特別セミナー I	9	
○			生物物理化学特別セミナー II	9	
○			生物物理化学特別セミナー III	9	
○			凝縮系物理化学特別セミナー I	9	
○			凝縮系物理化学特別セミナー II	9	
○			凝縮系物理化学特別セミナー III	9	
○			表面化学特別セミナー I	9	
○			表面化学特別セミナー II	9	
○			表面化学特別セミナー III	9	
○			熱・エントロピー科学特別セミナー I	9	
○			熱・エントロピー科学特別セミナー II	9	
○			熱・エントロピー科学特別セミナー III	9	
○			構造物性化学特別セミナー I	9	
○			構造物性化学特別セミナー II	9	
○			構造物性化学特別セミナー III	9	
○			生体分子機能構造計測学特別セミナー I	9	
○			生体分子機能構造計測学特別セミナー II	9	
○			生体分子機能構造計測学特別セミナー III	9	
○			計算生物学特別セミナー I	9	
○			計算生物学特別セミナー II	9	
○			計算生物学特別セミナー III	9	
○			金属有機融合材料特別セミナー I	9	
○			金属有機融合材料特別セミナー II	9	

専攻教育科目 高度教育科目 高度教育科目 高度教育科目	高度教育科目 高度教育科目 高度教育科目 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○		金属有機融合材料特別セミナーⅢ	9	
○		天然物有機化学特別セミナーⅠ	9	
○		天然物有機化学特別セミナーⅡ	9	
○		天然物有機化学特別セミナーⅢ	9	
○		構造有機化学特別セミナーⅠ	9	
○		構造有機化学特別セミナーⅡ	9	
○		構造有機化学特別セミナーⅢ	9	
○		機能分子材料特別セミナーⅠ	9	
○		機能分子材料特別セミナーⅡ	9	
○		機能分子材料特別セミナーⅢ	9	
○		有機生物化学特別セミナーⅠ	9	
○		有機生物化学特別セミナーⅡ	9	
○		有機生物化学特別セミナーⅢ	9	
○		生体分子化学特別セミナーⅠ	9	
○		生体分子化学特別セミナーⅡ	9	
○		生体分子化学特別セミナーⅢ	9	
○		蛋白質分子化学特別セミナーⅠ	9	
○		蛋白質分子化学特別セミナーⅡ	9	
○		蛋白質分子化学特別セミナーⅢ	9	
○		構造生命化学特別セミナーⅠ	9	
○		構造生命化学特別セミナーⅡ	9	
○		構造生命化学特別セミナーⅢ	9	

専攻教育科目 高度教育科目 高度教育科目 高度教育科目	高度教育科目 高度教育科目 高度教育科目 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○		複合分子化学特別セミナーⅠ	9	
○		複合分子化学特別セミナーⅡ	9	
○		複合分子化学特別セミナーⅢ	9	
○		放射線生物化学特別セミナーⅠ	9	
○		放射線生物化学特別セミナーⅡ	9	
○		放射線生物化学特別セミナーⅢ	9	
○		先端質量分析学特別セミナーⅠ	9	
○		先端質量分析学特別セミナーⅡ	9	
○		先端質量分析学特別セミナーⅢ	9	
○		放射線科学特別セミナーⅠ	9	
○		放射線科学特別セミナーⅡ	9	
○		放射線科学特別セミナーⅢ	9	
○		生命制御化学特別セミナーⅠ	9	
○		生命制御化学特別セミナーⅡ	9	
○		生命制御化学特別セミナーⅢ	9	
○		膜システム生物学特別セミナーⅠ	9	
○		膜システム生物学特別セミナーⅡ	9	
○		膜システム生物学特別セミナーⅢ	9	
○		放射線化学生物学特別セミナーⅠ	9	
○		放射線化学生物学特別セミナーⅡ	9	
○		放射線化学生物学特別セミナーⅢ	9	

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

生物科学専攻

(前期課程)

専門教育科目 高度教育科目 高度専門性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
<input type="radio"/>	生物科学特論 A1	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 A2	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 A3	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 A4	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B1	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B2	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B3	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B4	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B5	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B6	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B7	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B8	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B9	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B10	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 B11	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 C1	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 C2	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 C3	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 C4	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 C5	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 C6	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 C7	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 C8	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D1	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D2	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D3	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D4	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D5	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D6	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D7	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D8	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D9	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D10	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D11	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D12	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 D13	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 E1	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 E2	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 E3	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 E4	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 E5	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 E6	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 E7	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 E8	0.5	

専門教育科目 高度教育科目 高度専門性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
<input type="radio"/>	生物科学特論 E9	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 E10	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F1	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F2	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F3	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F4	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F5	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F6	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F7	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F8	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F9	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F10	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F11	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 F12	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 G1	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 G2	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 G3	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 G4	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 G5	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 G6	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 G7	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 G8	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 G9	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 H1	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 H2	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 H3	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 H4	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 J1	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 J2	0.5	
<input type="radio"/>	生物科学特論 J3	0.5	
<input type="radio"/>	Current Topics XVI	1	
<input type="radio"/>	Current Topics XVII	1	
<input type="radio"/>	Current Topics XVIII	1	
<input type="radio"/>	Current Topics XIX	1	
<input type="radio"/>	Current Topics XX	1	
<input type="radio"/>	科学技術論A1	1	
<input type="radio"/>	科学技術論A2	1	
<input type="radio"/>	科学技術論B1	1	
<input type="radio"/>	科学技術論B2	1	
<input type="radio"/>	研究者倫理特論	0.5	
<input type="radio"/>	科学論文作成概論	0.5	
<input type="radio"/>	研究実践特論	0.5	
<input type="radio"/>	企業研究者特別講義	0.5	
<input type="radio"/>	Radiation science in the environment	1	講義・実習

専門教育科目	高度国際性 選修教育科目	高度教育教育科目	授業科目	単位	備考
○			実践科学英語A	1	
○			実践科学英語B	1	
○			科学英語基礎	1	
○			先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○			先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○			先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
		○	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
		○	ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
		○	超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
		○	ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
		○	ナノフォトニクス学	1	実習
○			サイエンスコア I	1	
○			サイエンスコア II	1	
○			サイエンスコア III	1	
○			サイエンスコア IV	1	
○			分子細胞運動学半期セミナー	4.5	
○			分子遺伝学半期セミナー	4.5	
○			核機能学半期セミナー	4.5	
○			1 分子生物学半期セミナー	4.5	
○			系統進化学半期セミナー	4.5	
○			発生生物学半期セミナー	4.5	
○			神経可塑性生理学半期セミナー	4.5	
○			蛋白質有機化学半期セミナー	4.5	
○			分子創製学半期セミナー	4.5	
○			生体分子反応科学半期セミナー	4.5	
○			オルガネラバイオロジー半期セミナー	4.5	
○			蛋白質細胞生物学半期セミナー	4.5	
○			分子発生学半期セミナー	4.5	
○			代謝調節機構学半期セミナー	4.5	
○			構造分子生物学半期セミナー	4.5	
○			蛋白質結晶学半期セミナー	4.5	
○			生命誌学半期セミナー	4.5	
○			生物分子情報学半期セミナー	4.5	
○			生体超分子科学半期セミナー	4.5	
○			生体分子機械学半期セミナー	4.5	
○			比較神経生物学半期セミナー	4.5	

専門教育科目	高度国際性 選修教育科目	高度教育教育科目	授業科目	単位	備考
○			放射線化学生物学半期セミナー	4.5	
○			細胞システム学半期セミナー	4.5	
○			染色体構造機能学半期セミナー	4.5	
○			高次脳機能学半期セミナー	4.5	
○			細胞生命科学半期セミナー	4.5	
○			生物無機化学半期セミナー	4.5	
○			生体統御学半期セミナー	4.5	
○			RNA 生物学半期セミナー	4.5	
○			計算生物学半期セミナー	4.5	
○			電子線構造生物学半期セミナー	4.5	
○			生物分子機械設計学半期セミナー	4.5	
○			高分子溶液論半期セミナー	4.5	
○			蛋白質デザイン半期セミナー	4.5	
○			生体分子モデリング&ダイナミクス半期セミナー	4.5	
○			寄生虫学半期セミナー	4.5	
○			器官形態制御学半期セミナー	4.5	
○			蛋白質物理生物学半期セミナー	4.5	
○			植物細胞運命制御半期セミナー	4.5	
○			細胞機能デザイン半期セミナー	4.5	
○			生物分子認識学半期セミナー	4.5	
○			生物科学インタラクティブセミナー I	1	
○			生物科学インタラクティブセミナー II	1	
○			Biological Science I	0.5	
○			Biological Science II	0.5	
○			Biological Science III	0.5	
○			Biological Science IV	0.5	
○			Biological Science V	0.5	
○			Biological Science VI	0.5	
○			Biological Science VII	0.5	
○			Biological Science VIII	0.5	
○			Biological Science IX	0.5	
○			Biological Science X	0.5	
○			Biological Science X I	0.5	
○			Biological Science X II	0.5	
○			Biological Science X III	0.5	
○			Biological Science X IV	0.5	
○			Biological Science X V	0.5	

## (後期課程)

専門教育科目	高度国際性 領域教育科目	高度教育 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○	○		Current Topics XVI	1	
○	○		Current Topics XVII	1	
○	○		Current Topics XVIII	1	
○	○		Current Topics XIX	1	
○	○		Current Topics XX	1	
			○ 科学技術論A1	1	
			○ 科学技術論A2	1	
			○ 科学技術論B1	1	
			○ 科学技術論B2	1	
			○ 研究者倫理特論	0.5	
			○ 科学論文作成概論	0.5	
			○ 研究実践特論	0.5	
			○ 企業研究者特別講義	0.5	
			○ Radiation science in the environment	1	講義・実習
			○ 企業インターンシップ	1	
	○		○ 実践科学英語A	1	
	○		○ 実践科学英語B	1	
	○		○ 科学英語基礎	1	
○			○ 先端の研究法:質量分析	2	講義・実習
○			○ 先端の研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			○ 先端の研究法:NMR	2	講義・実習
○			○ 先端の研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
			○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
			○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
			○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
			○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
			○ ナノフォトニクス学	1	実習
			○ 産学リエゾン PAL 教育研究訓練	5	
			○ 高度学際萌芽研究訓練	5	
○			○ 生物科学特別講義Ⅰ	1	
○			○ 生物科学特別講義Ⅱ	1	
○			○ 生物科学特別講義Ⅲ	1	
○			○ 生物科学特別講義Ⅳ	1	
○			○ 生物科学特別講義Ⅴ	1	
○			○ 生物科学特別講義Ⅵ	1	
○	○		○ 生物科学特別講義Ⅶ	1	
○			○ 生物科学特別講義Ⅷ	1	
○			○ サイエンスコアⅤ	1	
○			○ サイエンスコアⅥ	1	
○			○ サイエンスコアⅦ	1	
○			○ 分子細胞運動学特別セミナー	9	

専門教育科目	高度国際性 領域教育科目	高度教育 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○			○ 分子遺伝学特別セミナー	9	
○			○ 核機能学特別セミナー	9	
○			○ 1 分子生物学特別セミナー	9	
○			○ 系統進化学特別セミナー	9	
○			○ 発生生物学特別セミナー	9	
○			○ 神経可塑性生理学特別セミナー	9	
○			○ 蛋白質有機化学特別セミナー	9	
○			○ 分子創製学特別セミナー	9	
○			○ 生体分子反応科学特別セミナー	9	
○			○ オルガネラバイオロジー特別セミナー	9	
○			○ 蛋白質細胞生物学特別セミナー	9	
○			○ 分子発生学特別セミナー	9	
○			○ 代謝調節機構学特別セミナー	9	
○			○ 構造分子生物学特別セミナー	9	
○			○ 生命誌学特別セミナー	9	
○			○ 生物分子情報学特別セミナー	9	
○			○ 蛋白質結晶学特別セミナー	9	
○			○ 生体超分子科学特別セミナー	9	
○			○ 生体分子機械学特別セミナー	9	
○			○ 比較神経生物学特別セミナー	9	
○			○ 放射線化学生物学特別セミナー	9	
○			○ 細胞システム学特別セミナー	9	
○			○ 染色体構造機能学特別セミナー	9	
○			○ 高次脳機能学特別セミナー	9	
○			○ 細胞生命科学特別セミナー	9	
○			○ 生物無機化学特別セミナー	9	
○			○ 生体統御学特別セミナー	9	
○			○ RNA 生物学特別セミナー	9	
○			○ 計算生物学特別セミナー	9	
○			○ 電子線構造生物学特別セミナー	9	
○			○ 生物分子機械設計学特別セミナー	9	
○			○ 高分子溶液論特別セミナー	9	
○			○ 蛋白質デザイン特別セミナー	9	
○			○ 生体分子モデリング&ダイナミクス特別セミナー	9	
○			○ 寄生虫学特別セミナー	9	
○			○ 器官形態制御学特別セミナー	9	
○			○ 蛋白質物理生物学特別セミナー	9	
○			○ 植物細胞運命制御特別セミナー	9	
○			○ 細胞機能デザイン特別セミナー	9	
○			○ 生物分子認識学特別セミナー	9	
○			○ 生物科学インタラクティブ特別セミナー	1	

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

## 高分子科学専攻

(前期課程)

専門教育科目 高度国際性 高度教育科目	高度教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目 高度国際性 高度教育科目	高度教育科目 高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○		高分子物理化学 A	1		○		研究者倫理特論	0.5	
○		高分子物理化学 B	1		○		科学論文作成概論	0.5	
○		高分子有機化学	2		○		研究実践特論	0.5	
○		高分子凝集科学	2		○		企業研究者特別講義	0.5	
○		情報高分子科学	2		○		Radiation science in the environment	1	講義・実習
○	○	Current Topics X I	1		○		実践科学英語A	1	
○	○	Current Topics X II	1		○		実践科学英語B	1	
○	○	Current Topics X III	1		○		科学英語基礎	1	
○	○	Current Topics X IV	1		○		先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○	○	Current Topics X V	1		○		先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○		高分子科学インタラクティブ演習	1		○		先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○		高分子合成化学特論 1	1		○		先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○		高分子合成化学特論 2	1		○		ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○		高分子反応化学特論 1	1		○		ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○		高分子反応化学特論 2	1		○		超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○		生体機能高分子特論	2		○		ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○		高分子キャラクタリゼーション特論	1		○		ナノフォトニクス学	1	実習
○		高分子物性特論 1	1		○		高分子合成化学半期セミナー	4.5	
○		高分子物性特論 2	1		○		高分子錯体化学半期セミナー	4.5	
○		高分子溶液学特論 1	1		○		高分子反応化学半期セミナー	4.5	
○		高分子溶液学特論 2	1		○		無機高分子化学半期セミナー	4.5	
○		高分子構造特論 1	1		○		生体超分子科学半期セミナー	4.5	
○		高分子構造特論 2	1		○		高分子固体科学半期セミナー	4.5	
○		高分子材料設計学特論	1		○		高分子溶液論半期セミナー	4.5	
○		蛋白質構造基礎論 1	1		○		高分子凝集論半期セミナー	4.5	
○		蛋白質構造基礎論 2	1		○		高分子精密科学半期セミナー	4.5	
○		蛋白質構造基礎論 3	1		○		高分子構造論半期セミナー	4.5	
○		高分子精密科学特論	2		○		高分子物性論半期セミナー	4.5	
○		情報高分子物性特論	2		○		高分子材料科学半期セミナー	4.5	
○		情報高分子機能特論	2		○		超分子科学半期セミナー	4.5	
○		情報高分子構造特論	2		○		情報高分子機能論半期セミナー	4.5	
○	○	科学技術論A1	1		○		生体高分子 X線解析学半期セミナー	4.5	
○	○	科学技術論A2	1		○		生体高分子電子線構造解析学半期セミナー	4.5	
○	○	科学技術論B1	1		○		重合設計化学半期セミナー	4.5	
○	○	科学技術論B2	1		○		インタラクティブセミナー	1	

## (後期課程)

専門教育科目	高度国際性 選修教育科目	高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○			Current Topics X I	1	
○			Current Topics X II	1	
○			Current Topics X III	1	
○			Current Topics X IV	1	
○			Current Topics X V	1	
○			特別講義(1)	1	
○			特別講義(2)	1	
○			特別講義(3)	1	
○			特別講義(4)	1	
○			特別講義(5)	1	
○			特別講義(6)	1	
○			高分子科学インタラクティブ特別演習	1	
		○	科学技術論A1	1	
		○	科学技術論A2	1	
		○	科学技術論B1	1	
		○	科学技術論B2	1	
		○	研究者倫理特論	0.5	
		○	科学論文作成概論	0.5	
		○	研究実践特論	0.5	
		○	企業研究者特別講義	0.5	
		○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
		○	企業インターンシップ	1	
○			実践科学英語A	1	
○			実践科学英語B	1	
○			科学英語基礎	1	

専門教育科目	高度国際性 選修教育科目	高度国際性 高度教育科目	授業科目	単位	備考
○			先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○			先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○			先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
		○	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
		○	ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
		○	超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
		○	ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
		○	ナノフォトニクス学	1	実習
		○	産学リエゾン PAL 教育研究訓練	5	
		○	高度学際萌芽研究訓練	5	
○			高分子反応化学特別セミナー	9	
○			高分子合成化学特別セミナー	9	
○			高分子錯体化学特別セミナー	9	
○			高分子構造論特別セミナー	9	
○			高分子溶液論特別セミナー	9	
○			高分子物性論特別セミナー	9	
○			高分子精密科学特別セミナー	9	
○			生体超分子科学特別セミナー	9	
○			情報高分子機能論特別セミナー	9	
○			情報高分子構造論特別セミナー	9	
○			超分子科学特別セミナー	9	
○			生体高分子電子線構造解析学特別セミナー	9	
○			インタラクティブ特別セミナー	1	

別表1(理学研究科専攻別授業科目表)

## 宇宙地球科学専攻

(前期課程)

専門教育科目	高度国際性 高度教育科目	高度教育科目	授業科目	単位	備考	専門教育科目	高度国際性 高度教育科目	高度教育科目	授業科目	単位	備考
○			一般相対性理論	2		○			ソフトマター地球惑星科学セミナー	4.5	
○			高エネルギー天文学	2		○			レーザー宇宙物理学セミナー	4.5	
○			宇宙論	1				○	科学技術論A1	1	
○			X線天文学	1				○	科学技術論A2	1	
○			光赤外線天文学	1				○	科学技術論B1	1	
○			天体輻射論	1				○	科学技術論B2	1	
○			天体物理の基礎	1				○	研究者倫理特論	0.5	
○			同位体宇宙地球科学	1				○	科学論文作成概論	0.5	
	○		宇宙生命論	2				○	研究実践特論	0.5	
○			実験室宇宙物理学	1				○	企業研究者特別講義	0.5	
○			宇宙進化学セミナー	4.5				○	Radiation science in the environment	1	講義・実習
○			X線天文学セミナー	4.5			○	実践科学英語A	1		
○			赤外線天文学セミナー	4.5			○	実践科学英語B	1		
○			惑星科学セミナー	4.5			○	科学英語基礎	1		
○			生命惑星進化学セミナー	4.5		○		○	先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○			非平衡物理学	1		○		○	先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			非平衡現象論	1		○		○	先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○			高圧物性科学	1		○		○	先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○			鈹物物理学	1				○	ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○			惑星内部物質学	1				○	ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○			地球内部物性学	1				○	超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○			ソフトマター地球惑星物理学	2				○	ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○			環境物性・分光学	1				○	ナノフォトニクス学	1	実習
○			生命の起源・進化学概論	1		○		○	Cosmology	1	
○			太陽惑星系電磁気学	1		○		○	High Energy Astrophysics	2	
○			パターン形成物理学	1		○		○	X-ray Astronomy	1	
○			理論物質学セミナー	4.5		○		○	Astrophysical Radiative Processes	1	
○			鈹物物理セミナー	4.5		○		○	Introduction to Astrophysics	1	
○			惑星内部物質学セミナー	4.5							

## (後期課程)

専門教育科目	高度国際性 領域教育科目	高度教育教育科目	授業科目	単位	備考
○			特別講義 I	1	
○			特別講義 II	1	
○			特別講義 III	1	
○			特別講義 IV	1	
○			特別講義 V	1	
○			特別講義 VI	1	
○			特別講義 VII	1	
○			特別講義 VIII	1	
○			特別講義 IX	1	
○			特別講義 X	1	
○			特別講義 X I	1	
○			特別講義 X II	1	
○			特別講義 X III	1	
○			○ 科学技術論 A1	1	
○			○ 科学技術論 A2	1	
○			○ 科学技術論 B1	1	
○			○ 科学技術論 B2	1	
○			○ 研究者倫理特論	0.5	
○			○ 科学論文作成概論	0.5	
○			○ 研究実践特論	0.5	
○			○ 企業研究者特別講義	0.5	
○			○ Radiation science in the environment	1	講義・実習
○			○ 企業インターンシップ	1	
○			○ 実践科学英語 A	1	

専門教育科目	高度国際性 領域教育科目	高度教育教育科目	授業科目	単位	備考
○			○ 実践科学英語 B	1	
○			○ 科学英語基礎	1	
○			○ 先端的研究法:質量分析	2	講義・実習
○			○ 先端的研究法:X線結晶解析	2	講義・実習
○			○ 先端的研究法:NMR	2	講義・実習
○			○ 先端的研究法:低温電子顕微鏡	2	講義・実習
○			○ ナノマテリアル・ナノデバイスデザイン学	1	実習
○			○ ナノプロセス・物性・デバイス学	1	実習
○			○ 超分子ナノバイオプロセス学	1	実習
○			○ ナノ構造・機能計測解析学	1	実習
○			○ ナノフォトニクス学	1	実習
○			○ 産学リエゾン PAL 教育研究訓練	5	
○			○ 高度学際萌芽研究訓練	5	
○			○ 宇宙進化学特別セミナー	9	
○			○ X線天文学特別セミナー	9	
○			○ 赤外線天文学特別セミナー	9	
○			○ 惑星科学特別セミナー	9	
○			○ 生命惑星進化学特別セミナー	9	
○			○ 理論物質学特別セミナー	9	
○			○ 鉱物物理学特別セミナー	9	
○			○ 惑星内部物質学特別セミナー	9	
○			○ ソフトマター地球惑星科学特別セミナー	9	
○			○ レーザー宇宙物理学特別セミナー	9	

別表2(統合理学特別コース授業科目表)

統合理学特別コース  
 化学専攻(統合理学特別コース)  
 生物科学専攻(統合理学特別コース)  
 高分子科学専攻(統合理学特別コース)

(前期課程)

授 業 科 目	単 位	備 考
Basic Biology I	2	
Basic Biology II	2	
Science Core I	1	
Science Core II	1	
Science Core III	1	
Science Core IV	1	
Basic Macromolecular Science	2	
Basic Chemistry I	2	
Basic Chemistry II	2	
Introductory Biology	2	
Biological Science I	0.5	
Biological Science II	0.5	
Biological Science III	0.5	
Biological Science IV	0.5	
Biological Science V	0.5	
Biological Science VI	0.5	
Biological Science VII	0.5	
Biological Science VIII	0.5	
Biological Science IX	0.5	
Biological Science X	0.5	
Biological Science X I	0.5	
Biological Science X II	0.5	
Biological Science X III	0.5	
Biological Science X IV	0.5	
Biological Science X V	0.5	
Bio/Chemoinformatics	1	
Advanced Macromolecular Science I	2	
Advanced Macromolecular Science II	2	
Biomolecular Chemistry	1	
Analytical Chemistry for Interface	1	
Structural Coordination Chemistry	1	
Complex Molecular Chemistry	1	
Natural Product Chemistry	1	

授 業 科 目	単 位	備 考
Organic Biochemistry	1	
Protein Chemistry	1	
Quantum Chemistry	1	
Structural Organic Chemistry	1	
Functional Molecules and Materials	1	
Biological Regulation Chemistry	1	
Membrane Systems Biology	1	
Topics in Inorganic Chemistry	1	
Thermal and Entropic Science	1	
Advanced Chemical Experiment	1	
Radiation science in the environment	1	
Current Topics I	1	
Current Topics II	1	
Current Topics III	1	
Current Topics IV	1	
Current Topics V	1	
Current Topics VI	1	
Current Topics VII	1	
Current Topics VIII	1	
Current Topics IX	1	
Current Topics X	1	
Current Topics X I	1	
Current Topics X II	1	
Current Topics X III	1	
Current Topics X IV	1	
Current Topics X V	1	
Current Topics X VI	1	
Current Topics X VII	1	
Current Topics X VIII	1	
Current Topics X IX	1	
Current Topics X X	1	
Interactive Seminar	1	
Semestral Seminar	4.5	

(博士課程)

授 業 科 目	単 位	備 考
Current Topics I	1	
Current Topics II	1	
Current Topics III	1	
Current Topics IV	1	
Current Topics V	1	
Current Topics VI	1	
Current Topics VII	1	
Current Topics VIII	1	
Current Topics IX	1	
Current Topics X	1	
Current Topics X I	1	

授 業 科 目	単 位	備 考
Current Topics X II	1	
Current Topics X III	1	
Current Topics X IV	1	
Current Topics X V	1	
Current Topics X VI	1	
Current Topics X VII	1	
Current Topics X VIII	1	
Current Topics X IX	1	
Current Topics X X	1	
Interactive Seminar for Advanced Research	1	
Seminar for Advanced Researches	9	

別表3 量子情報科学学位プログラム授業科目表

区分	科目群	備考
必修科目	量子情報科学基礎系科目群 量子情報科学高度専門科目群	
選択必修科目 I	量子情報科学実装系科目群	
選択必修科目 II	量子物理系科目群 数理系科目群 化学系科目群 コンピュータ系科目群 情報セキュリティ系科目群 デバイス実装系科目群 金融系科目群	

別表4 インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラム授業科目表

区分	科目群	備考
インタラクティブ物質科学・カデット学位プログラム授業科目	アカデミック・コミュニケーション群 コア実践科目群 物質科学ベーシックリテラシー群 学際教養群 学際専門科目群	

別表5 先導的量子ビーム応用卓越大学院プログラム授業科目表

区分	授業科目	単位	備考
必修科目	量子ビーム実践研修 (国内) 量子ビーム実践研修 (海外) 量子ビーム学際交流 1 量子ビーム学際交流 2 量子ビーム学際交流 3	2 2 0.5 0.5 0.5	
選択必修科目	俯瞰力・社会実装力涵養科目群		別に定める授業科目から1単位以上取得すること
	量子ビーム応用科目 量子ビーム情報系科目群 量子ビーム医学系科目群 量子ビーム応用科目群 量子物理応用科目群 量子ビーム化学系科目群 量子機能分子創製科目群 量子ビーム高分子科学系科目群 量子ビーム総合基礎科目群		別に定める授業科目から4単位以上取得すること
選択科目	量子ビーム実践英語科目群 量子社会学連携科目群		別に定める授業科目から自由選択

別表6 オナー大学院プログラム授業科目表

区分	授業科目	単位	備考
選択必修科目	理工情報研究室ローテーション I 理工情報研究室ローテーション II 理工情報研究室ローテーション III 理工情報研究室ローテーション IV 理工情報学外研修 I 理工情報学外研修 II 理工情報学外研修 III 理工情報学外研修 IV	1 1 1 1 1 1 1 1	

# 大学院理学研究科授業担当等教員名簿(2026.04 時点)

## 数 学 専 攻

各専攻とも職名ごとに50音順

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	石 田 政 司	幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	内 田 雅 之	数 理 統 計 学	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	太 田 慎 一	幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	片 山 聡一郎	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	金 英 子	位 相 幾 何 学	全学教育推進機構 学部共通教育部門
〃	☆鎌 田 聖 一	位 相 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	國 谷 紀 良	応 用 数 学	理学研究科 数学専攻
〃	後 藤 竜 司	幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	佐久間 紀 佳	確 率 論	理学研究科 数学専攻
〃	杉 山 由 恵	偏 微 分 方 程 式	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	関 根 順	数 理 フ ァ イ ナ ン ス	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	高 橋 篤 史	代 数 学	理学研究科 数学専攻
〃	土 居 伸 一	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	富 田 直 人	実 函 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	中 村 博 昭	整 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	中 村 誠	偏 微 分 方 程 式	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	深 澤 正 彰	数 理 統 計 学 ・ 確 率 論	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	降 旗 大 介	数 値 解 析	サイバーメディアセンター コンピュータ実験科学研究部門
〃	三 町 勝 久	特 殊 函 数 論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	安 田 健 彦	代 数 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	矢 野 孝 次	確 率 論	理学研究科 数学専攻
〃	矢 野 裕 子	確 率 論	基礎工学研究科 システム創成専攻
〃	山ノ井 克 俊	関 数 論 ・ 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	吉 永 正 彦	代 数 学 ・ 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	渡 部 隆 夫	整 数 論	理学研究科 数学専攻
准 教 授	戌 亥 隆 恭	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	岩 井 雅 崇	複 素 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	内 田 素 夫	微 分 方 程 式	理学研究科 数学専攻
〃	太 田 和 惟	整 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	大 川 新之介	代 数 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	大 場 貴 裕	位 相 幾 何 学	理学研究科 数学専攻
〃	武 田 秀一郎	整 数 論	理学研究科 数学専攻
〃	茶碗谷 毅	力 学 系	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	縄 田 紀 夫	作 用 素 環 論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	野 場 啓	確 率 論	理学研究科 数学専攻

職名	氏名	分野	所属
准教授	馬場伸平	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	橋本伊都子	微分方程式	理学研究科 数学専攻
〃	東谷章弘	代数学	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	藤田健人	代数幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	松本佳彦	微分幾何	理学研究科 数学専攻
〃	水谷治哉	偏微分方程式	理学研究科 数学専攻
〃	宮武勇登	数値解析	サイバーメディアセンター コンピュータ実験科学研究部門
〃	森山知則	整数論	理学研究科 数学専攻
〃	安井弘一	位相幾何学	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
〃	若林泰央	整数論	情報科学研究科 情報基礎数学専攻
招へい教授	厚地淳	確率論	慶應義塾大学 理工学部
〃	田中孝明	整数論	慶應義塾大学 理工学部
招へい准教授	曾我幸平	偏微分方程式	慶應義塾大学 理工学部
講師	菊池和徳	位相幾何学	理学研究科 数学専攻
助教	庵原隆雄	微分方程式	理学研究科 数学専攻
〃	大野浩司	代数幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	小川裕之	整数論	理学研究科 数学専攻
〃	菊田康平	代数学	理学研究科 数学専攻
〃	田代賢志郎	幾何学	理学研究科 数学専攻
〃	西井良徳	微分方程式	理学研究科 数学専攻
〃	林晃平	確率論	理学研究科 数学専攻
〃	原靖浩	位相幾何学	理学研究科 数学専攻

## 物 理 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	青 木 正 治	素粒子実験物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	浅 川 正 之	原 子 核 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	浅 野 建 一	物 性 理 論	全学教育推進機構 全学共通教育部門
〃	池 田 陽 一	原 子 核 理 論	感染症総合教育研究拠点 科学情報・公共政策部門
〃	石 川 貴 嗣	原 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	板 橋 健 太	原 子 核 実 験	理学研究科 物理学専攻
〃	岩 田 夏 弥	プラズマ物理学	レーザー科学研究所 理論・計算科学研究部門
〃	梅 原 さおり	原 子 核 実 験	核物理研究センター 極稀現象研究基盤室
〃	大 岩 顕	物 性 物 理 学	産業科学研究所 量子システム創成研究分野
〃	大 田 晋 輔	原 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	大野木 哲也	素 粒 子 論	理学研究科 物理学専攻
〃	大 山 健	原 子 核 実 験	核物理研究センター データ収集基盤室
〃	兼 村 晋 哉	素 粒 子 論	理学研究科 物理学専攻
〃	川 畑 貴 裕	原 子 核 実 験	理学研究科 物理学専攻
〃	木 村 真 一	光物性物理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	工 藤 一 貴	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	黒 木 和 彦	物 性 理 論	理学研究科 物理学専攻
〃	千 德 靖 彦	プラズマ物理学	レーザー科学研究所 理論・計算科学研究部門
〃	民 井 淳	原 子 核 実 験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	豊 田 岐 聡	質 量 分 析 学	理学研究科 附属フォアフロント研究センター
〃	中 野 貴 志	素粒子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	南 條 創	高エネルギー物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	新 見 康 洋	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	西 岡 辰 磨	素 粒 子 論	理学研究科 物理学専攻
〃	野 海 博 之	原子核物理実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	萩 原 政 幸	強 磁 場 物 性	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	花 咲 徳 亮	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	兵 藤 哲 雄	原 子 核 理 論	核物理研究センター 核物理理論研究部門
〃	福 田 光 順	原 子 核 実 験	スチューデント・ライフサイクルサポートセンター
〃	藤 岡 慎 介	レーザー核融合	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
〃	細 貝 知 直	極 限 科 学	産業科学研究所 量子ビーム物理研究分野
〃	松 田 洋 平	加 速 器 物 理 学	核物理研究センター 加速器研究部門
〃	☆松 野 丈 夫	物 性 物 理 学	理学研究科 物理学専攻
〃	吉 野 元	統 計 物 理	D3センター 大規模計算科学研究部門
招へい教授	酒 井 英 明	物 性 物 理 学	東北大学 金属材料研究所 低温物理学研究部門
〃	渡 邊 功 雄	物 性 物 理 学	国立研究開発法人 理化学研究所

職名	氏名	分野	所属
准教授	味村周平	原子核実験	核物理研究センター データ収集基盤室
〃	有川安信	レーザー核融合	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
〃	石井理修	原子核理論	核物理研究センター 核物理理論研究部門
〃	井手口栄治	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	上野一樹	素粒子実験	理学研究科 物理学専攻
〃	越智正之	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	大塚洋一	質量分析学	理学研究科 物理学専攻
〃	小田原厚子	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	川崎猛史	統計物理	D3センター 大規模計算科学研究部門
〃	金展	極限科学	産業科学研究所 量子ビーム物理研究分野
〃	顧彦瑠	極限科学	産業科学研究所 量子ビーム物理研究分野
〃	小林信之	原子核実験	核物理研究センター データ収集基盤室
〃	佐藤亮介	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	佐野孝好	プラズマ物理学	レーザー科学研究所 理論・計算科学研究部門
〃	塩貝純一	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	嶋達志	原子核実験	核物理研究センター 極稀現象研究基盤室
〃	鈴木剛	光物性物理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	Keith M. Slevin	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	高田真太郎	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	竹森那由多	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	嶋海康雄	強磁場物性	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	Luca Baiotti	宇宙物理学	インターナショナルカレッジ
〃	藤田高史	物性物理学	産業科学研究所 量子システム創成研究分野
〃	堀田智明	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	増渕達也	素粒子実験	理学研究科 物理学専攻
〃	三島賢二	原子核実験	核物理研究センター 極稀現象研究基盤室
〃	山口哲	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	吉田賢市	原子核理論	核物理研究センター 核物理理論研究部門
〃	吉田斉	核・素粒子実験	理学研究科 物理学専攻
〃	柳善永	原子核実験	核物理研究センター データ収集基盤室
特任准教授	郡英輝	原子核実験	核物理研究センター
講師	神田浩樹	加速器物理学	核物理研究センター 加速器研究部門
〃	依田哲彦	加速器物理学	核物理研究センター 加速器研究部門
〃	Morace Alessio	レーザー核融合	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
助教	上田浩平	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	大橋琢磨	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	金子竜也	物性理論	理学研究科 物理学専攻
〃	河井洋輔	宇宙地球化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻

職名	氏名	分野	所属
助教	木田孝則	強磁場物性	理学研究科 附属先端強磁場科学研究センター
〃	後藤郁夏人	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	阪上朱音	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	佐藤朗	素粒子実験物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	清水俊	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	菅谷頼仁	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	鈴木智和	原子核実験	放射線科学基盤機構
〃	白鳥昂太郎	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	蔣男	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	曾我部紀之	原子核理論	理学研究科 物理学専攻
〃	多賀光太郎	物性物理学	産業科学研究所 量子システム創成研究分野
〃	田中純貴	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	田中実	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	友野大	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	中村拓人	物性物理学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	濱田佑	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	廣瀬穰	高エネルギー物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	深井利央	物性物理学	産業科学研究所 量子システム創成研究分野
〃	深谷英則	素粒子論	理学研究科 物理学専攻
〃	福田航平	宇宙地球化学	理学研究科 附属フォアフロント研究センター
〃	水谷圭吾	原子核実験	核物理研究センター 核物理実験研究部門
〃	三原基嗣	原子核実験	理学研究科 物理学専攻
〃	村川寛	物性物理学	理学研究科 物理学専攻
〃	村瀬功一	原子核理論	理学研究科 物理学専攻
〃	吉田数貴	原子核理論	核物理研究センター 核物理理論研究部門

## 化 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

○印はAコース長を示す。

※印はBコース長を示す。

Aコース（無機および物理化学）

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	○赤 井 恵	表 面 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	石 川 直 人	無 機 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	上 田 貴 洋	吸 着 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	岡 田 美智雄	粒 子 ビ ー ム 化 学	放射線科学基盤機構
〃	奥 村 光 隆	量 子 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	☆笠 松 良 崇	放 射 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	坂 本 雅 典	金 属 有 機 融 合 材 料	産業科学研究所 第二研究部門(材料・ビーム科学系)
〃	谷 口 正 輝	1 分 子 科 学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	豊 嶋 厚 史	放 射 線 科 学	放射線科学基盤機構
〃	中 澤 康 浩	物 性 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	中 野 元 裕	凝 縮 系 物 理 化 学	理学研究科 附属熱・エントロピー科学研究センター
〃	舩 橋 靖 博	生 物 無 機 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	水 口 賢 司	計 算 生 物 学	蛋白質研究所 蛋白質ネットワーク生物学研究部門
〃	水 谷 泰 久	生 物 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	山 口 和 也	生 物 無 機 化 学	全学教育推進機構
〃	吉 成 信 人	錯 体 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	吉 村 崇	放 射 化 学	放射線科学基盤機構
招へい教授	正 井 博 和	非線形光学材料化学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所関西センター
〃	清 林 哲	電池システム化学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所関西センター
〃	秋 田 知 樹	材 料 化 学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所関西センター
准 教 授	坏 広 樹	物 性 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	大 江 一 弘	放 射 化 学	放射線科学基盤機構
〃	加 藤 浩 之	表 面 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	蔡 徳 七	反 応 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	筒 井 真 楠	1 分 子 科 学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	橋 本 浩 介	計 算 生 物 学	蛋白質研究所 蛋白質ネットワーク生物学研究部門
〃	福 田 貴 光	無 機 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	宮久保 圭 祐	構 造 物 理 化 学	総合学術博物館
〃	宮 崎 裕 司	凝 縮 系 物 理 化 学	理学研究科 附属熱・エントロピー科学研究センター
〃	山 中 秀 介	量 子 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	吉 田 将 己	錯 体 化 学	理学研究科 化学専攻
講 師	石 川 春 人	生 物 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	金 子 政 志	放 射 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	野 尻 正 樹	生 物 無 機 化 学	理学研究科 化学専攻
助 教	ANAS SANTRIA	無 機 化 学	理学研究科 化学専攻
〃	潤 井 泰 斗	生 物 物 理 化 学	理学研究科 化学専攻

職名	氏名	分野	所属
助教	G00 Zi Lang	錯体化学	理学研究科 化学専攻
〃	佐野 奎斗	金属有機融合材料	産業科学研究所 第二研究部門 (材料・ビーム科学系)
〃	風間 裕行	放射化学	理学研究科 化学専攻
〃	川上 貴資	量子化学	理学研究科 化学専攻
〃	小本 祐貴	1分子科学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	諏訪 雅頼	分析化学	理学研究科 化学専攻
〃	高城 大輔	凝縮系物理化学	理学研究科 附属熱・エントロピー科学研究センター
〃	田中 裕行	1分子科学	産業科学研究所 産業科学ナノテクノロジーセンター
〃	長尾 知生子	計算生物学	蛋白質研究所 蛋白質ネットワーク生物学研究部門
〃	山下 智史	物性物理化学	理学研究科 化学専攻
〃	三坂 朝基	反応物理化学	理学研究科 化学専攻
〃	山本 茂樹	分析化学	理学研究科 化学専攻
〃	渡部 誠也	表面化学	理学研究科 化学専攻
〃	渡邊 玲子	計算生物学	蛋白質研究所 蛋白質ネットワーク生物学研究部門

## Bコース (有機化学)

職名	氏名	分野	所属
教授	※梶原 康宏	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	兼田 加珠子	放射線科学	放射線科学基盤機構
〃	樺山 一哉	放射線化学生物学	放射線科学基盤機構
〃	久保 孝史	構造有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	齊藤 尚平	機能分子材料	理学研究科 化学専攻
〃	鈴木 孝禎	複合分子化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	豊田 岐聡	質量分析学	理学研究科 附属フォアフロント研究センター
〃	西村 多喜	膜システム生物学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	難波 康祐	生体分子化学	理学研究科 化学専攻
〃	北條 裕信	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	山口 哲志	分子システム創成化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
特任教授	島本 啓子	構造生命化学	サントリー生命科学財団 生物有機科学研究所
招へい教授	上垣 浩一	酸素構造機能学	近畿大学農学部
〃	乾 達也	ペプチド化学	(株)ペプチド研究所
〃	吉矢 拓	ペプチド化学	(株)ペプチド研究所
〃	山本 敏弘	ペプチド化学	(株)ペプチド研究所
准教授	下山 敦史	天然物有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	西内 智彦	構造有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	大塚 洋一	質量分析学	理学研究科 物理専攻
講師	山下 健一	物性有機化学	理学研究科 化学専攻
〃	岩田 隆幸	生体分子化学	理学研究科 化学専攻
助教	大西 真駿	膜システム生物学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	須賀 健介	機能分子材料	理学研究科 化学専攻
〃	武居 俊樹	蛋白質有機化学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	高田 悠里	複合分子化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	朱 浩	分子システム創成化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	平尾 宏太郎	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	真木 勇太	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	Milawati Hersa	有機生物化学	理学研究科 化学専攻
〃	山下 泰信	複合分子化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
〃	山平 真也	分子システム創成化学	産業科学研究所 第三研究部門 (生体・分子科学系)
特任助教	高松 正之	天然物有機化学	理学研究科 化学専攻
招へい研究員	阿部 純平	有機生物化学	理学研究科 化学専攻

## 生 物 科 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	石 谷 太	生 体 統 御 学	微生物病研究所 環境応答研究部門
〃	石 原 直 忠	細 胞 生 命 科 学	理学研究科 生物科学専攻
〃	岩 永 史 朗	寄 生 虫 学	微生物病研究所 難治感染症対策研究センター
〃	上 田 昌 宏	1 分 子 生 物 学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	岡 田 眞 里 子	細 胞 シ ス テ ム	蛋白質研究所 蛋白質ネットワーク生物学研究部門
〃	小布施 力 史	染色体構造機能学	理学研究科 生物科学専攻
〃	加 藤 貴 之	電子線構造生物学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	樺 山 一 哉	放射線化学生物学	放射線科学基盤機構
〃	栗 栖 源 嗣	蛋 白 質 結 晶 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	黒 田 俊 一	生体分子反応科学	産業科学研究所 第3研究部門
〃	古 賀 信 康	蛋 白 質 デ ザ イン	蛋白質研究所 蛋白質先端データ科学研究センター
〃	昆 隆 英	細 胞 構 築 学	理学研究科 生物科学専攻
〃	近 藤 侑 貴	植物細胞運命制御	理学研究科 生物科学専攻
〃	志 賀 向 子	比較神経生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	篠 原 彰	ゲノム-染色体機能学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	嶋 川 銀 河	植 物 生 理 学	理学研究科 生物科学専攻
〃	☆進 藤 麻 子	器 官 形 態 制 御 学	理学研究科 生物科学専攻
〃	高 木 淳 一	分 子 創 製 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	中 川 拓 郎	分 子 遺 伝 学	全学教育推進機構 (兼) 理学研究科 生物科学専攻
〃	廣 瀬 哲 郎	R N A 生 体 機 能 学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	古 川 貴 久	分 子 発 生 学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	古 屋 秀 隆	動 物 形 態 学	理学研究科 生物科学専攻
〃	北 條 裕 信	蛋 白 質 有 機 化 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	水 口 賢 司	計 算 生 物 学	蛋白質研究所 蛋白質ネットワーク生物学研究部門
〃	山 下 敦 子	生 物 分 子 認 識 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
招へい教授	小 田 広 樹	分 子 進 化 学	株式会社 生命誌研究館
准 教 授	有 賀 隆 行	1 分 子 生 物 学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	有 森 貴 夫	分 子 創 製 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	飯 田 溪 太	細 胞 シ ス テ ム	蛋白質研究所 蛋白質ネットワーク生物学研究部門
〃	今 井 薫	発 生 生 物 学	理学研究科 生物科学専攻
〃	岡 島 俊 英	生体分子反応科学	産業科学研究所 第3研究部門
〃	奥 村 宣 明	体内機能統合蛋白質学	蛋白質研究所 附属蛋白質次世代構造解析センター
〃	川 本 晃 大	蛋 白 質 結 晶 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	久保田 弓 子	核 機 能 学	理学研究科 生物科学専攻
〃	鈴 木 団	蛋 白 質 物 理 生 物 学	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	茶 屋 太 郎	分 子 発 生 学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	戸 田 聡	細胞機能デザイン	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門
〃	富 永 恵 子	比 較 生 理 学	生命機能研究科 生命機能専攻

職名	氏名	分野	所属
准教授	中井正人	オルガネラバイオロジー	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	長尾恒治	染色体構造機能学	理学研究科 生物科学専攻
〃	橋本浩介	計算生物学	蛋白質研究所 蛋白質ネットワーク生物学研究部門
〃	久富修	生物物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	宮ノ入洋平	機能構造計測学	蛋白質研究所 附属蛋白質次世代構造解析センター
〃	古郡麻子	ゲノム-染色体機能学	蛋白質研究所 蛋白質高次機能学研究部門
〃	古谷朋之	植物細胞運命制御	理学研究科 生物科学専攻
〃	松木陽	機能構造計測学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
〃	藪田紀一	発癌制御学	微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター
〃	山崎智弘	RNA生体機能学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	山下栄樹	高輝度放射光結晶解析	蛋白質研究所 附属蛋白質次世代構造解析センター
〃	和田洋	生体分子反応科学	産業科学研究所 第3研究部門
〃	Sandhya P. Tiwari	生体分子モデリング&ダイナミクス	蛋白質研究所 蛋白質先端データ科学研究センター
特任准教授	中村昇太	ゲノム情報解析学	微生物病研究所 附属遺伝情報実験センター
招へい准教授	黒田純平	分子進化学	株式会社 生命誌研究館
〃	澁谷大輝	生命継承システム	国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター
〃	古田健也	生体分子機械設計学	国立研究開発法人 情報通信研究機構
〃	LI-KUN PHNG	血管形成研究学	国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター
講師	二宮賢介	RNA生体機能学	生命機能研究科 生命機能専攻
〃	濱中良隆	比較神経生物学	理学研究科 生物科学専攻
〃	安岡有理	器官形態制御学	理学研究科 生物科学専攻
〃	山本遼介	細胞構築学	理学研究科 生物科学専攻
助教	浅田哲弘	植物・形態学	理学研究科 生物科学専攻
〃	磯部真也	染色体構造機能学	理学研究科 生物科学専攻
〃	伊藤佑	植物細胞運命制御	理学研究科 生物科学専攻
〃	今井洋	細胞構築学	理学研究科 生物科学専攻
〃	小笠原絵美	細胞生命科学	理学研究科 生物科学専攻
〃	加藤壮一郎	器官形態制御学	理学研究科 生物科学専攻
〃	高田忍	植物生長生理学	理学研究科 生物科学専攻
〃	武田啓佑	細胞生命科学	理学研究科 生物科学専攻
〃	久山尚紀	動物形態学	理学研究科 生物科学専攻
〃	松岡里実	1分子生物学	生命機能研究科 生命機能専攻

## 高 分 子 科 学 専 攻

☆印は専攻長を示す。

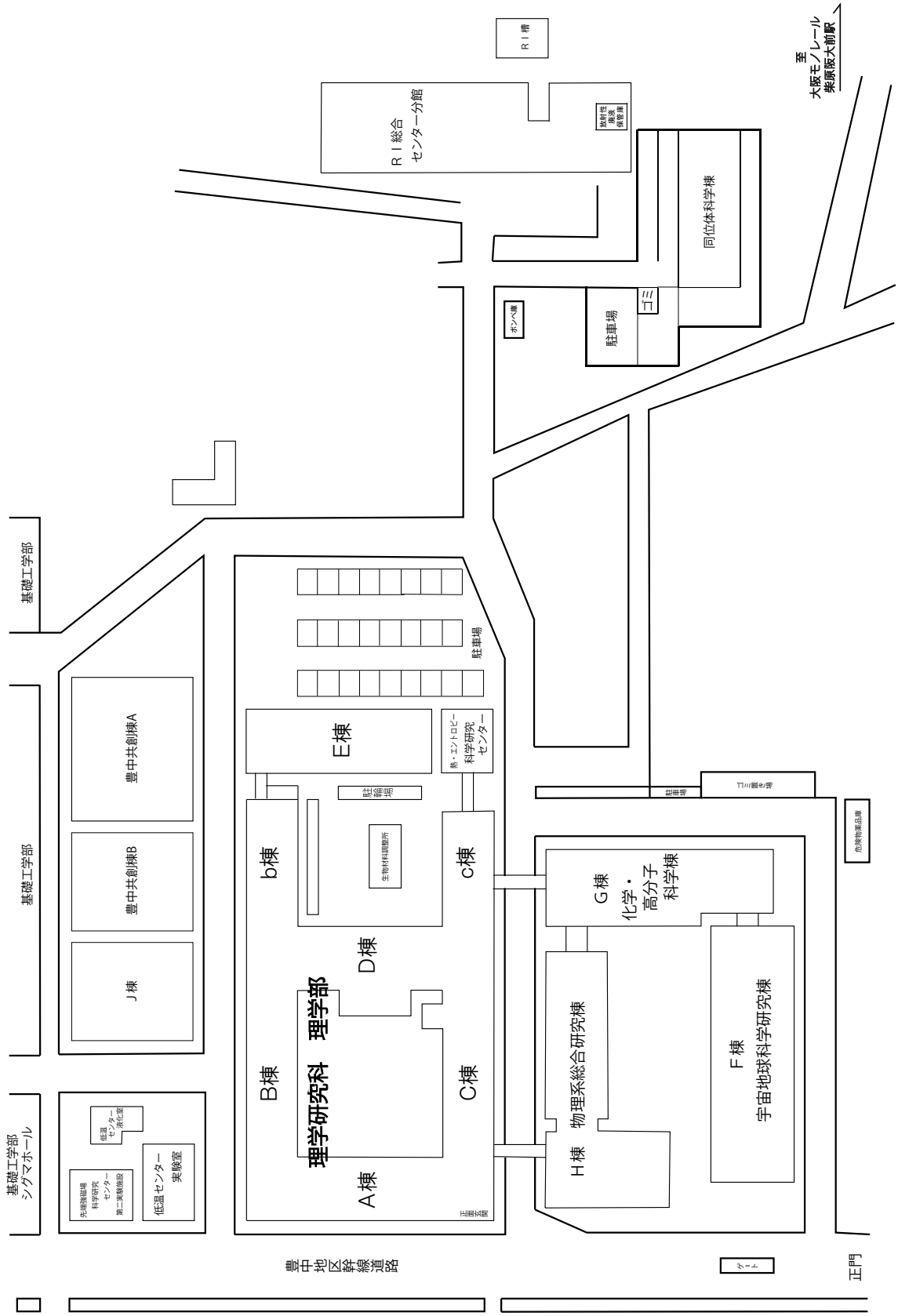
職 名	氏 名	分 野	所 属
教 授	今 田 勝 巳	生体高分子科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	鬼 塚 清 孝	高分子反応化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	加 藤 貴 之	構 造 生 物 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	栗 栖 源 嗣	生体高分子機能論	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	☆高 島 義 徳	高分子材料科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	寺 尾 憲	高 分 子 溶 液 学	理学研究科 高分子科学専攻
”	寺 島 崇 矢	高分子合成化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	橋 爪 章 仁	高分子精密科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	松 宮 由 実	高分子動的物性	理学研究科 高分子科学専攻
”	山 口 浩 靖	超分子機能化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	山 本 仁	環 境 安 全 化 学	安全衛生管理部
准 教 授	浦 川 理	高分子材料科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	岡 村 高 明	高分子反応化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	金 澤 有 紘	高分子合成化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	川 本 晃 大	生体高分子機能論	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	高 橋 倫 太 郎	高 分 子 溶 液 学	理学研究科 高分子科学専攻
”	山 下 栄 樹	生体高分子構造論	蛋白質研究所 蛋白質次世代構造解析センター
講 師	川 口 辰 也	高分子構造物性論	理学研究科 高分子科学専攻
助 教	大 出 真 央	構 造 生 物 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	小 林 裕 一 郎	超分子機能化学	理学研究科 高分子科学専攻
”	高 崎 寛 子	構 造 生 物 学	蛋白質研究所 蛋白質構造生物学研究部門
”	竹 川 宜 宏	生体高分子科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	中 畑 雅 樹	高分子精密科学	理学研究科 高分子科学専攻
”	山 岡 賢 司	高分子材料科学	理学研究科 高分子科学専攻

## 宇宙地球科学専攻

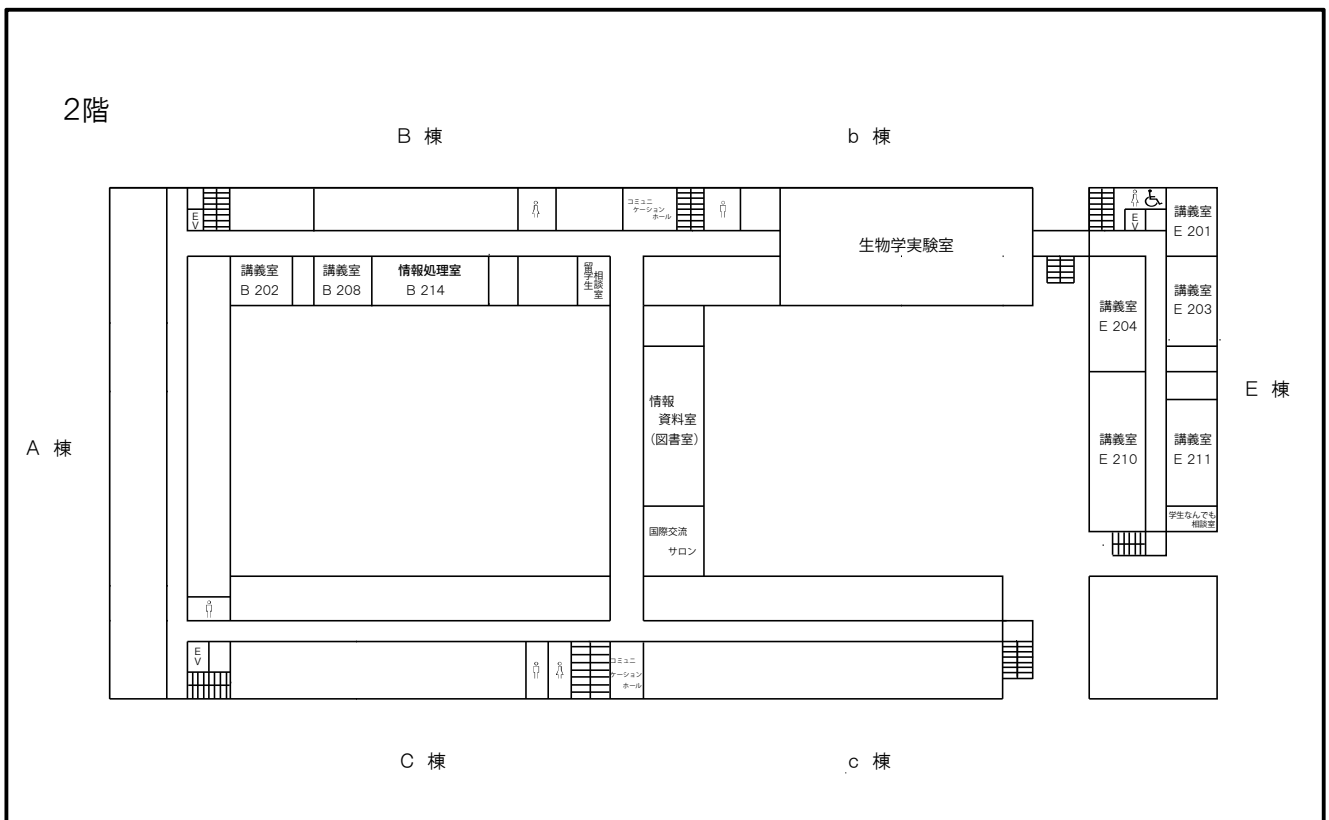
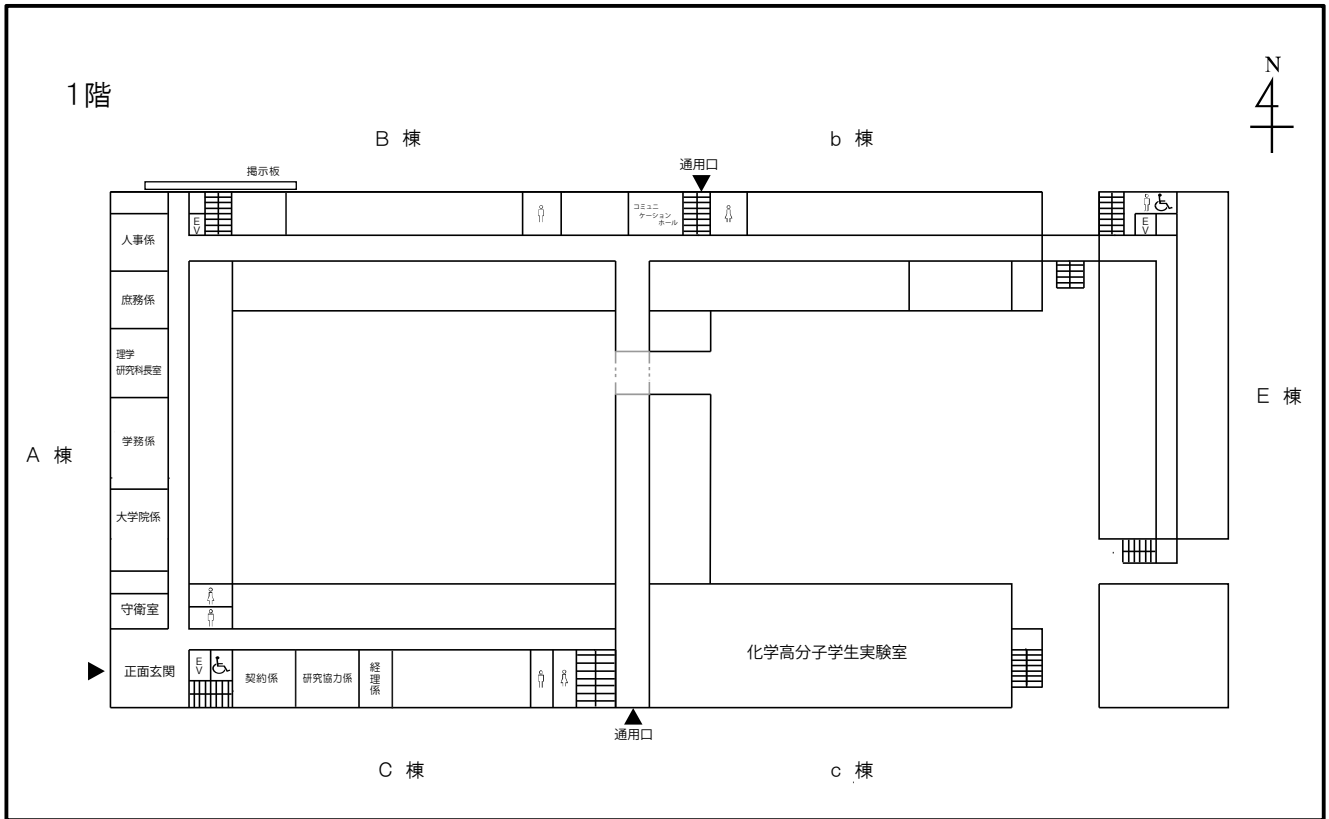
☆印は専攻長を示す。

職名	氏名	分野	所 属
教授	☆桂木 洋光	ソフトマター地球惑星物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	近藤 忠	惑星内部物質学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	住 貴宏	赤外線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	土屋 旬	理論鉱物物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	寺田 健太郎	宇宙地球化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	長峯 健太郎	宇宙物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	波多野 恭弘	非平衡物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	松尾 太郎	生命惑星進化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	松本 浩典	X線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
准教授	石河 孝洋	理論鉱物物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	江端 宏之	ソフトマター地球惑星物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	大高 理	高圧物性学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	小高 裕和	X線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	坂和 洋一	レーザー宇宙物理	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
〃	佐野 孝好	レーザー宇宙物理	レーザー科学研究所 高エネルギー密度科学研究部門
〃	西 真之	惑星内部物質学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	増田 賢人	赤外線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	横田 勝一郎	惑星科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	山中 千博	地球物性学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	湯川 諭	物性理論	理学研究科 宇宙地球科学専攻
助教	桂 誠	地球物理化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	河井 洋輔	宇宙地球化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	川室 太希	X線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	木村 淳	固体惑星科学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	熊沢 譲	生命惑星進化学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	境家 達弘	惑星内部物質学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	鈴木 大介	赤外線天文学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	田之上 智宏	非平衡物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻
〃	仲井 文明	ソフトマター地球惑星物理学	理学研究科 宇宙地球科学専攻

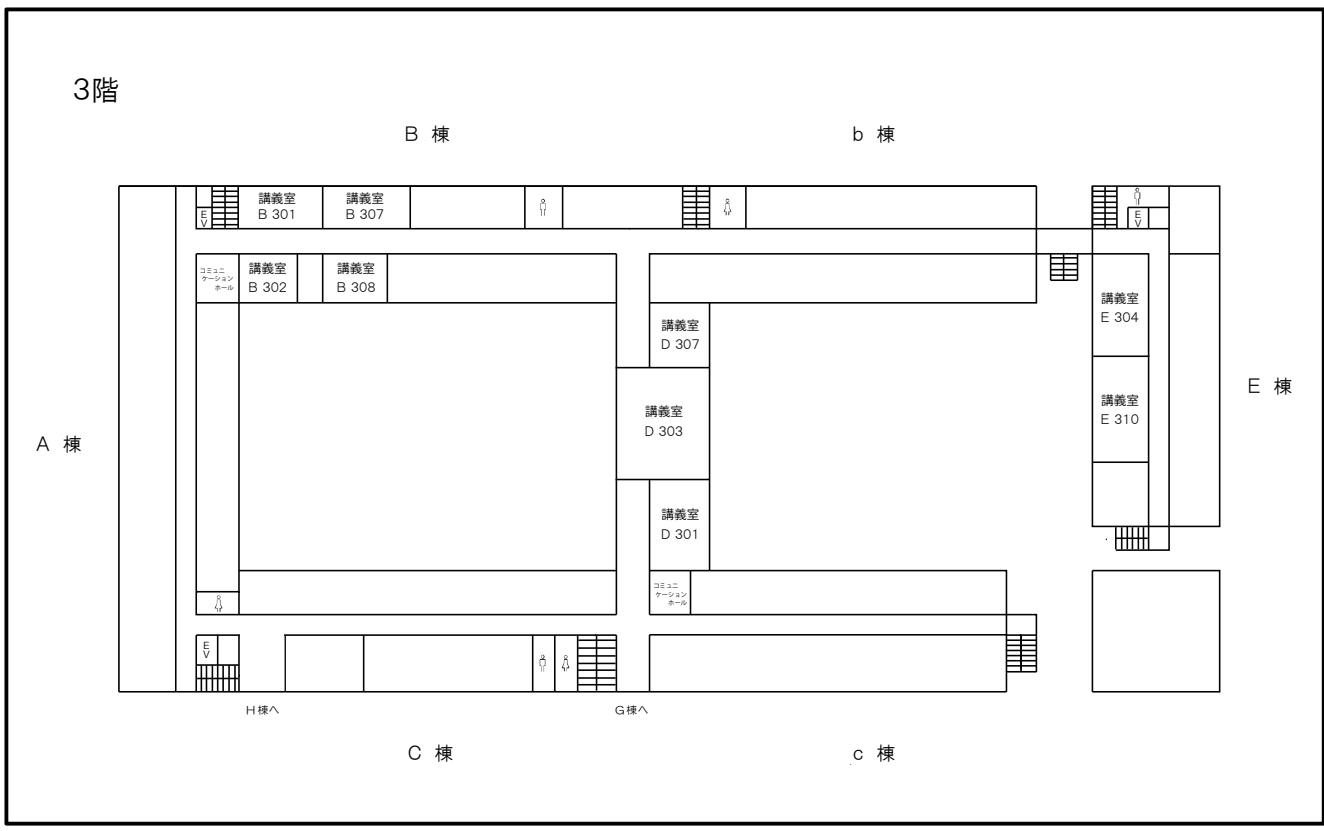
# 理学研究科・理学部 建物配置図



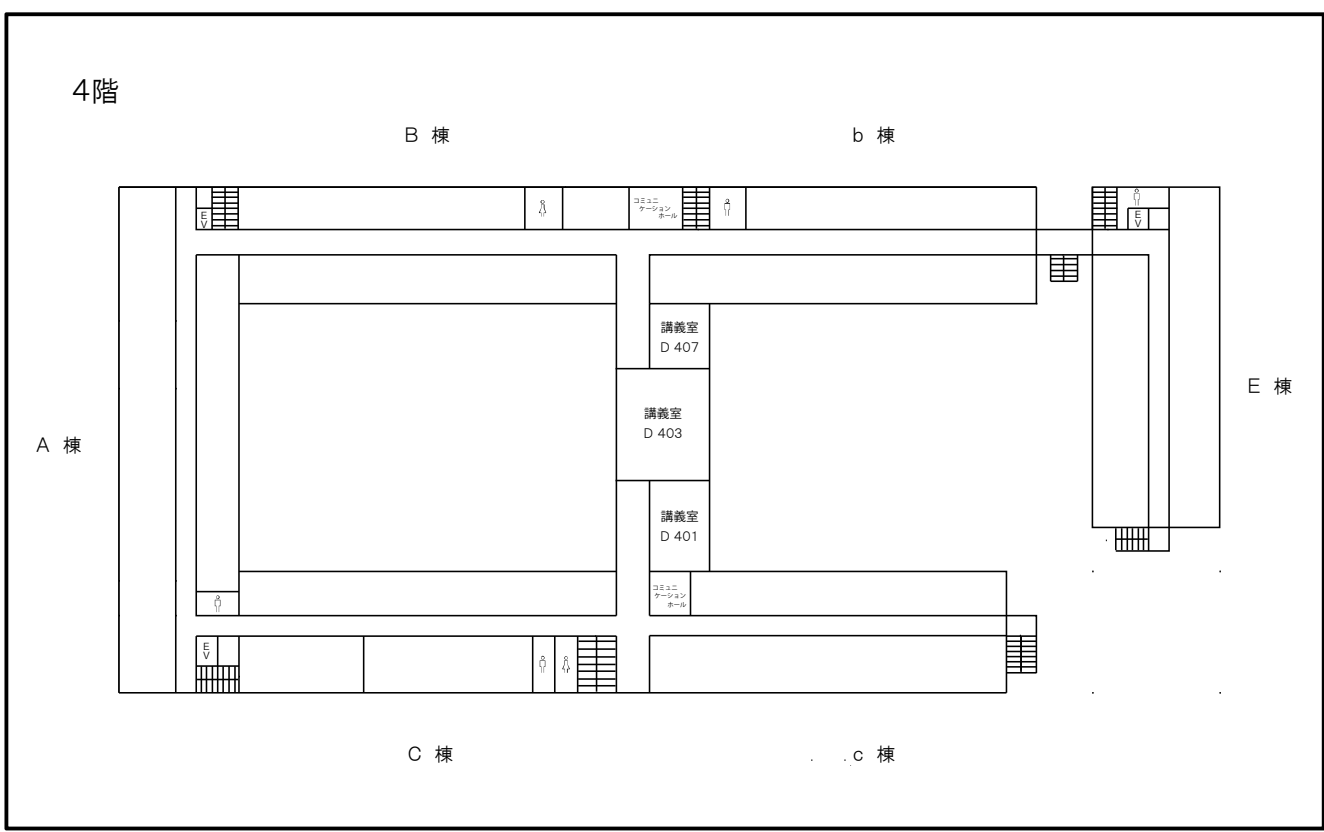
# 講義室等案内図



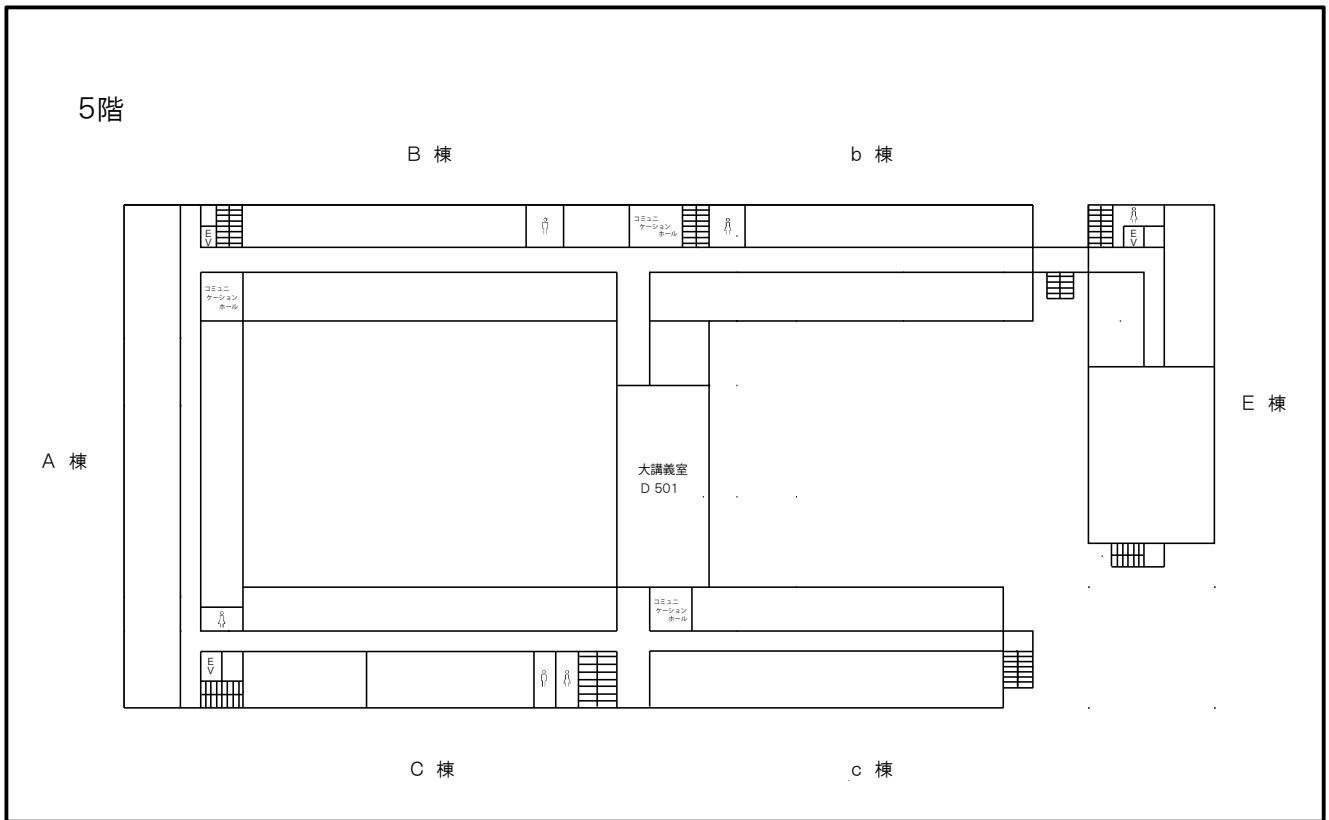
3階



4階

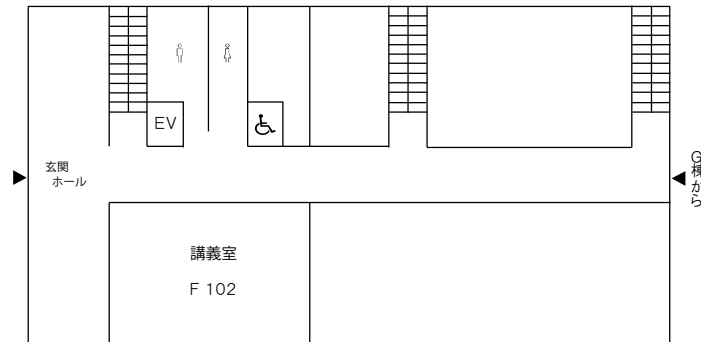


5階

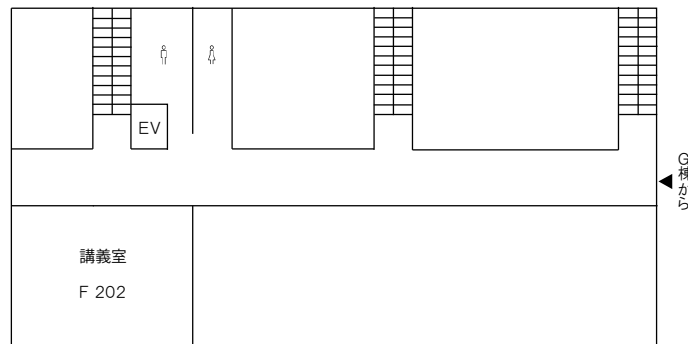


F棟

1階



2階



大阪大学大学院理学研究科  
〒560-0043 豊中市待兼山町1番1号  
電話 06 (6850) 6111 (代表)  
<https://www.sci.osaka-u.ac.jp>

